

La Campanella

ら・かんぱねら

「夢があれば」 生きていく

～映画完成までの全記録～



映画「ら・かんぱねら」を支援する会

海苔養殖という

過酷な仕事の傍ら

ピアノを練習し続け

夢を叶えた男がいた。

映画「ら・かんぱねら」を支援する会

会長 陣内 芳博



記録誌発刊に当たって

編集長 北村 和秀

もし、この出会いが無かつたら、映画製作はなかっただろうと思った。それに気付いたのは、映画「ら・かんぱねら」の完成試写を東京調布市にある角川大映スタジオで鑑賞した時でした。

映画のメガホンを握った鈴木一美監督が、偶然にもYouTubeから聞こえてくるピアニストのフジコ・ヘミングさんと海苔師の徳永義昭さんが、リストの難曲「ラ・カンパネラ」を協奏しているシーンが眼に入った時、監督は感動で身が震え「映画にしたい」と思ったと話しました。そして、直ぐに行動を起こし「夢があれば」必ず叶うと川副町の徳永さんの自宅へ！直ぐに快諾して頂いたそうです。しかし、不安がありました。海苔養殖の事を知らないままでは構成も出来ないと、有明海の海苔養殖の実態をつぶさに調べるため体験を積み重ね台本を仕上げて行きました。併せて関係各所へ想いを伝えながら協力を求めて3年が経ったころ、映画製作のために物心両面からサポートしてくれる川崎賢朗さん、川原常宏さん、鐘ヶ江留美子さんの3人を紹介され、次のステップへと発展したのです。

その通り3人は素早く行動に移し、友人や地元財界の人たちを取り込み映画「ら・かんぱねら」を支援する会を発足させます。映画作りへの偶然が夢に挑戦する一歩を踏み出し「佐賀モデル」とまで言われる程、県民からの支援の輪が拡大して行きます。一方、台本も決定稿が出来上がり、映画製作スタッフや役者が次々に佐賀入りし、クランクインを待つばかりとなり、支援する会のメンバーも期待に胸が膨らんできます。県内のロケ地では、有明海の海苔養殖のシーンから海苔小屋までも準備を完璧に行い、撮影が深夜に及んだら温かいスープでひとときの安らぎを演出して場を慰める。佐賀人らしい献身的で心からのおもてなしをする姿です。

最大の功績は、支援する会の全員が協賛金を集めに東奔西走し、企業や個人などから善意の金が集まり、エンドロールにその活動の結果が映し出される。また、上映が始まれば大盛況の中、案内係を積極的に手伝い混乱なく整理していく。この絶え間ない努力を総じて「佐賀モデル」と言い、他の地方での事例はありません。

それに答えるように、役者の皆さんが頑張ります。徳田時生役の伊原剛志さんは、主役が決まった9月から毎日6時間以上のピアノのレッスンに挑み、6ヶ月後のクランクインには「ラ・カンパネラ」を完璧に弾けるようになってました。その上、海苔養殖で難しい支柱立てを素手で実演する。また、佐賀弁のセリフは完全にマスターする。役者魂の一端を垣間見た時、伊原さんの代表作になる気がしました。

徳田家を取り巻く役者も盛り立てた。妻役の南果歩さんは演技が素晴らしい、時々アドリブが飛び出すほど役作りに徹され、佐賀の母の姿そのものを演じられ、息子役の緒形敦さんと父役の不破万作さんも流ちょうな佐賀弁で対応、方言指導の大島一樹さんと江口美智子さんを驚かせました。

また、脚本には謎のピアニストが登場し、現実と違う展開になるが大空眞弓さんの演技力には、ただただ脱帽するばかり。ブラボーと叫びたい。「夢があれば、生きていける」この言葉が鑑賞をした人たちの人生そのものを映し出し、感銘を受け「新たな挑戦は、年齢に関係ない」ことを教えてくれた映画です。有明海の自然と戦う海苔師が、周りから無謀だと言われてもピアノを弾き続ける「夢があれば」必ず叶えられると、本気で「夢」求め、身を持って証明したもので、そこには夫婦の愛があり、家族の愛があるホームドラマで時間の経つのを忘れます。

ラストシーンは、無骨な手で「夢」を掴んだ男が、妻のために無心で奏でる「ラ・カンパネラ」11分に、この映画の素晴らしさを改めて感じました。後は、涙でスクリーンが見えなくなったり。感動の真実は、一人のものではなく映画に携わった全ての人たちの汗と努力と行動の賜物だと思います。これらの記録は私たちの遺産として残し、次の世代に受け継がれるものと確信し、佐賀の地に永久保存する事が必要だと考え発刊する事に致しました。

はじめに

事務局長・川崎賢朗、事務長・川原常宏、デスク・鐘ヶ江留美子

この記録誌の作成にあたり、この映画製作のために何が私たち3人を突き動かしたのだろうかと改めて思い起こしてみました。私たちの身近な存在でもある徳永義昭さんをモデルにした映画の話があることを耳にしたとき、ある種の疑いの様なものを抱いていました。そう思ったのは、奇しくも3人とも同じでした。そんな私たちが、何故この映画に関わり始めたのでしょうか。そのきっかけになったのは三人三様でした。

(川崎)ある日の事、友人の紹介で「夢があれば」と言う脚本持参で鈴木という男が訪ねて来ました。数年前から八女に住んでいて、本来プロデューサーだけど今回の映画では監督をするという。手伝って貰えるものだという確信で熱弁を振るう、本当に厚かましい男である。友人から映画の話がある事は聞いていました。友人とは海苔漁師でリストの「ラ・カンパネラ」を独学でマスターした親友、徳永義昭くんの事である。彼とは同級生で小中高と一緒に、海苔漁師になってからは、最も信頼が置けて、腕を競いあう強烈なライバルでもある大親友です。だから家族の事、ピアノを始めたきっかけも、上達して行くさまも、全部知っていました。義昭くんの奮闘、努力の様子が映画になるなら、封切りの日には、いの一番で観るつもりだったのです。それがまさか、支援する会の事務局長としてどっぷり関わる事になるなんて夢にも思っていませんでした。鈴木監督は、2年間脚本を書き直しながら頭を縦に振らない私の家に幾度となく尋ねて来られました。僕は逃れようと1番信頼の置けて映画に興味がありそうな友人川原君を紹介しましたが、台本を読んだ川原君は大乗り気になり、今度は鈴木監督と2人で僕を説得し始めたのでした。その時1番背中を押したのが川原君の奥さん、麻子さんでした。ウチの旦那と一緒に映画作をして欲しいと説得され参加する事を決断しました。今は、その決断が間違いではなく、むしろ人生で一番充実した時間を過ごす事が出来たと感謝しています。

(川原)大親友であり大きな信頼を寄せている海苔師、川崎賢朗さんの紹介で鈴木一美監督とお会いすることになりました。そこで渡された初めて見る台本、そして、徳永さんをモデルにした映画ということの興味もあり、すぐに台本に目を通しました。読み進めていく中で心が動かされ最後には涙していました。「この映画が本当に完成し、映画館の大スクリーンで佐賀や有明海の漁場の風景や海苔養殖の様子が映しだされたら、凄いことだ！多くの人々に佐賀の魅力を伝えることが出来る！」との想いがきっかけとなり、この映画に大きく関わることになりました。

(鐘ヶ江)鈴木監督よりこのお話をいただいた時、私は主人を亡くし人生が180度変わるほどの出来事に直面し、普通の生活が出来ずにいました。そんな私に鈴木監督は、「寝る時間も削り、土日もなく、毎日帰宅が遅くなると思う。だけど人生80年の内たったの2年、そんな日々があっても良いと思うし、完成した時の感動は言葉では言い表せないものがあるから」と。そこで、1年放っていた台本を読んでみたところ、驚くことに活字から情景や音、色や匂いまで伝わってきて「ら・かんぱねら」に入り込んでしまいました。その夜、私はすぐ子供達に相談。「このままだと先が心配、絶対やった方が良い」と、二人で背中を押してくれました。これが私が映画に関わるきっかけです。

この様に、それぞれ異なったきっかけや想いを持った3人が、鈴木一美監督から引き寄せられる様に集まり、2023年6月監督を含む4人の想いがひとつになりました。ここからこの映画製作実現のために動き出し、各所への挨拶まわりが本格的に始まりました。しかし、製作費1億5千万円という莫大なお金を集めるためには、私たちだけがどんなに頑張っても叶わないこともわかっていました。行政はもちろんのこと、漁業、農業、商工業や各種団体、そして県民の多くの皆さまの力を借りないと実現することが難しいことを。その後、組織づくりへと。

皆さんは、エンドロールに止めどなく映し出される、事業所や団体、そして個人など様々な方のお名前をご覧いただいたでしょうか。その他に本当に多くの皆さまの善意の力が集まり、この映画を完成しました。まさに佐賀県民の映画の誕生です！

ここに至るまで私たちは、この映画にある不思議な「縁」や「運」を感じてきました。商工会議所の陣内会長へ相談するきっかけとなったのも「縁」が導いてくれました。いろんな場面で不思議な「縁」がつながり、立ちはだかる壁を間一髪で乗り越え、結果オーライと思うような「幸運」な出来事も数えきれないほど。「この映画持ってるよね！」という言葉を何度も口にしたことか。

また、協賛金の振込口座がやっと開設し、撮影を2ヶ月後に控えた2024年1月のこと、この映画の幹事会社となる京映アーツの鈴村社長(現在、会長)と陣内会長を含む私たちは、大きな決断をすることとなりました。撮影チームは3月からの撮影に向け既に半年前からスケジュール調整を行い、万全の準備を進めていましたが、協賛金を集めための郵便振替口座の取得に3ヶ月もの時間を要し、資金集めもまだこれから。この状況でこのまま映画製作を進めて行けるのか、半年もしくは1年延期するべきではないかという、崖っぷちでの最終判断を強いられました。結果、京映アーツの鈴村社長の英断に陣内会長と私たちも賛同し、映画製作を進めることになりました。

この時の紙一重の判断もあり映画が実現に向かって動き出したことも、記録に残しておくべき重要なターニングポイントでした。もしあの時、延期の判断がなされていたら、おそらくこの映画は生まれていなかつたことでしょう。

この様に、これまでに前例が無い様な状況下で、この映画は新たな地域発の映画製作の「佐賀モデル」として進みはじめ、人々を巻き込みながら地域へ浸透して行きました。そこには、支援する会の仲間たちが、それぞれの仕事の合間や休日を削り、資金集めから準備、撮影、そして上映に至るまで時間を惜しずサポートを行ってくれました。その結果、撮影スタッフやキャストそして地域がひとつになって映画が完成したのです。そこには、私たちのふるさとの今の風景が映像として刻み込まれ、今後何十年、何百年と残り続けていきます。皆さんのお名前も同じようにしっかりと刻み込まれています。この映画が佐賀を代表する映画として後世に残り続けてくれることを願っております。そして、この「佐賀モデル」が、今後の地域発の映画製作の一助となれば幸です。

おわりに、私たちはこの映画に関わることができたことで、かけがえのない多くの仲間たちと出会えました。この仲間たちひとり一人が、この映画「ら・かんぱねら」の陰の立役者でもあります。

みんなで作り上げた映画です

映画「ら・かんぱねら」のモデル
海苔師 徳永 義昭・千恵子

徳永義昭プロフィール

昭和35年、佐賀市川副町生まれ。昭和54年、家業の海苔養殖業に就き、海苔師となる。海苔加工業「徳永水産」を経営。特殊特定小型船舶操縦一級免許及び無線局免許を取得。現在は、妻・長男・長男の妻・孫の5人家族。

度々マスコミに取り上げられ全国に知れ渡るようになった現在も海苔師の仕事とピアノを両立しながら、小・中学校などの教育現場や講演会で「ラ・カンパネラ」を披露。さらに手品やトークをまじえてのコンサート活動を展開。「新たな挑戦に年齢は関係ない、夢は追いかければつかむことができる」と、更なる夢を追いかけている。



映画を作つて頂いた皆さんの努力で、この映画が完成したと気付いたとき、込み上げるもの全身で感じ取りました。これまでの出来事が走馬灯のように思い出され、映画のシンごとに皆さんたちの努力がビシビシと伝わってきました。

改めて、製作スタッフや豪華な俳優陣、そして支援する会の皆さんのが結集した力が成したものだと思っています。本当にありがとうございました。

最初にこの映画を観た時には、この「ら・かんぱねら」は、俺がモデルの俺の映画だと思っていました。そいばってん、この映画は、支援する会の人たちが自分の仕事がありながらもボランティアで活動する姿。伊原剛志さんが猛特訓して、ピアノを吹き替えなしで演奏する、そしてマークなしで有明海での作業に打ち込んだ役者魂や南果歩さんの可憐な演技で佐賀の母親を見せて頂いたら「こい、ぜったい俺の映画じゃなか、皆さんのが作り上げた映画だ」と確信しました。

特に、全てのキャストや撮影スタッフの皆さんには、申し訳ないですが、この映画を支え、縁の下の力持ちは存在だった支援する会の皆さんのが映画だと思いました。本当に感謝しかありません。

海苔の養殖は、その時その時で頑張るしかなかとばってん、この映画を大勢の人に見て頂くためには、夏場の閑散期には、全国の色々な所を回りコンサート開いて、皆さんからチヤホヤされるように目標を持って頑張るつもりです。今後のご支援を宜しくお願ひ致します。

[千恵子さんのコメント]

主人同様、製作スタッフ、俳優の皆さん、そして支援する会の皆さんに感謝申し上げます。特に、南果歩さんには、私の役をやって頂き本当にありがとうございました。この様に素晴らしい映画になるとは思いませんでした。ありがとうございます。

映画「ら・かんぱねら」台本



映画への名義後援と推進団体



(名義後援)

佐賀新聞社
西日本新聞社
朝日新聞社
毎日新聞佐賀支局
サガテレビ
NBCラジオ
FM佐賀
ぶんぶんテレビ
えびすFM
共同通信社佐賀支局
時事通信

(推薦・推奨する団体)

佐賀県商工会議所連合会
佐賀県有明海漁協協同組合
佐賀県商工会連合会
佐賀県私立中学高等学校協会
全国町村会
佐賀県市長会
佐賀県町村会
佐賀県菓子工業組合連合会
佐賀県酒造組合
佐賀県音楽協会
佐賀新聞社
サガテレビ
東京佐賀県人会
関西佐賀県人会
福岡市佐賀県人会
JA佐賀県農協中央会
佐賀市観光協会



[佐賀] 1.31(金)~ イオンシネマ佐賀大和	[福岡] 2.21(金)~ イオンシネマ福岡	[福岡] 2.21(金)~ イオンシネマ筑紫野
[福岡] 2.21(金)~ イオンシネマ大野城	[福岡] 2.21(金)~ イオンシネマ戸畠	[熊本] 2.21(金)~ イオンシネマ熊本
[広島] 3.7(金)~ 福山駅前シネマモード	[秋田] 3.14(金)~ イオンシネマ大曲	[東京] 5.9(金)~ ユーロスペース

支援する会・県民の皆さんに感謝

映画「ら・かんぱねら」製作配給委員会

代表 鈴村 高正



プロフィール

1955年(昭和30年)生まれ
株式会社京映アーツ代表取締役会長
ゼネラルプロデューサー
装飾プロデューサー
映画功労部門で文化庁映画賞を授与

代表作

高倉健の最後の作品「あなたへ」
福井県鯖江市での「おしょりん」
八女市での「野球部員演劇の舞台に立つ」



映画スタッフとして、約半世紀、共に歩んできた鈴木一美が初監督をする事になり、製作配給委員会の代表を務める事になりました。

今回、佐賀で映画を撮るに当たって心配な点がありました。まずは、撮影のための資金の調達です。県民80万人ほどの人口でどれだけの製作資金を集められるのかということでした。不安が過る中、映画「ら・かんぱねら」を支援する会が発足し、会長に佐賀商工会議所の陣内芳博会長が就任していただき、県内の企業に訴える体制と佐賀県有明海漁業協同組合が、全面的に支援する組織が確立しました。

私事ですがクランクインの安全祈願祭の後、体調を崩し入院する事になりましたが、事務局の中心になる川崎賢朗事務局長他、支援する会のメンバーが東奔西走し、協賛金1億2000万円を集めていただくことができました。

撮影に関しても海苔漁師のほか大勢の佐賀県民の皆さん、漁船の手配からセットの準備、朝昼夕の食事、そしてエキストラ出演に至るまでオール佐賀で映画づくりが行えました。

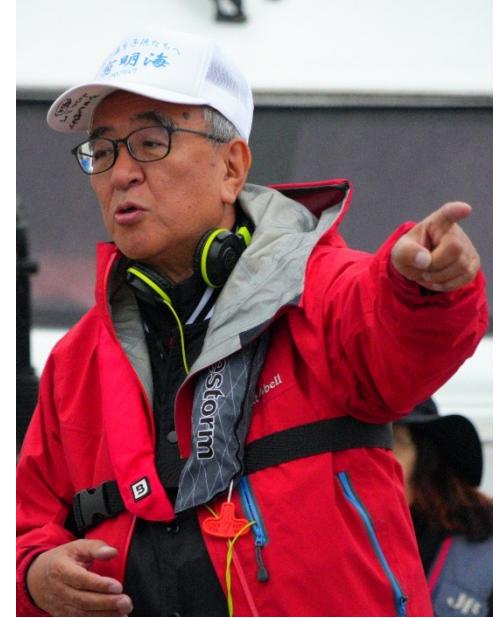
お陰様で自信を持って日本全国の皆さんに鑑賞して頂ける映画が出来上がり感謝に絶えません。ありがとうございました。

映画「ら・かんぱねら」を支援する会 記念誌に寄せて

映画「ら・かんぱねら」
監督 鈴木 一美

「ラ・カンパネラ」はイタリア語で「鐘」ということは、映画の中で紹介しましたが、さて、フランツ・リストが何故この曲を編曲したかというとは余り知られていない。

かつてクラシック音楽はヨーロッパの貴族社会だけのものだった。その後の産業革命によって社会構造が変化する中で生きたリストは、原曲の「パガニーニのバイオリンソナタが特別な人たちのもの」だったものを、大衆の為に、ピアノだけで交響楽に聞こえるよう編曲したものだった。今では原曲のパガニーニよりも編曲したリストの「ラ・カンパネラ」としての名前が世間に通っている。



リストは身長2メートル近い巨人であったらしい。当然手も大きく彼が奏でる「ラ・カンパネラ」は、さぞや豪快で迫力のあったものだったに違いない。そしてモデルの徳永義昭さんは海苔漁師の中でもひときわ指の太く大きな人である。手の大きな音楽家の情熱が時を超えてフジコ・ヘミングの演奏へと受け継がれた結果、指の太い徳永さんが「ラ・カンパネラ」を弾きたいという衝動へと繋がってきたと思われる。あくまで私の妄想ではあるがそんな因縁めいたを感じてならない。

さて、俳句に二物衝撃という技法がある。17文字の上五と下五の言葉が対極にあると、その言葉がぶつかって中七に影響を及ぼして、化学反応(窯変)が起き予期せぬ世界が出現する。徳永さんの実体験は、映画化を企画する題材としてとてもなく魅力的なものであった。俳句になぞられると上五が製作配給委員会つまりロケスタッフとキャスト、下五が映画「ら・かんぱねら」を支援する会、中七は上五と下五の衝突つまり融合によって、脚本を超えた窯変を起こして、誰もが見たこともない佐賀の映画が誕生してしまった。たぶんですが、大きな手と太い指の2人でこの映画を支援する会の皆さんを突き動かしたとしか思えません。

完成に至るまでの支援する会の皆様のご尽力は、凄まじいエネルギーとなって映画完成まで導いてくれました。まさしく二物衝撃(窯変)が映画完成どころか、この映画の寿命年数を5年から20年も延ばしてくれました。2025年1月31日イオンシネマ佐賀大和の封切日を皮切りに九州全県から北上して北海道まで到達して後、2次上映で国内のローカル映画館と同時に学校上映やホール上映へと繋がっていきます。

私はこの映画を企画した責任として、これから先時間をかけて「佐賀の映画」を国内隅々まで上映してまいります。本当に協賛金集め、撮影準備、撮影現場のエキストラや炊き出し、試写会等と惜しみないご協力をいただきました。本当にありがとうございました。

皆様のお名前はもれなくエンディングに記載されております。これを自分の関わった記念映画として記憶に留め置いていただければ幸いです。

映画が完成するまでの全記録

年表



- 2012年 徳永義昭さん(52) フジコ・ヘミングさん演奏の「ラ・カンパネラ」に感動
- 2019年 2月 3日 徳永さん(58) NHK「おはよう日本」で海苔漁師のピアニストとして紹介
- 2020年 1月 8日 徳永さん(59) TBS「あんたの夢かなえたらか」で、フジコ・ヘミングさんの前でラ・カンパネラを演奏
偶然にYouTubeで観ていた鈴木一美監督が映画の企画を立案
その後、佐賀市川副町の徳永邸を訪問、映画化に協力を要請
- 2023年(令和5年)
- 1月17日 鈴木一美監督が川原賢朗さんの紹介で川原常宏さんと初めて会う
 - 2月20日 鈴木監督、ロケ地などの視察を始める
 - 4月12日 鈴木監督の映画づくりの要請を川崎賢朗さんら了承する
 - 5月18日 以降、映画製作の要請と協賛金への理解を訴えていく
 - 5月28日 (株)アイワンへ実景撮影の協力要請
 - 6月13日 鐘ヶ江留美子さんが加わり発足の3人衆が揃う
 - 6月27日 鈴木監督、映画製作のために佐賀市に移住
 - 8月 2日 活動資金として(株)京映アーツより100万円を借用する
 - 9月 1日 JF佐賀県漁協やJA佐賀県農協などに要請活動始める
 - 9月 7日 佐賀商工会議所の陣内芳博会長へ支援する会会長の就任を正式要請
 - 9月 8日 佐賀市の坂井市長に支援を要請
 - 9月10日 鈴木監督、川崎賢朗さんの有明海での海苔養殖の作業を視察
 - 10月 3日 支援会のパンフレットを発注
 - 10月 3日 映画タイトルが「夢があれば」から「ら・かんぱねら」に変わる
 - 10月 4日 一回目のスタッフ会議を開催、協賛金1億5千万円を目指す事が確認
 - 10月16日 映画「ら・かんぱねら」を支援する会の理事会が方針を承認
その後、支援する会の発会式を開催、マスコミが大々的に報道
 - 10月23日 丸池カメラマン佐賀入りして、実景撮影を開始する
 - 10月24日 支援する会と製作スタッフとの懇親会

年表



- 10月31日 活動の拠点、支援する会事務所、リニューアル工事
11月 1日 主演の伊原剛志さんへビデオレターをお送る
12月 2日 伊原剛志さん初の佐賀入り。支援する会と懇親会
12月 4日 支援する会のポスター・カードが出来上がる
スタインウェイのピアノが見つかる
12月20日 佐賀県知事に表敬訪問
12月22日 クラウドファンディング開始
12月23日 佐賀駅などでデジタルサイネージでPRを開始
12月26日 佐賀市長表敬訪問
- 2024年(令和6年)
- 1月10日 柳川市長表敬訪問
1月12日 佐賀県庁へ支援を要請
1月17日 製作：鈴村代表と支援する会：陣内会長、事務局とのトップ会議
2月 1日 メインロケハン佐賀入り
2月 6日 海苔の入札の実景撮影
2月10日 福岡市でオーディション(2日間開催)
2月13日 サガテレビ・NHK佐賀・ぶんぶんTVへPR出演
2月14日 演出部・製作部が佐賀入り
2月23日 佐賀商エビルでオーディション(応募者500人以上／2日間開催)
3月14日 川副町海童神社で映画の安全とヒット祈願祭



- 3月17日 クランクイン・戸ヶ里漁港を皮切りに有明海での撮影が始まる
3月22日 佐賀市内のパチンコ店で大負けしたシーンの撮影
佐賀県漁協・共販センターでの親子喧嘩に仲裁する母のシーン
3月24日 川副町ラポールでの撮影でモデルの徳永さん夫婦が出演
3月29日 佐賀市の佐賀東高校で高校時代の思い出のシーンの撮影
3月30日 富士町の(株)富士建設が美術担当によって「山口旅館」に変身
嘉瀬川ダムの植林作業シーンで、大漁旗が掲げられ撮影
3月27日 川副町で主役の自宅を想定した撮影が始まる
4月 2日 佐賀城公園とさがレトロ館での撮影で大空眞弓さんの演技に皆が感動

年表



- 4月 3日 柳川市の小川楽器柳川店で店内シーンを撮影
 4月 4日 佐賀市の浪漫座でエキストラ100人による撮影
 4月 7日 白石町の佐賀修道館道場で剣道シーンを撮影
 4月11日 クライマックスシーン撮影！深夜に響き渡るピアノの音色に皆が涙した
 4月12日 クランクアップ・川副町の海苔小屋で支援する会から花束贈呈など
 夜は、俳優や製作スタッフと浪漫座でお疲れさま会で慰労
 NHK佐賀・KBC九州朝日放送など夕方のニュースで速報
- 4月23日 サガテレビでロケ終了までを特集し放送
 5月31日 東京の角川大映スタジオでオールラッシュを披露
 6月 1日 関西佐賀県人会総会で川崎・川原・鐘ヶ江による支援依頼
 6月18日 福岡市佐賀県人会総会で川崎・川原・鐘ヶ江・北村・鈴木監督による支援依頼
 7月 6日 協賛775件のエンドロールデーターを製作チームへ提出
 7月14日 サックス奏者、坂田明さんによる映画音楽録音開始
 7月22日 イオンシネマ佐賀大和の松田総支配人と打合せ
 7月26日 映画「ら・かんぱねら」が遂に完成！
 7月30日 アドバイザーの内田俊彦さん死去
 8月13日 製作関係者30人が集まり、完成試写会。終了と同時に拍手が沸く
 9月 4日 製作配給委員会の桑山プロデューサーと支援する会合同会議
 9月19日 記録誌の編集会議立ち上げ
 9月25日 東京の京橋テアトル試写室で試写会
 9月29日 古湯映画祭で30秒のコマーシャルを初披露
 10月11日 イオンシネマ佐賀大和で支援する会向けの特別披露試写会を開催
 10月12日 漁業者、海苔関連企業を対象とした特別披露試写会を開催
 10月15日 イオンエンターテイメントと上映契約
 10月19日 東京佐賀県人会総会で川原・鐘ヶ江・北村・鈴木監督・桑山PによるPR活動
 11月17日 佐賀市文化会館で完成披露試写会。キャスト舞台挨拶、1,200人が鑑賞
- 2025年(令和7年)
- 1月24日 「ら・かんぱねら」ウィークとして、テレビ・ラジオ・新聞で告知展開
 1月26日 佐賀新聞に映画「ら・かんぱねら」の全面広告が掲載
 1月31日 イオンシネマ佐賀大和で先行上映開始。以後、大盛況
 2月13日 観客動員数が1万人を突破



思い出の一枚



伊原剛志さんへのラブコール



初回の支援する会メンバー



海童神社での祈願祭



発会式後の記念写真



戸ヶ里漁港での記念写真



ロケの合間、不破万作さんを囲んで

携わった皆さんに感謝

映画「ら・かんぱねら」を支援する会

会長 陣内 芳博

(佐賀商工会議所連合会 会長)

お陰様で、やっと映画が完成しました。完成に至るまで俳優の皆さん、製作スタッフの皆さん、ボランティアの皆さん、そして多くの浄財を出して頂いた支援者の皆さんに支えられて出来た映画だと思います。

私は、支援する会の会長を務めていますが、完成した要因は、支援する会の皆さんのお陰だと思っています。全員の名前をひとりひとり呼んで慰労の言葉を送りたい気持ちでいっぱいです。仕事の傍ら、真剣にまじめに訴え続け映画完成にこぎ着けた努力に、ただただ感謝するしかありません。映画は2時間ですが、2時間を感じさせない程あつと言う間に終わった、素晴らしい映画に仕上がっています。

この映画は、過酷な海苔養殖を営む傍ら独学でピアノを練習し、夢を叶えた徳永義昭さんをモデルにした映画「ら・かんぱねら」です。主役の伊原剛志さんも徳永さん同様に猛特訓して、「ラ・カンパネラ」を弾けるようになり、ピアノへの想いをスクリーンいっぱいに表現し、熱いものを感じました。また、妻・千恵子さんをモデルとした奈々子役の南果歩さんも流暢な佐賀弁で対抗し、真に迫る演技には圧倒されました。そこには、家族愛や夫婦愛が巧みに表現されていて、佐賀を大切にする心がしっかりと伝わります。有明海に広がる海苔棚の素晴らしい風景と共に海苔が出来上がるまでの過程が描かれて、大切な宝の海をこれからも守って行かなければないと感じました。

そして、子供たちの多くが夢を語る事が少なくなった今日、青少年育成の教育的な観点からも「夢があれば」夢に向かって努力すると「夢が叶う」と教えてくれる訴えた映画でもあります。

多くの観客の皆さんにこの映画を見て頂いて、その感動を友人、知人を含め伝えて頂く。それが、全国展開への一歩でカギになります。大きな話題となり、佐賀から発信した映画「ら・かんぱねら」が全国至る所で支持と共に感が得られることが出来ると確信しています。そして、大勢の人々に感動と夢をもたらします。



徳永さんの姿勢に心打たれた映画

映画「ら・かんぱねら」を支援する会

副会長 西久保 敏

(佐賀県有明海漁業協同組合 代表理事組合長)

私たち海苔漁師の仲間である徳永義昭さんが、努力に努力を重ねながらも「ラ・カンパネラ」という難解な曲を自分のものにしていかれる生き様を映画で拝見しました。その姿や姿勢には、本当に心を打たれ響くものでした。私には到底真似が出来ないことです。

令和4～6年度は、過去に経験したことのないような海苔不作を経験し、漁業者が一致団結して一生懸命海苔づくりを行いました。

映画でも海苔養殖の「あるある」を見事に表現され、支柱建てなど有明海ならではの養殖方式や、海苔の製造風景など、海苔を知らない皆さんにも、ご理解いただけるのではないかと思いました。

また過酷な養殖現場で、昼夜を問わない作業の現場感と、それに加え、疲労困憊の中で曲の練習に励まれた主人公徳永さんの人間らしい一面も見られました。

この映画を通じて、佐賀の地域風土、海苔養殖や、その技術、更には佐賀海苔がなお一層、世の中に知れ渡ることを期待するものです。

伊原剛志さんと南果歩さん演じる夫婦関係が本当にほほえましく、まるで我が家？？のようでした。(笑)

映画鑑賞された方は、きっと夢や挑戦を後押しされ、常に背中を押してくれる作品になるものと思います。

ぜひ一度は鑑賞して欲しいものです。



ら・かんぱねらへの想い

映画「ら・かんぱねら」を支援する会

理事 大島 信之

(佐賀県農業協同組合中央会 代表理事組合長)

主人公の徳田時生(伊原剛志)は、ピアノの教育も受けておらず、独学で超難曲リストの「ラ・カンパネラ」を極めようとする熱意が感動的であり、まさに奇跡の人と言つていいと思った。

農産物を生産する農家の姿は、過酷な労働の反面、仲間や身内との絆がいかに大切なことを知らされるが、映画での漁師の実生活と人間模様が上手く描かれていた。

物語は、パチンコにのめり込むほどグータラな時生の生活から始まり、元ピアニストの石田秋子(大空眞弓)という人物との出会いが大きな転機になっている。「必ずラ・カンパネラを弾けるようになって、老人ホームに来て弾いてほしい」という約束をする。挫折に悩む時生に再び情熱を吹き込ませた秋子は、奇跡に至らしめる重要な存在であった。大女優、大空眞弓の大らかな演技も冴えている。妻、奈々子(南果歩)から、変人扱いされる時生とすれ違いは当然あるものの、これぞ夫婦愛というほどに時生への愛情の深さを感じさせた。

「夢があれば何でもできる。自分(徳田時生)にしか弾けない、ラ・カンパネラ」を妻に聞かせるため、妻の誕生日までに弾けるようになった。これまでの苦悩を知り尽くしていく、演奏を眺め涙ぐむ妻役の南果歩の演技は、この映画を象徴させるほど感動的だった。

キャストの演技力もさることながら、有明海や麦畑の情景が頻繁に使われる。また、佐賀弁は翻訳を付けなければならないほど流調で佐賀らしい映画になっていた。

望むことは時生さん、家族や仲間がいての人生である、本業の海苔業が疎かにならないようにしてください。

最後に、夢を叶える事が身近に感じる映画として、皆様にも鑑賞いただければ幸いです。



郷土愛あふれる映画に魅了

映画「ら・かんばねら」を支援する会

理事 峰 英太郎

(佐賀県商工連合会 会長)

佐賀市の文化会館で行われた完成披露試写会を鑑賞しましたが、想像していた以上の作品に仕上がって驚きました。川副町の戸ヶ里漁港などで「どぶろっく」が出演する場面もあるなど、遊びごころも感じられ楽しく観ることができました。

特に、主人公でモデルになった海苔師の徳永義昭さん役の伊原剛志さんも同じように、ピアノに対してのどん欲な姿勢が映画全体に生かされ大変すばらしく、また佐賀弁も堂に入っていたし、その上ユーモラスな場面の演技が本当に上手でした。また、妻・千恵子さん役の南果歩さんも流暢な佐賀弁で対応し、その場面場面で夫婦愛が大変よく伝わり、さすがはプロという印象でした。全体として、「佐賀らしさ」が存分に出た作品となっていましたが、東京の方などが見られたとき、方言の意味が伝わるのか少しだけ心配です。

郷土愛あふれるこの映画をご覧いただき、多くの皆様に佐賀の魅力を感じていただけることを切に願います。



努力すれば夢叶う、皆さんが賛同

映画「ら・かんぱねら」を支援する会

理事 福岡 桂

(佐賀県中小企業団体中央会 会長)

私は川副町出身で、子供の頃は家のまわりに多くの海苔師さんがいらっしゃった。

テレビで佐賀の海苔漁師さんが独学でピアノを練習して難曲の「ラ・カンパネラ」を演奏できるようになり、フジコ・ヘミングさんの前で披露するという番組を観て、凄い人がいるなと思っていた。大変失礼だが、私の知っている漁師さんのイメージとはまったく違うものだった。

その人をモデルにした映画が作られるとお聞きして、正直、本当に出来るのだろうか、大変そうだなと思っていた。

昨年ご縁があり、映画「ら・かんぱねら」を支援する会のメンバーに加えて頂いた。その時に、モデルの徳永さんが私と同じ年だとわかり親近感をもった。映画の撮影をサポートする方々の熱心な活動にも頭がさがった。自分のできるお手伝いをと思い、お知り合いなど多くの人に資金援助(協賛金)のお願いをさせて頂いた。

この映画は佐賀の風景や、海苔漁の厳しさ、努力すれば夢は叶うなどのメッセージを伝える映画だとお伝えして、多くの皆さんから賛同、ご協力を頂いた。

試写会で映画を見て、都会にはない佐賀の風景の素晴らしさ、日頃、なにげなくパリパリと簡単に食べている海苔をつくる漁師さんの仕事の厳しさ、同じ仕事をする親子関係の難しさ、夢をもって努力すれば夢は叶うということを改めて教えられた。

素晴らしい支援する会のメンバーに加えて頂き感謝している。是非、多くの皆様に見て頂きたい。



温かさと優しさが心地よい

映画「ら・かんぱねら」を支援する会

理事 牛島 英人

(一般社団法人 佐賀市観光協会 会長)

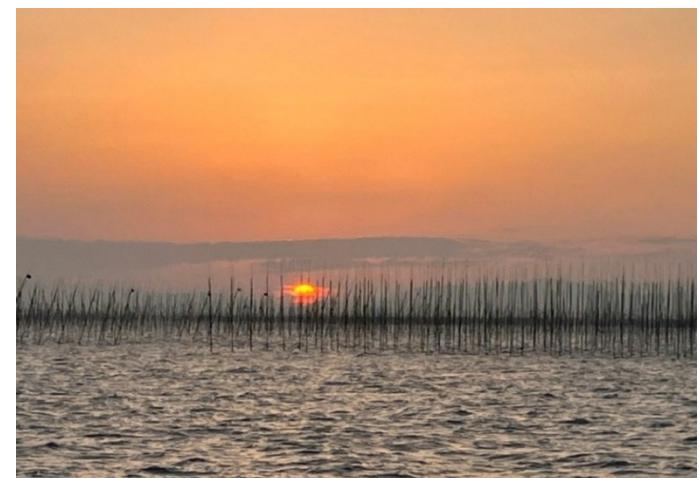
主人公の海苔師・徳田時生の「夢」に向かいひたむきに挑戦する姿と、それを支えた家族の「愛」の物語に、「人間、強く思い続ければできないことはない」「新しい事を始めるのは、遅くない」と挑戦する一步を踏み出す勇気をくれる、この映画「ら・かんぱねら」に感動しました。何よりも映画全体にわたって伝わってくる“あたたかさと優しさ”が大変心地よく後に残りました。

将来への不透明感を感じる中、成果やそれを獲得する効率性が重視されがちな昨今にあって、人間的な大切な事を思い起こさせられた気がします。

また、本作品では、撮影の殆どが佐賀で行われ、多くの佐賀の方々の協力で完成した事は、これまでにない大きな価値ではないでしょうか。

観光に携わる者として、「有明海の大自然」「過酷な海苔漁」「佐賀の名所・名産」「佐賀の人々の温かさ」「佐賀のことば」が盛り込まれ、佐賀市の魅力を多くの方に知って頂く事ができ、大変嬉しく思います。

本作品の製作にご尽力頂きました関係者の皆様の思いと努力に心からの敬意を表しますと共に、この映画「ら・かんぱねら」が多くの方々に届き、幾久しく記憶と心に残る事を祈念しまして、お祝いのことばと致します。



映画を通じて佐賀の魅力を発信

映画「ら・かんぱねら」を支援する会

理事 吉村 正

(佐賀市南商工会 会長)

傍から見ると平凡に見える日常も、当事者にとっては決して平坦ではありません。映画「ら・かんぱねら」は、そんな日常に潜む人生のドラマを美しい映像とともに見事に描いています。

佐賀県の海苔漁師である主人公が、独学でリストの超難曲「ラ・カンパネラ」のピアノ演奏を成し遂げたという物語。そのシンプルなストーリーの背後には、海苔漁師という過酷な職業の日常、親の介護、妻の体調不良、後継ぎ息子との親子の絆といった現実が丁寧に描かれており、観る者的心を揺さぶります。

物語の軸には「なぜピアノを弾きたいのか」という問い合わせが存在します。その答えにたどり着いた瞬間の清々しさは、映画のクライマックスとして心に深く刻まれるものです。

さらに、この映画は佐賀県という地域の魅力を存分に発信しています。海苔漁師の仕事が描かれるだけでなく、佐賀市の自然豊かな風景や特産品、地元川副町を中心に実在の店舗が数多く登場し、地元の息遣いを感じさせます。

映画「ら・かんぱねら」を通じてこうしたご当地の魅力が発信されることで、佐賀県に多くの人が訪れ、地域経済の発展や観光振興につながることを願わざにはいられません。

佐賀の未来にさらなる活気が訪れる事を祈りつつ、皆様にもこの映画をご覧いただければ幸いです。



努力する大切さを教えてくれた

映画「ら・かんぱねら」を支援する会

理事 篠塚 周城
(佐賀県私立中学高等学校協会 会長)

鈴木監督と最初にあった時、監督の熱意は理解したものの、映画製作にどの位の製作費が掛かるか不安でした。そのためには、体製作りが課題でした。

陣内会長が商工会、西久保副会長が水産業へ、大島理事が農業関係などを軸に組織が出来上がり、支援する会の皆さんと連携してそれぞれ知恵を出し合い、課題を乗り越えた成果が映画となって出来上がった。

何より、我が町・我が故郷の有明海苔が克明に描かれ、佐賀の素晴らしい風景もまた映し出されている。その中には、支援する会のメンバーたちが海苔養殖の実態を忠実に再現しロケでの最大の力になっている。

映画では、鈴木監督が随所に佐賀の一般家庭の姿をありのままに表現している。親子が争っている時でも母が取り持つ想いややりや家族愛、それにおじいちゃんの孫への想いなど家族の在り方の表現が実に素晴らしい。

また、大空眞弓さんが「夢があれば生きていける」と、夢があれば前向きに生きていける人生観は、とてもインパクトがあり訴えるものがあった。

それを映画でも現実にやり通した伊原剛志さんは、主役が決まってから毎日6時間以上ピアノと向き合い特訓され、モデルの徳永義昭さんがやれるなら自分でも弾けると努力されたそうだ。夢が叶った伊原さんの役者魂を見た気がした。

そして、クライマックスでは妻役の南果歩さんだけに聴かせたいと頑張る。誕生日と銀婚式のための感謝の気持ちがこもった演奏には涙が出てきた。「夢があれば叶う」努力すれば夢に近づく、この映画が一番表現したい所だと思う。努力している姿が映画に出ると、子供たちや学生たちもやっぱり努力する事の大切さというものを学んでいく。特に中高の生徒達には是非に見て貰いたいと願う。

そして、全ての年代を問わず家族ぐるみで楽しんで観賞して下さい。いい映画です。



地元の家具も映画のお手伝い

映画「ら・かんぱねら」を支援する会

監事 樺島 雄大

この映画は、佐賀県の美しいロケーションを背景に撮影されており、地元の方言が使われていることで非常に親近感が湧きました。

普段、佐賀が舞台となる作品は少ないため、この映画が地元の魅力を広く伝えてくれることにたいへん嬉しく感動しました。



また、撮影に私たちが製作した地元の家具が使用されていたこともあり、映画を違った視点で楽しむことができました。

主人公の海苔師が、50歳を過ぎてからピアノを独学で学び「ラ・カンパネラ」に挑戦する姿は、いくつになっても夢を持ち、挑戦し続けることの大切さを教えてくれます。そのチャレンジ精神には深く心を動かされました。

また、映画を通して家族の絆や大切さについて改めて考えさせられ、温かい気持ちになれる作品でした。地元への愛着と挑戦する勇気を改めて感じられる素晴らしい映画で、心に残るひとときを味わうことができました。

人生の新たな可能性を信じる大切さを教えてくれる、心温まる物語であり、是非、たくさんの人々に映画「ら・かんぱねら」を鑑賞していただきたいと思います。

女優、南果歩の涙に尽きる

映画「ら・かんぱねら」を支援する会

監事 山口 勝也

涙…

私はこの映画を観て、心打たれたのは最後に伊原剛志さんが弾く「ラ・カンパネラ」のシーンです。もちろん誰もが心打たれ、涙するシーンで映画も最高潮に達する所です。そこには伊原剛志さんと鍵盤それに南果歩さんがトライアングルのように映し出され、その表現が三拍子となっていて瞳に、心に飛び込んできます。

私の眼が潤んでくるような錯覚する程に、南果歩さんの瞳から溢れようとする「涙」に惹き付けられました。

それは、モデルとなった「徳永義昭夫妻」と映画上の「徳田時生夫妻」との完全なるオーバーラップで本物を見ているかと勘違いする程、成りきっています。譜面が進むにつれて、南さんの瞳に溜まりゆく涙は増え、充血し、瞳はうつろとなり、綺麗で真っ黒な瞳は沈み行き、いつしか表面張力の限界を超え溢れ出てしまいます。

しかしそれは、観ている私達の表面張力をも既に超えていました。

素敵な映像で映し出されるのは、有明海や古湯温泉と佐賀の美しい自然など見どころは沢山ありますが、何よりも有明海で働く海苔生産者のドキュメンタリーになっていて、奥深いものになっています。

私にとって、試写会で観たこの映画の感想を括弧書きするなら……「夫婦愛、家族愛におさまり、おさまりきれなかった女優、南果歩の涙」これに尽きました。

映画に関わった全ての皆さん、現場協力はあまりできませんでしたがお疲れ様でした。そして、ありがとうございました。



思い出の一枚



クランクインを祝う支援する会



クランクインで決意を述べる監督



深夜の戸ヶ里漁港



有明海でのロケシーン



優進丸と記念写真



製作開始の記者会見

「ら・かんぱねら」 製作・企画・脚本・プロデューサー・監督として



鈴木 一美 (すずき かずみ)

プロフィール

昭和30年生まれ、秋田県出身

大曲農業高校卒

横浜放送映画専門学院(現・日本映画大学)卒業

合同会社コチ・プラン・ピクチャーズ代表

著作「戦場に輝くベガ 約束の星を見上げて」

(浅野ひろ子氏と共同執筆)一兎舎刊(全国学校図書館図書選定)

代表作

「さよならクロ」(キネマ旬報7位) 2003年公開 ~シネカノン系~

企画 プロデューサーとして

松岡錠司監督 主演:妻夫木聰 柄本明 余貴美子 伊藤歩

舞台の長野県松本市に拠点を置いて製作。実際のモデルとなった松本深志高校で校舎を使用し、生徒や先生もエキストラとして参加した。「動物も受け入れられるような、自由な学校への憧れ」「動物に触れると心が温かくなる(アニマルセラピー)」をテーマに描いた。

「野球部員、演劇の舞台に立つ！」 2018年公開 ~パンドラ配給~

(文部科学省特別選定作品、ぴあ満足度1位)

製作 企画 脚本 プロデューサーとして

中山節夫監督 主演:渡辺佑太朗 林遣都 宮崎美子 宇梶剛士

舞台の福岡県八女市に拠点を置いて製作。八女市に移住し構想から10年を経て公開。地元の皆さんと映画を盛り上げた。「自分の得意はこれ」「自分はこれ一筋だ」と思っていても、新しい世界に入ってみると、見えるものがある」というテーマを爽やかに描いた。

映画「ら・かんぱねら」への想い

舞台となる佐賀県佐賀市に拠点を置いて製作。有明海の海苔師がリストの超難曲のピアノ曲「ラ・カンパネラ」に挑んだ物語。絶対無理だという家族の反対を押し切って、ピアノとは無縁だった男が海苔漁に従事しながら、目標に向かっていき「人間やろうと思えばできないことはない。夢は叶う」といテーマに、家族愛を織り交ぜながら壮大なスケールで描いた。

爆発・抵抗し書き直した脚本



洞澤 美恵子 (ほらさわ みえこ)

プロフィール

昭和23年8月3日 和歌山県生まれ
シナリオセンターで脚本を学ぶ
企業の販促ビデオなど製作

代表作

土曜ワイド劇場「石狩川殺人水系」
ドキュメンタリー人間劇場「山間の家族」
笹沢佐保原作の「取調室」

エエ！？ 同じ感動！？ と嬉しくて思わず胸が高鳴りました。徳永義昭さんをモデルに映画を撮りたいと、監督から資料を渡された時の事です。

十数年前、テレビ放映されたフジコ・ヘミングさんの「ラ・カンパネラ」の演奏を、徳永さんが感動して聴き入っていました。まさにその時、実は私も感動しテレビに釘付けになっていたからです。大きく違ったのは、徳永さんはご自分も弾いてみたいと、果敢なチャレンジを誓ったのに対し、私はただただフジコ・ヘミングさんの大ファンになっただけでした。それにしても、有明の海苔漁師さんがラ・カンパネラを！？ 凄い方がいるものだと驚きました。圧倒され、是非書かせて頂きたいと思いました。

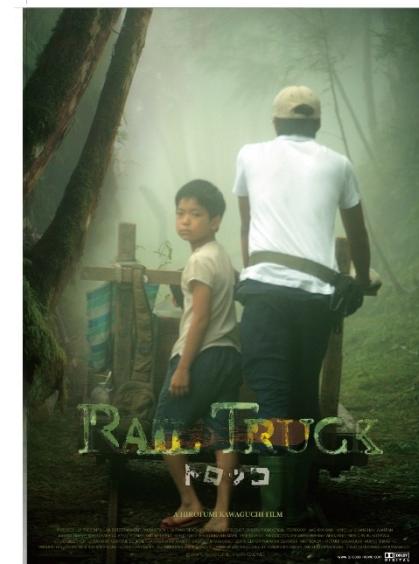
あれから六年と感慨が過ります。脚本執筆は、監督の溢れるほどのアイディアに助けられ支えられ、でも時に、そんなに何もかもはムリッ！と爆発し抵抗しながら直しを重ねました。打ち合わせの喫茶店で、お互いに断固譲らず喧々諤々、バンッ！とテーブル叩き、大声出して店から叱られたこともあります。脚本は映像化されてナンボです。どんなに精魂傾けた作品でも、映像化出来なければ紙屑同然と言っても過言ではありません。絶対にカタチにするぞ！と固く決意したものの、映画一本を創り上げるのは並大抵ではない事もよくわかつっていました。

長い間、練りに練って漸く決定稿に漕ぎつけても、頓挫の憂き目に遭うのは決して珍しい事ではないからです。果たしてカタチになるだろうか？という不安は常にありました。糸余曲折を経て三年が過ぎた頃には、あまりに直しを重ね過ぎて一番大事な幹を見失しまわないかと隘路に嵌ってもがいた時期もありました。更にはコロナ禍の閉塞感もあり、このままお蔵入りかもしれない危機感を募らせたこともあった中、今こうして沢山の、本当に沢山の方達のご支援とお力添えを頂き、関係者の皆様の多大な努力が結実して公開まで漕ぎつけられた事、感無量、感謝の思いでいっぱいです。

脚本家になってからずっと、佐賀は私の第二の故郷だと勝手ながら愛着を抱いてきました。デビューした直後に書いた、佐賀県警が舞台のいかりや長介さん主演「取調室」という二時間ドラマが、幸いにも好評でシリーズ化され私の脚本家人生を切り拓いてくれたからです。執筆前には毎回、舞台になる佐賀県内をシナリオハンティングで訪れた事を懐かしく思い出します。

映画「ら・かんぱねら」で再び佐賀とのご縁が更に深まった事、私にとっては無上の喜びです。あとは一人でも多くの方達にこの映画をご覧いただける幸せを祈るばかりです。

映画「ら・かんぱねら」プロデューサーとして



川口浩史 (かわぐち ひろふみ)

プロフィール

1970年8月31日 東京出身

トロッコフィルム株式会社 代表

日本映画学校(現・日本映画大学)卒

篠田正浩、五十嵐匠、黒沢清作品で助監督

トロッコで初監督を務める

受賞歴

第20回多摩映画祭新人監督賞

2010年全国映連賞監督賞

第20回日本映画評論家大賞新人監督賞

代表作

おしょりん

ラインプロデューサー

島守の塔

プロデューサー

蜜蜂と遠雷

助監督

トロッコ

監督/脚本

チヨルラの詩

監督



「徳永義昭氏の奇跡」に吸い寄せられ、映画プロジェクトに参加した僕は、徳永さんご本人とお会いし、その人柄、愛嬌、人情、努力、約束に魅了され、半端な覚悟では挑めぬと佐賀に住むことにした。連れ込み宿という名がふさわしい郊外のラブホテル前の一軒家の合宿生活。そこから佐賀県内で協賛社挨拶に回り、夜は佐賀の大人たちが集う魅惑の繁華街・白山に半年間通った。「東京モンが佐賀さい来て、他人様のお金で映画撮るち、オマエ何様や！」と言われたことが僕に更なる覚悟を決めさせた。

「佐賀の人々が心から喜ぶ作品にしなければいけない」と、東京から来るスタッフ、キャストの選定にも生半可なことはできなくなった。イン直前のキャスト降板などの大事件勃発もあったが歯を食いしばるしかない。なぜなら、他に本業のあるボランティアメンバーや、徹夜してこの映画に挑んでいるのだから。そうして、日本映画界随一の映画スタッフ・キャストたちと地元「支援する会」のタッグによって、佐賀発信の映画は、出来上がった。

それは、「徳永義昭氏のキセキ」から触発された、佐賀の新たなる「奇跡」となった。

お見事、佐賀。はばたけ、佐賀！！

映画「ら・かんぱねら」製作配給プロデューサー



桑山和之 (くわやま かずゆき)

プロフィール

1954年、東京都出身

配信事業「キネマNET」代表

プロデューサー

独立プロ作品を中心に現場に立ち、現場製作から配給まで、劇映画・ドキュメンタリー作品に関わる。

代表作 (プロデューサーとして)

「春駒のうた」('85)神山征二郎監督、「イタズ」('87)文部省特選、日ソ合作「オーロラの下で」('90)後藤俊夫監督、「戦争と青春」('91)今井正監督・モントリオール世界映画祭出品、「深い河」('95)熊井啓監督・モントリオール世界映画祭出品、「野球部員、演劇の舞台に立つ！」('18)文部省特選、中山節夫監督。

映画「ら・かんぱねら」への皆さんの思いを受けて。

今、配給の真っ最中の僕が思うのは、佐賀の人たちのこの映画に対する熱い思いである。資金集めから始まり、撮影中、そして上映と約1年半に及ぶ取り組みで、通常であれば撮影が終わった時点で、スゥーっと火が消えるように人もいなくなっていくのだが、上映の段階で、さらにパワーアップをし、イオンシネマ佐賀大和を連日の大入満員にする力は、今まで色々な地方で50年撮影てきて、どの地方にもなかった力である。

支援する会の方々は、仕事を持つ中でも、朝、早くから劇場へ足を運び、気持ち良くご観覧頂けるように、お客様へのケアするこころは半端な気持ちで出来るものではない。それは、自分たちの映画・佐賀の映画だと言う皆さんのが強い気持ちの表れだと僕は感じる。

モデルである徳永さんの生き様は、また支援する会の皆さんにも流れ、作品自身にも流れる諦めない心だと思う。

この諦めない心を僕自身も学び、そして粘り強く微力ですが、地道に一歩一歩、進めていく所存です。今後ともお力を貸しください。

惜しまない協力に感謝

映画「ら・かんぱねら」製作スタッフ

美術 黒瀧 きみえ

佐賀の地に足を下ろしたのが2024年2月でした。広々とした佐賀平野を有明海からの風はとても穏やかだったことを覚えています。

そこで登場する私のお助けマンは、芝居の軸となる「徳田家」やピアノ部屋を作る倉庫、それに「石田家」を加工してくださった山崎建設のNice Guys(山崎、佐保、中町)の3人で、最初は「なんのこっちゃやら」の参加だったでしょう。そして、人が住まう家を色付けしてくださった大坪さんの造園チームと、(株)ナガノの平原さんたち看板デザインチームのみなさんも一緒です。もちろんその前に、屋根に登り重機を動かし隅々までお掃除をして、神秘のベールをOpenにしてくださった屈強で繊細な支援する会のみんながいて「徳田家」のプランができあがったのです！そこからさらに、レグナックの樺島さんや李莊窯の寺内さんのお力を借りて生活感が出せました。



「助けて！」の一言で駆けつけてくださる川原ご夫妻や、いつも気にかけて「いいよ」といってくださる川崎ご夫妻、そして電話一本で大波を作る成人さんチームやこっそり駆け込む先に佳子さんなど、まだまだ沢山のみなさんの惜しまない協力に感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。益々のご繁栄をお祈り申し上げます。

支援する会の皆さんの団結力に感動

映画「ら・かんぱねら」製作スタッフ

装飾部 丸山 瞳

2月から佐賀でのロケハンが始まり、3ヶ月間は長くもあり、とても短くもあり濃密な日々でした。東京での撮影とは違い、初めての場所や出会った人たちとの触れ合いは新鮮で興味深い時間であったと思います。

特にお世話になった川原夫婦は、私のピンチを何度も助けて頂きいつも笑顔で暖かく迎えてくれて感謝の気持ちでいっぱいです。



海苔漁はとても奥深く、佐賀で食べた海苔は今まで食べたことがない美味しさでした。映画「ら・かんぱねら」を通して、世界中の人に海苔を知ってもらい、食べてもらえたらしいですね。

支援する会の皆さんの団結力はとても素晴らしい、皆さんの協力無くしてこの映画は完成しなかったと思います。これからも映画を通して知り合った皆さんと繋がっていけたら嬉しく思います！また会える日を楽しみにしております！ありがとうございました！



酒と旅好きが佐賀行きを決意

映画「ら・かんぱねら」製作スタッフ

チーフ助監督 原島 孝暢

この原稿を書いているのは、令和6年11月30日土曜
締め切りギリギリの日、私は夏休みの宿題は最後の日
にやるタイプ、そんな私と映画「ら・かんぱねら」という
作品が出会って約一年…ってまだ一年…そう思うくらい
濃い佐賀との一年だった。

始まりは太田和彦さんの「ふらり旅 新・居酒屋百選」
という全国を飲み歩く番組を見ていた時のこと、この日
は佐賀の「のこ」というお店が紹介され、その魅力にお
酒と旅好きの私は、佐賀に行きたい！と強く思い始め
たのでした。

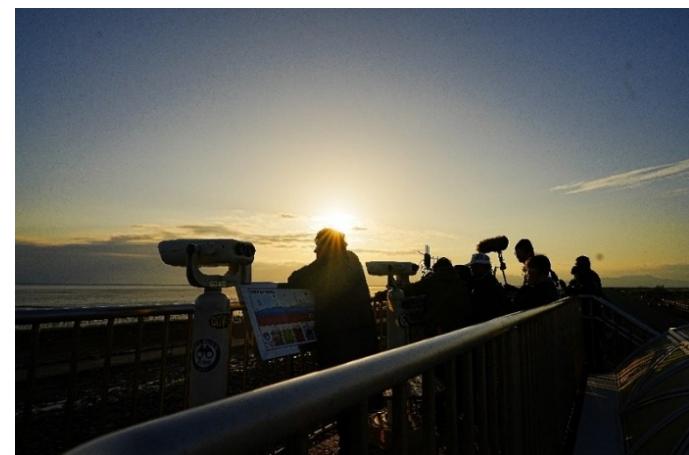
次の日、前回お仕事でご一緒した馬越さん（製作担当）
からお電話を頂く。

「佐賀の映画と一緒にやりませんか？」

なんと！行きたいと思ったばかりの佐賀の映画！こ
れは…佐賀に呼ばれている！と、自意識過剰気味に
「やります」と即答したのである。

そんな縁で繋がった映画「ら・かんぱねら」は佐賀の
方々の熱意とその気持ちに応えようとするキャスト＆ス
タッフ、エンドクレジットに載っている一人一人の思いが
映画を完成に導きました。どうかその思いを最後まで
見届けて頂けたら幸いです。

そして佐賀以外で鑑賞された方はぜひ佐賀に行って
みて下さい。きっと映画「ら・かんぱねら」で繋がった町
や人々との素敵な出会いが待っています。



貴重な経験の数々に感謝

映画「ら・かんぱねら」製作スタッフ

製作部 馬越 昭光

映画を鑑賞しました。映画撮影のスタッフとして、参加していましたので、内容は把握してたのですが、予想以上の臨場感があり、撮影当時の事が次々と蘇ってきました。

私は製作部という立場で現場の世話係として参加していました。実際の撮影が潤滑に進行出来る様に、海苔漁師さん達、支援する会の方々、ロケ場所の担当者の方々との事前の打ち合わせを何度も行い、それをスタッフに伝えていました。海苔漁を行う俳優陣の事前練習として海苔の摘採作業にも同行させて頂きました。

また、主役の時生が弾く斯坦ウェイのピアノを「バルーンミュージアム」から「さがレトロ館」、そして「川副の漁師宅の倉庫」に運ぶ段取りも行いました。大変大きなピアノですので、どうやって部屋に入れるのか？と心配しておりましたが、ピアノ運送の方々が事前の探寸、打ち合わせをしっかりして頂き、無事に運送する事が出来ました。

そのピアノ運送の件で、佐賀の新聞に掲載されたりもしました。普通に生活しているとまず経験出来ない事ばかりでした。

これまで数々の映画・テレビ作品に携わってきましたが、これほど色々な貴重な経験が出来た作品は無かつたです。この作品に携われて大変嬉しく思います。

佐賀の方々にも大変良くして頂きました。

本当に有難うございました。また遊びに行きます。



素敵な作品に参加でき光栄

映画「ら・かんぱねら」製作スタッフ
アシスタントプロデューサー はりま けて

この度は素敵な映画作品に参加できて光栄です。

私は映画「ら・かんぱねら」にアシスタントプロデューサーとして関わらせていただきました。作品の撮影が始まる前、まず佐賀の地に降り立った時から、佐賀に住む皆様のあたたかさと人情の深さに感銘を受けました。



忙しい時に握っていただいたおにぎりの味が忘れられません。今ではすっかり佐賀米の虜になりました。

我々製作スタッフは“映画「ら・かんぱねら」を支援する会”的な皆様と共に作品を作つて参りました。

本当に大変なことも沢山あり、楽しかっただけでは済まされない作品だと思います。常に目標をかけ、力を注いでくださっている皆様へ今一度深く感謝いたします。

映画を観たみなさま、これから観るみなさま、是非この映画を末長く共に愛していただきたいと存じます。



新聞掲載から



52歳から独学 徳永さんモデル

来秋公開へ「ラ・カンパネラ」習得の姿描く

こうした1人のノリ漁師の人生にひかれた鈴木一美監督は、3年間徳永さんのもとに通い、シナオオを練り続けた。徳永さんの努力と、それを支えた夫婦愛、家族愛、ノリを育む有明海の美しさ、ノリ養殖の厳しさなどを盛り込みながら描くこと。会には経済界や農協関係者、そして、徳永さんのノリ漁師仲間の漁協関係者ら100人以上がそろった。参加者を前に、徳永さんが太い指を鍵盤上で鮮やかに弾ませながら「ラ・カンパンネラ」を披露。「緊張して当する。音楽は、広島大水産学習出身で、ノリ養殖の実習験もあるというジャズサックス奏者の坂田明さんが担当。音楽の演奏でした。俺のような者が映画のモデルになり、うれしく、恥ずかしく、そして光榮だ」と話した。支援する会の会長に就任した陣内芳博・県商工会議所会長は、「徳永さんには、支援する会事務局に見てほしい。我々も団結し、いい映画を作り上げほしい」と訴えた。発会式では、一般船舶操縦士免許をもち、映画「硫黄島からの手紙」「半落ち」などに出演した伊原剛志さんが主演に決まったことを報告。徳永さんは「あらかじめにかっこいいんじゃなか」と感想をもらし、会の笑いを誘った。伊原さんはさくそくピアノの特訓を始めたといふ。音楽は、広島大水産学習出身で、ノリ養殖の実習験もあるというジャズサックス奏者の坂田明さんが担当。音楽の演奏でした。俺のような者が映画のモデルになり、うれしく、恥ずかしく、そして光榮だ」と話した。支援する会の会長に就任した陣内芳博・県商工会議所会長は、「徳永さんには、支援する会事務局に見てほしい。我々も団結し、いい映画を作り上げほしい」と訴えた。発会式では、一般船舶操縦士免許をもち、映画「硫黄島からの手紙」「半落ち」などに出演した伊原剛志さんが主演に決まったことを報告。徳永さんは「あらかじめにかっこいいんじゃなか」と感想をもらし、会の笑いを誘った。伊原さんはさくそくピアノの特訓を始めたといふ。音楽は、広島大水産学習出身で、ノリ養殖の実習験もあるというジャズサックス奏者の坂田明さんが担当。音楽の演奏でした。俺の

佐賀新
ピアニスト役・溝丘リリ子さん 腕

「笑いのスラング」は、明治14年から25年まで、賀川崎の「笑いのスラング」で、川崎が演じた「笑いのスラング」を収録した。この「笑いのスラング」は、川崎の「笑いのスラング」の中でも最も人気のあるものである。

いコンビ「どぶろつく」など、2022年にミス人と、2022年にミス・ジャパン佐賀大会でグランプリに選ばれた佐賀県出身の俳優川崎瑠奈さんも登場。25日も出演する。

ト佐川に説きに一もつめにん帯クミ

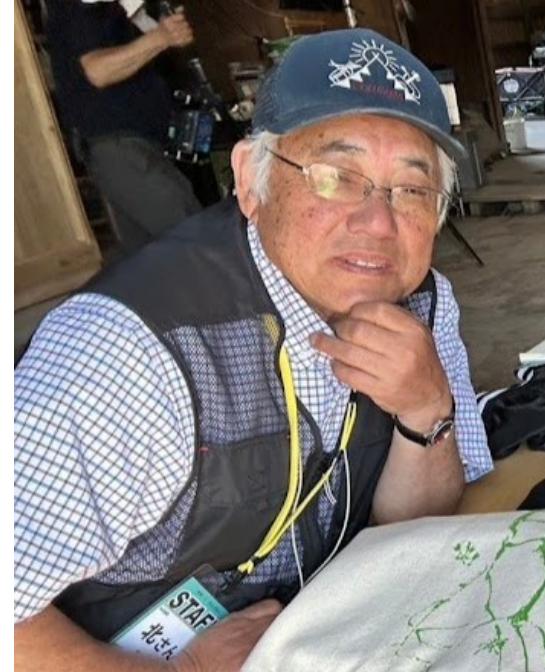


メディア担当は、恩返しのため

映画「ら・かんぱねら」を支援する会
アドバイザー兼 配給宣伝プロデューサー
北村 和秀

偶然にも、「のり道楽」に行ったときです。「映画を作ります。手伝ってくれませんか」と川原常宏事務長から声を掛けられ「いいですよ」と何気なく返事しました。これがキッカケです。

私は、川原さんのお父さんに親父ともども大変にお世話になり、まだ恩返しもしていません。多分、お父さんから「経験を生かして手伝ってほしい」と呼ばれた気がしてなりませんでした。それならば、事務長の後押しをしながら、マスコミ対応など不慣れなところから支援していくこうと決意しました。先走りの感はありますが全力投球しました。ただ一言「恩返し」の為です。早速、メディア担当をさせて頂きましたが、次々に要望などが舞い込んで来ました。メディアの皆さんから、クランクイン



は？伊原剛志さんのピアノのシーンは？浪漫座は、エキストラはいつ出演しますか？等々、時間関係なく連絡が入ってきます。アタフタしながら川口プロデューサーや原島助監督に相談します。このシーンは伊原さんが集中する事になるから撮影はNGをお願いしますと言われ、心苦しいがメディアの皆さんに報告して理解して貢います。ただ、強い要望があった伊原剛志さん、南果歩さん、大空眞弓さん3人が揃う記者会見を実現したいと、粘り強く要請し続けセッティングが出来ました。

映画のロケ情報は、毎日夜に翌日のスケジュールをメールで頂きます。福岡のメディアには直接連絡しますが、佐賀のメディアには、佐賀市役所の広報を通してお願いしていました。4月1日のことです。メディアの皆さんから熱望があった3人の合同記者会見は4日の浪漫座での撮影後に行いますと連絡がきました。夜の11時頃でした。慌てて「囲み取材の日程変更」のメディアリリースを書き、朝一番で届くよう佐賀市の広報宛てにメールしました。申し訳ないと思いつつもでした。翌日、広報担当者から叱りを頂き、深く反省しますとお詫び致しました。また、上映開始までは「ら・かんぱねら」週間と題し、全てのメディアの方に協力して頂きました。

皆さんご協力で映画の観客動員が大盛況となっていると思います。心より感謝の気持ちで一杯です。その中でも最高にみんなが驚いたのは、佐賀新聞での一面広告でした。広告費がなく苦戦していた時、広告センターの知り合いたちが新たな協賛を集めて実施してくれました。凄かったです。ありがとうございました。感謝感謝です。

素晴らしいプロ集団と出会えて幸せ

映画「ら・かんぱねら」製作スタッフ

ドローン撮影 井上 一也

2023年のある日、支援する会事務長の川原常宏さんから電話が入りました。「今度佐賀で映画の撮影があるから手伝ってほしいとの事。内容はわかりませんでしたが、日頃からお世話になっている川原さんからのお願いだから、有りがたかったです。それがこの映画「ら・かんぱねら」でした。ほどなくして鈴木監督自ら私の事務所にお越しになってお話をさせていただくと、ドローンの撮影をお願いしたいとのことでした。

いつもテレビコマーシャルの為にはドローン撮影をしているものの、同じ映像でもコマーシャルと映画では世界が違います。正直、不安でした。初回の撮影は海苔網を張ったばかりの有明海。「監督からあれやこれやと指示があるんだろうと」覚悟して撮影に臨みましたが、まさかの「ほぼ指示無し」。

初めて映画撮影に臨むカメラマンとしてはパニックです。できる範囲でキレイな画が撮れるようにフライトしましたが、後から見た映像は私の「迷い」まで映っていました。劇中で大事なシーンになるとと言われた風見鶏のカットでは闇夜の中、月明かりを作り出すために大がかりな照明が組まれていたのを思い出します。

これが映画の世界だ。照明さんの技術だと感動しました。闇夜に月明かりを作り出す照明さん。強風の中で船のエンジン音まである中でクリアなセリフを収録する録音さん。脚本の素晴らしさは皆さんご承知の通りですが、裏で支えるスタッフの方々もまた素晴らしいプロ集団でした。表に立つ俳優陣と裏で支える技術陣が表裏一体となる。これが映画の世界だと思います。

鈴木監督、川原事務長はじめ関係者の皆様、貴重な経験をありがとうございました。



役者の自然な佐賀弁に驚いた

映画「ら・かんぱねら」製作スタッフ

方言指導 大島 一樹



私が「方言指導」を初めてしたのは、2006年公開の映画「佐賀のがばいばあちゃん」。それまで方言指導の経験はなく、ただ佐賀弁の歌をプロデュースしたり作詞したりしていて、その経験を買われてのことでした。

今は亡きヒーマンさんが歌った歌、覚えてる方もいらっしゃるかも？今回この映画に関わらせて頂くことになったのも、そのご縁が続いていたからでしょう。でも「がばい」の時と違ったことがいくつも有りました。「がばい」の時は、台本に佐賀弁の赤をいれると監督さんから「他の県の人にはチンパンカンパンなので、もっとわかりやすく！」と何度も言われました。なのでイントネーションで勝負！的な考えでした。そして今回は「おまかせします」と監督。なので、かなりネイティブに近い会話になっていると思います。他の県の方、どのぐらいわかりますかね？

また主演の伊原さん、南さんなど、とても熱心に佐賀弁に取り組まれ、自然なアドリブも出るほどでホントに驚きました。細かい確認を何度もされ、つられて熱が入ったことも。

ただ一回だけ「精が出るなあ」という台詞を「精のずんなあ」に訳した際、伊原さんから「これは理解できない」と言われ、えっ？となりました。言われてみれば、そういうものかと納得。方言の佐賀弁はやっぱり難しい！モノですね。

俳優さんは佐賀弁をやるき満々

映画「ら・かんぱねら」製作スタッフ

方言指導 江口 美智子

約1ヶ月近く、撮影現場において貴重な体験をさせて頂きました。私は、女性の俳優さん担当でした。奥様役の南果歩さんはじめ、皆さん、佐賀弁をやる気満々が溢れ出ており…嬉しく思いました。

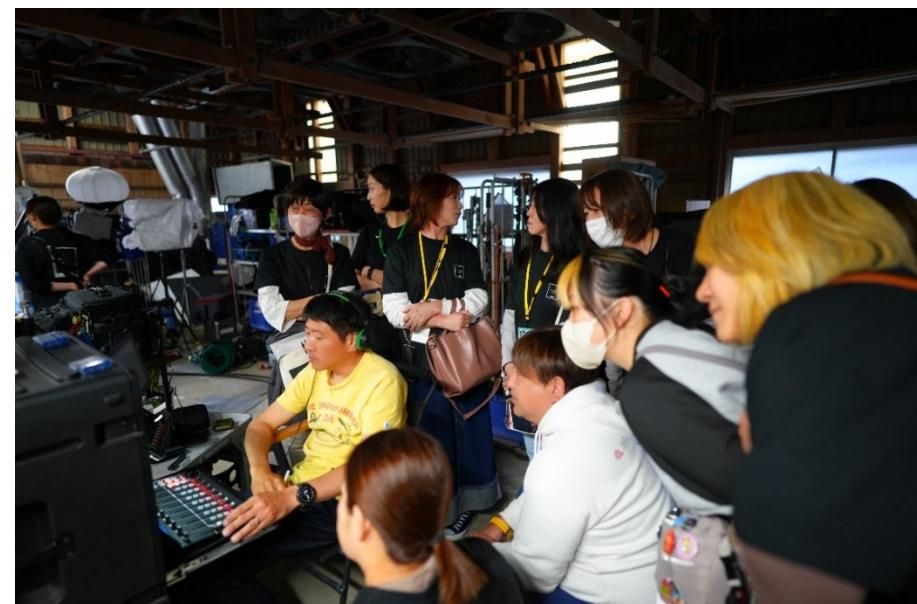
南果歩さんの佐賀弁は、とても素敵で、映画を見た瞬間、佐賀にすっかり馴染んであると感心しました。南果歩さんが話す佐賀弁は、とても可愛く聞こえて…つい、笑みが溢れました。

本音を言えば、もっと伊原剛志さんみたいに、コテコテの佐賀弁で話して欲しかったのですが…そこは、女性らしさもだしつつ！

大空眞弓さんも、「私もどこかで、佐賀弁を話したい」と…流石にベテラン俳優も佐賀弁の雰囲気バツチリ。

この映画を観た全国の方達が、佐賀弁を好きになってくれたら、とても嬉しいです。映画が終わった瞬間、皆さんが拍手をされ、私はとても嬉しかったです。

本音を言えば、南果歩さんに「いやーちゃあがつかー」と言ってもらいたかったです。
(笑)



想い出の一枚



城内公園での撮影風景



白石・修道館での剣道シーン



有明海での撮影風景



東与賀干潟公園での撮影風景



海苔小屋での録音風景



嘉瀬川ダムでの植樹シーン

主な製作スタッフ



音楽 坂田 明

ミュージシャン。1945年広島県呉市出身、広島大学水産学科卒業
1972年に山下洋輔トリオに参加
1980年より「Wha ha ha」「SAKATA TRIO」を結成
ヨーロッパツアーを皮切りに独立
以後、様々なグループの結成解体を繰り返しながら
世界中をあちこちぐるぐるしながらあれこれして今日に至る。
<http://www.akira-sakata.com>



撮影 丸池 納

1948年生まれ。1972年日活撮影所契約撮影助手として入所
撮影監督姫田真左久に師事
1986年根岸吉太郎監督「ウホッホ探偵隊」撮影監督デビュー
和田誠監督「怪盗ルビイ」('88)、市川準監督「ノーライフキング」('89)、小栗康平監督「眠る男」('96)、根岸吉太郎監督
「絆・きずな」('98)、張加貝「さくらんぼ 母ときた道」('08)、
竹下昌男監督「ミッドナイト・バス」('18)などを撮影。



照明 山川 英明

48以上の映画照明を担当
代表作には、2022年公開の「島守の塔」
2022年公開の役所広司主演の「峠、最後のサムライ」
2018年八女市で撮影した「野球部員、演劇の舞台に立つ」
2014年公開の「蜩ノ記」など
受賞歴は、「蜩ノ記」で照明技術賞
日本アカデミー賞では、「カンゾー先生」「峠 最後のサムライ」で優秀照明賞を受賞する。

製作スタッフ



海苔監修・指導 川崎 賢朗



海苔監修・指導 佐々木 成人



VFX 浜井 貴子



録音 清水 雄一郎



記録 穂盛 文子

編集 村上 雅樹
音響効果 松浦 大樹
録音助手 南川 淳
大平 篤希
メイク 小林 真由
メイク助手 宮沢 風香
小道具 向後 彩華
衣装助手 熊田 侑里子

監督助手 芳賀 直之
藤原 貴翔
撮影助手 田村 ゆう子
御園 涼平
金澤 鳩
美術助手 鈴木 貴士
ピアノ指導 原口 沙矢架
青木 雄介
製作主任 福田 裕矢
製作進行 安藤 茉里奈

新聞掲載から

「ら・かんばねら」完成試写会



伊原 剛志 いはら つよし



(プロフィール)

1963年福岡県生まれ。大阪府出身。ジャパンアクションクラブ(現JAE)出身

1983年舞台「真夜中のパーティー」で俳優デビュー

1996年NHK連続テレビ小説「ふたりっ子」で全国的に注目され、映画、ドラマ、舞台と幅広く活躍。日本国内の作品のみならず、クリント・イーストウッド監督作「硫黄島からの手紙」('06)、ブラジル映画「汚れた心」('12)など海外作品にも多数出演。その他の出演作品に「十三人の刺客」('10／監督:三池崇史)、「超高速！参勤交代」シリーズ('14, '16／監督:本木克英)、フランス映画「不思議の国のシドニ」('25)など。

映画「ら・かんぱねら」への想い ~完成披露試写会の舞台挨拶より~

これまで、ピアノに触ったり弾いたことはなかった。台本を読んだ時、徳永義昭さんの事を知り自分がどこまで出来るか、主役が決まってから一日も欠かさず6時間以上の挑戦をしました。

しかし、途中で壁にぶつかった時、7年も続けた徳永さんは凄いなと思いました。僕にとって「ラ・カンパネラ」は大いなる壁で、登れるかどうか不安がありつつも楽しみながら挑戦しました。ラストシーンは、持てる力を100パーセント以上発揮できたと思います。

また、海苔漁師を主人公にした映画は、初めてなので戸惑いました。ピアノは勿論の事、海苔作業や佐賀弁のマスターなどありましたが「人間って目標を持つ事は大事、夢があれば叶う」との思いがありました。

佐賀の印象については、来る前より今は100倍ほど好きになりました。本当に温かくて熱い人たちと美味しい佐賀のりや米など最高の出会いでした。佐賀から盛り上げ全国へ発信して行きましょう。佐賀最高です！

南 果歩 みなみ かほ



(プロフィール)

女優。1984年、短大在学中に映画「伽耶子のために」のヒロインでデビュー。テレビや映画、舞台で幅広く活躍。2015年には映画「マスタレス」で全米デビューも果たす。2022年AppleTV+「PACHINKO season1」では、メインキャストとして出演。「第38回インディペンデント・スピリット賞」にてクリティックスチョイスアワードを受賞。近著にエッセイ「乙女オバさん」(小学館)、絵本「一生ぶんのだっこ」(講談社)。映画「君の忘れ方」「Rule of living」台湾映画「腎上腺」などに出演。被災地を中心に読み聞かせボランティアも行っている。

映画「ら・かんぱねら」への想い ~完成披露試写会の舞台挨拶より~

徳永義昭さんと千恵子さん夫婦がモデルとして、人生を歩んでこられた事があったからこそ、この映画が誕生したと思います。どんな職業の人でも自分がやりたいと「行動を起こし、実現するまで」コツコツと積み重ねて行くことの素晴らしさが、この映画に描かれています。大人の人たちにも観て頂きたいし、大人になる事に夢を持てない子供たちにも是非、観て貰って、大人ってこんなに楽しい人生を送っているのを感じてほしいです。

佐賀に来てみると、気候も良いし、奥ゆかしい人情と温かさに触れ合うことができました。また、米も魚も肉も野菜も全て美味しく、こんなに魅力が詰まっているのに、みんなが佐賀の魅力に気付いていないと思います。映画と共に佐賀の魅力を知って頂きたいです。

これは、「メイドイン佐賀」の映画です。小さな佐賀県の小さなところの物語ですが、大きく広がる要素を持った映画です。期待しています。

主なキャストの皆さん



不破 万作 ふわまんさく

1946年大連生まれ、千葉県育ち。
唐十郎主宰の劇団状況劇場を83年に退団
伊丹十三監督作品「マルサの女2」('88)、「あげまん」
('90)、「ミンボーグの女」('92)などで注目を集め。多くの名監督に愛され「新宿泥棒日記」('69/大島渚監督)、「赤い橋の下のぬるい水」('01/今村昌平監督)、「スパイ・ゾルゲ」('03/篠田正浩監督)、「アキレスと亀」('08/北野武監督)など多くの作品に出演。



緒形 敦 おがた あつし

1996年6月20日神奈川県生まれ。
父は緒形直人・祖父は緒形拳の俳優一家
2017年TBS日曜劇場「陸王」で俳優デビュー。主な出演作は、ドラマ「MAGI-天正遣欧少年使節-」、「いだてん」「相棒19」「大豆田とわ子と三人の元夫」、映画「LOVE LIFE」「レジェンド&バタフライ」、舞台「カノン」踊り部田中泯「外は、良寛。」「わが町」など。最新作はドラマ「推しの子」。



大空 真弓 おおぞら まゆみ

東京生まれ。
母と共に歌舞伎を観に行った帰りに歌舞伎座の前で、スカウトされ1958年新東宝入社。映画「女王蜂」でデビュー。主な作品は、「愛と死をみつめて」('64)、「白と黒」('63)、「風林火山」('69)、「華麗なる一族」('74)、テレビドラマや舞台に多数出演。1990年には「人生は、ガタコト列車に乗って…」で15回菊田一夫演劇賞を受賞。



田中 がん たなか がん

1954年12月15日長崎生まれ。
劇団七曜日～劇団ふるさときやらばんを経て、現在chohai所属。
長崎発地域ドラマ「かんざらしに恋して」、ドラマ「第9マキナ!!」、映画「こん、こん、」、舞台「七曜日」「鬼ヶ島」「サラリーマンの金メダル」「男のロマン」「女のロマン」その他の作品に出演。



どぶろっく

2004年9月コンビ結成。保育園から大学まですべて一緒に佐賀県基山町出身「基山ふるさと大使」。つねに「愛」をテーマに歌い続ける歌ネタ芸人。2013年「もしかしてだけど」でCDメジャーデビュー。お笑いライブ出演や音楽フェス出演などの活動のほか、サガテレビにて「どぶろっくの一物」レギュラー出演中。「キングオブコント2019」優勝。



枝元 萌 えだもともえ

滋賀県出身。藤健一事務所俳優教室修了後、ユニット「ハイリンド」を結成。2022年に第57回紀伊國屋演劇賞個人賞受賞。2023年に第73回芸術選奨文部科学大臣演劇部門新人賞受賞。ドラマ「わろてんか」(NHK)、「鵜頭川村事件」(WOWOW)、映画「こんにちは、母さん」(山田洋次監督)ほかに出演。近年の主な舞台「セツアンの善人」(白井晃・演出)など。



鹿毛 喜季 かげ よしき

1998年生まれ、福岡県出身趣味はお菓子づくり。博多祇園山笠にも出ている博多っ子。小学1年生より舞台に立ち、映画「信さん～炭坑のセレナーデ～」('10)/平山秀幸監督)にNHK 福岡 地域ドラマ「スイーツ」、FBS開局50周年スペシャルドラマ「天国からのラブソング」に出演。2018年には「野球部員、演劇の舞台に立つ」に出演、その他CM、ドラマ、映画、舞台などで活躍中！



川崎 瑠奈 かわさき るな

1998年生まれ、佐賀県佐賀市川副町出身。2022MissJapan 佐賀グランプリ8歳からティーンズミュージカルSAGAに所属し初舞台を踏む。佐賀東高校演劇部卒業後、劇団青年座養成所へ入団。その後、東京で舞台女優として活動しており、映画、CM、ドラマ等活動の幅を広げている。

九州キャストの主な皆さん



今野工務店社長、今野正一役	万丈
剣道場主、蜷川正彦役	上瀧 雅大
南川副支所運営委員長、森山昇役	岩坪 光輝
漁協青年部部長、森山亮一役	松下 莉久
ラーメン店「夫婦軒」大将、浜井大介役	岩本 将治
ラーメン店「夫婦軒」女将、浜井遼子役	小貫 薫
徳田水産工場長、香田仁役	楽満 信幸
ピアノ調理師、江里口順子役	さざわ りか
自治会会长、近藤寿役	橋本 和雄
近所のおばちゃん、吉岡信子役	坂本 幸代
近所のおばちゃん、伊東富貴子役	本村 久美子
楽器店店長役	松尾 秀昭
パチンコの女性客	吉村 志保
高校生時代の時生役	木寺 玲音
高校生時代の奈々子役	舟越 幸音
ピアノの女子生徒役	北村 桃々
ピアノの女子生徒役	真子 夏美
ピアノの生徒、太田仙吉役	坪倉 謙之
ピアノの男子生徒役	片渕 奏汰
チェロケースの女子大生役	田中 咲衣花
ビオラケースの女子大生役	田中 由衣夏
古湯温泉山口屋支配人役	栗原 高広

「う・かんばねら」の ロケ地 Map



天山 富士町 富士建設（山口旅館）

皆振山脈



佐賀市歴史民俗館・旧古賀銀行内

浪漫座



富士建設（山口旅館）

さがレトロ館



バーラーラッキー下田店

佐賀県漁協海苔共販センター

R4AA

佐賀県立佐賀城公園

鍋島直正公銅像前

佐賀県立佐賀東高等学校

徳吉ラーメン

枝國医院

川副ショッピングセンター

ラボール



佐賀県立佐賀東高等学校

海童神社

戸ヶ里漁港

小川楽器柳川店

柳川・九研

海苔加工工場

柳川市

佐賀修道館道場

白石町



有明海

千潟よか公園

九州佐賀国際空港

R4A

R49

R30

ピアノ小屋

有明海漁業協同組合
南川副支所

有明海苔漁場



佐賀城公園

海童神社

徳吉ラーメン

戸ヶ里漁港

閉店した店が支援する会の拠点に

映画「ら・かんぱねら」を支援する会

副デスク 松本 真由美

令和5年の初夏の事です。映画の製作を支援する会の手伝いをしないかと声を掛けられました。その映画は、私の高校時代の同級生のお兄さんがモデルとなっていました。好奇心旺盛な私は、やってみたいとの衝動にかられワクワクしていました。まだ、支援する会は発足していないし、事務所もありませんでした。

そんな時です。モデルの徳永義昭さんの妹で同級生から、私の実家を事務所として貸してほしいとの打診がありました。かつて徳永さんも学んだ佐賀東高校の目の前の飲食店だった場所でした。卒業生なら誰もが知る店でしたが閉店して年数が経ち、内部はボロボロで事務所として使うには、かなりの修復をしないと使えない状態でした。

監督やプロデューサーに判断してもらうことにしましたが、結果はNOでした。しかし、支援する会BOSSの川崎賢朗さんや川原常宏事務長などメンバーみんなが、自分たちの手で改装しようと決断され、活動の拠点として事務所にする事になりました。

改装作業は大変でした。でも、支援する会のメンバーや製作スタッフも手伝い事務所らしくなり、ススだらけの顔から微笑みがこぼれています。

事務所が動きだすと、かつて店の常連の同級生たちが次々に訪れ、思い出話に花が咲きました。約40年ほど続いた店が閉店して寂しくなった場所が、再び活気付いた事を両親も喜んでくれると思います。



フードコーディネーターで映画の仲間入り

映画「ら・かんぱねら」を支援する会
副デスク兼フードコーディネーター 川原 麻子

私は、支援する会での大きな仕事のひとつとして、フードコーディネーターを任せられました。映画「ら・かんぱねら」でのフードコーディネーターは、海苔師さんの日常の食卓を再現して、さりげなく映画を裏側から支える役目です。

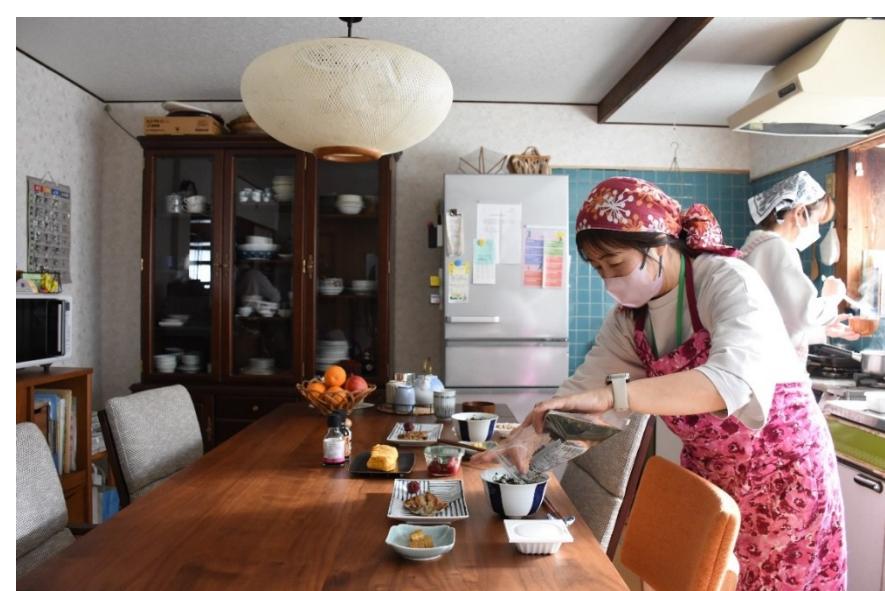
支援する会の藤田あずささん、馬場亜希子さん、納富直美さんと一緒に協力し合って何とか大役をやり遂げることが出来ました。映画の食卓のシーンは、朝食には、お味噌汁・玉子焼き・アジの開きなど、昼食では、海苔を巻いた爆弾おにぎり弁当を作りました。

これが、映画の食卓シーンとして撮影されますが3人とも不安でたまりません。監督に試作を確認して頂き、一回でOKをもらい不安な気持ちも少し晴れたところで本番に臨みました。

映画撮影は、助監督たちがシーンの流れを確認する段取りから始まり、役者が入って何回かテストを重ね本番になります。私たちは、テストで減った料理を元のように整え、またテストと繰り返され、セットの中を出たり入りで大忙しです。さあ次は本番です。3人に緊張が走ります。独特な空気に包まれます。その時、助監督のシーン〇〇番スタートという声が現場に響き、撮影が始まります。息を殺して見守る中”カット”の声の後にハイOK～監督の声を聴いてホッとしたのを今でも覚えています。

視聴した映画の中に、私たちのあの日の出来事が鮮明に映し出され、目頭が熱くなりました。

このような経験は、中々出来る事ではありません。この機会を与えて頂いた映画スタッフに感謝しております。



支援する会での体験は、人生の宝物

映画「ら・かんぱねら」を支援する会

女性部会長 山西 恵美子



振り返って見ますと、令和5年9月に支援する会のBOSS・川崎賢朗さんとデスク・鐘ヶ江留美子さんに声を掛けられ支援する会に参加する事になりました。私は会の為なら、出来る事は何でもしたいとの思いがありました。

実行委員会では、女性部会長にと皆さんから声が掛かり、頑張ろうとしていましたが、實際には、仕事の関係で会社を中々抜けられず、そのため役に立たず迷惑を掛けてしまいました。ロケ中の4月1日の事です。この日は休みだから頑張れると思っていた矢先、膝を痛め、炊き出しの手伝いではカレーの具材やサラダの野菜切りも横目で見ながら、何も出来ない自分が悲しく思っていました。そんな時でも、支援する会の皆さんの温かい対応と眼差しに強い勇気を頂きました。

またBOSSに、小豆島出身の主人まで支援する会に誘って頂き主人と2人で参加ができ、とても出席しやすくなりました。支援する会は、とても素晴らしい仲間たちです。その仲間と一緒に映画づくりに参加できた事や監督をはじめ多くのスタッフと知り合えた事は、私の人生の宝物だと思っています。感謝しかありません。ありがとうございました。



監督との出会いは、八女から

映画「ら・かんばねら」を支援する会

車両部(ドライバー) 今村 久幸

鈴木監督と最初の出会いは、前作「野球部員演劇の舞台に立つ」の撮影が八女市で行われた8年前でした。その後も親交を続け、4年前監督から次は佐賀で映画を作ると原稿を見せて頂きました。監督の思いが詰まったストーリーで、原作について感想を聞かれたり、佐賀弁についてどう思うかなど話しました。

その後、主演は〇〇、奥さんは△△と監督と夢を語りながら、映画の内容を膨らませていき、監督も本気モードになり、何回も台本の書き直しをやっていました。

ロケが始まる3月から、オーデションに応募し参加が決まりました。また、支援する会の活動では、撮影資材を運ぶトラックの運転手をやったり、エキストラ出演と、今まで経験した事のない貴重な体験をさせて頂きました。

映画を鑑賞した時です。台本上で想像していた以上に映像が綺麗で、家族愛(夫婦愛)・仕事仲間との団結・環境問題も提案されており、「素晴らしい映画が生まれた！」と感動を覚えました。

エンドロールに自分の名前を見つけた時は、感極まり改めて貴重な体験をさせて頂いた事に感謝しかないと思いました。

支援する会の皆様、楽しい時間を共有させて頂きありがとうございました。

最後に映画「ら・かんばねら」の全国で大ヒットを祈念致します。



監督と出会い、姪と一緒に映画出演

映画「ら・かんぱねら」を支援する会

炊き出し班 舟越 朝菜

私が鈴木一美監督と出会ったのは、監督がプロデューサーとして製作された福岡県八女市での映画「野球部員、演劇の舞台に立つ」でした。

今度は、佐賀県で監督として映画を撮ると聞き、応援を兼ねて口ヶ地見学に行くつもりだけでした。気が付いて見ると、映画に出演するオーディションがあると聞いては受け、人手が足らないからとボランティアをやり、炊き出し隊で料理もつくりました。その他、美術のセットづくりを手伝ったり、エキストラで出演するなど貴重な経験を沢山させて頂きました。

姪たちも映画に関心があり、上の姪はキャストに、下の姪はエキストラでオーディションに挑戦し、2人とも合格し、それぞれ撮影に参加して素敵なお経験が出来ました。ありがとうございます。

支援する会に参加するまでは「知り合いの監督の映画…」だったのがプラスされ「私も姪も参加した映画…」となりました。ポスター掲示やインターネット配信などで沢山の知人や親戚それに会社の同僚などへ宣伝し、時には通りすがりのお店などに応援をお願いしています。

今では、映画どう？いつから？こっちでもやるの？観るからね！と暖かい言葉に感謝の日々が続いています。後は、仲間のみんなから感想を聞くのが楽しみです。



笑いが絶えないスタッフルーム

映画「ら・かんばねら」を支援する会
スタッフルームチーム 石井 恵美

一番最初にスタッフルームに行った時は、本当に気楽なミーハーな気持ちからでした。

しかし、皆さんと関わって行くに連れ情熱が伝わり、この映画を色んな人に見て貰いたいと云う気持ちになって行きました。そして、自分はスタッフとして何を手伝いできるか、何が出来るか分からぬまま、とにかくスタッフルームへ足を運びました。作業としては、パンフレットの折り込みや電話対応が主な作業でした。

その中でも、オーディションの申し込みの時は、余りにも多い応募があり、対応するスタッフも初めての経験なので、てんてこ舞い状態！毎日遅くまで作業を行い、ぎりぎりで乗り切った想い出があります。

でも、そこでみんなとの仲がグッと縮まったと思います。その後も、色々な事がありましたが、いつもスタッフルームは笑いが絶えなかったです。

一番印象に残ったのは、完成披露試写会が佐賀市の文化会館であった時です。大ベランダアドバイザーの指導のもと、試写会の進行役を担当させて頂いたことです。アドバイザーは、地元のテレビ局で長年経験されていて、まずは落ち着くこと慌てると失敗するとアドバイスがありました。その通りで、落ち着くと全てが見えて、初めての体験が出来ました。

「楽しい」をモットーにした支援する会の皆さんだったので、本当に楽しいボランティア活動が出来ました。ありがとうございました。最後に、私が作ったケーキをいつも美味しく食べてってくれて嬉しかったです。



徳永さんの熱意に感動、支援する会へ

映画「ら・かんぱねら」を支援する会

炊き出し班 川副 由紀子

映画「ら・かんぱねら」に関わったきっかけは、数年前にモデルの徳永義昭さんの奥様・千恵子さんと知り合い、ご主人のピアノに対する熱意と努力の凄さを知って感動したからです。何かの形で協力できないかと思っていたので少しだけですが手伝いができ、そして支援する会の皆さんと活動する事で色々と勉強になり、良い刺激を受けました。

最初は、エキストラでダムの岸辺に植林をするシーンに参加しました。初めての伊原剛志さんと緒形敦さんをお隣にしての出演は、ドキドキワクワクで貴重な体験でした。反面、皆さんが朝早くから準備に取り掛かり、見事な大漁旗が並ぶロケ地づくりに参加できなかった事は申し訳なく思っています。

印象に残っているシーンは、白石町の剣道場での撮影で、伊原さんの真剣な表情で「もう迷つとる暇はなかよな」というセリフに私自身の心も刺される想いでした。協賛金のお願いでは、久しぶりにお会いした人や思わぬ人からの協力だったり、新たなご縁もあって本当に感謝感謝でした。

また炊き出しでは、最後の炊き出しの日に手伝いが出来ました。その日は品数も多く、色々と差し入れもたくさんあり、イベント会場の様によく賑わっていました。メニューが焼き鳥丼、スープ、サラダ、煮物等など、あんな大量に鶏肉を見たのは初めてでした。プロフェッショナルのようなママさんが数名おられ、手際の良さに感心しました。撮影が長引き、片付けを終えたのは夜遅い時間でした。疲れもあるのに皆さん笑顔でした。素晴らしいチームワークです。撮影が終了して徳田邸の家具、食器、小物などの片付けを手伝いました。お茶碗、カップ、ベット、タンスなどほとんどが東京から運ばれてきたとは驚きました。そのどれもが映画では、大きな役割を果たしてセリフのない俳優さん達でしたね。また、次の現場で活躍する事でしょう。

支援する会の皆さんには、パワーいっぱい！個性いっぱい！愛情いっぱい！の人たちでした。皆さんとの共通な思いは、映画館を観客で一杯に出来たら夢が叶い最高です。



夢があれば～いつか叶う

映画「ら・かんぱねら」を支援する会
副事務長兼クラウドファンディング担当 山口 真知



映画鑑賞にハマり好きなことを仕事にしたいと思い、映画業界への就職を志した大学時代。あれから10年、思いもよらない方向に人生は進み、縁もゆかりもなかった佐賀の地で、映画の話が舞い込んだ。

夢を叶えた海苔漁師をモデルにした映画で、映画づくりに携わるすべての人々の夢が詰まった作品となり、地元の支援者が紡いだノンフィクションに私の心は動かされた。

よそ者に無償の愛をささげる佐賀の人々。この県民性に惹かれて私は、ここ佐賀に移住を決断したことを思い出し、その決断を密かに肯定することができた。

撮影現場を通じてその魅力が出演者や製作者に伝わったことは間違いない。スクリーンを通して、この魅力が全国に広がることを切に願う。

本編で描かれた自然と向き合う漁師の尊さ、これを支える人間の愛。普遍的で、観る者、観る時代を選ばない。何年経とうが色褪せないこの作品とともに、佐賀の豊かな人の心を後世に伝えていくことを誓う。



映画での出会いと始まり

映画「ら・かんぱねら」を支援する会

撮影サポート 藤田 泰則

私は2023年10月、映画「ら・かんぱねら」を支援する会の発会式が佐賀市内のホテルで開かれ足を運んだ。

会場へ入ると各メディアの記者の中に、この映画のモデルとなった徳永義昭君と映画を支援する会のBOSS川崎賢朗君がいた。

彼らとは同じ高校の同級生だったが距離を置いていた。「この人が今話題の人か」と…そして、ここで初めて聴いた徳永君の演奏…

その後クランクインとなり、友人が作ってくれた団扇を持参してロケ現場へ！その時、味わったロケ弁は今でも忘れられない。



私は、日頃より映画が好きで多い時には月2本は観ているが、その殆どが洋画で邦画はあまり興味がなかった。そして暫くして試写会の日がやって来た。初めて観た映画「ら・かんぱねら」は、あまりの素晴らしさに言葉を失った。

この映画は、1人の男のサクセストーリーに止まる事なく、ピアノという音楽を通して苦悩と葛藤が交差しながら、家族愛・友人愛・隣人愛が描かれている。そう、映画と言えばパソコンや携帯で観る昨今ではあるが、やはり映画は劇場へ足を運び大画面のスクリーンで観るのがベストである。そうすれば、感動や喜びが倍増するに違いないと思います。

想い出の一枚



深夜の食事準備



佐賀城公園で記念写真



炊き出し隊の休息



浪漫座で記念写真



クランクアップ



SAGAアリーナでのPR活動

愛車が衣装運搬車として活躍

映画「ら・かんぱねら」を支援する会
広報部(SNS担当)兼ドライバー 藤田 佳典

映画「ら・かんぱねら」の撮影に向けて、先乗りしてきた撮影部スタッフが県内のあちこちを駆け回って、撮影地や機材、小道具などを選定している中で、私に白羽の矢が立ったのは「衣装運搬用に自家用車を提供して貰えないか？」との要請でした。

当時キャンピングカー仕様に改造していましたが「もちろんOK！」の二つ返事で、息子と二人ですべての機材を車から降ろし、数時間かけて空っぽの状態にしました。それから、スタッフの要望通りに棚と衣装掛けを設置しました。映画のロケ中は大変な活躍をしてくれて、約1か月間衣装運搬車としての務めを終え帰っていました。実は、ちょっとだけ接触事故も起きましたが、小さな傷程度だったので記念に残しています(笑)

私もロケ中は、ドライバーやエキストラ、スタッフ補助、SNS広報部など色々と経験させて頂き、映画のスタッフから「これは佐賀モデルと言っていいですよ！こんなにボランティアの皆さん達が協力して動いてくれたことはないよ！」と言って貰いました。

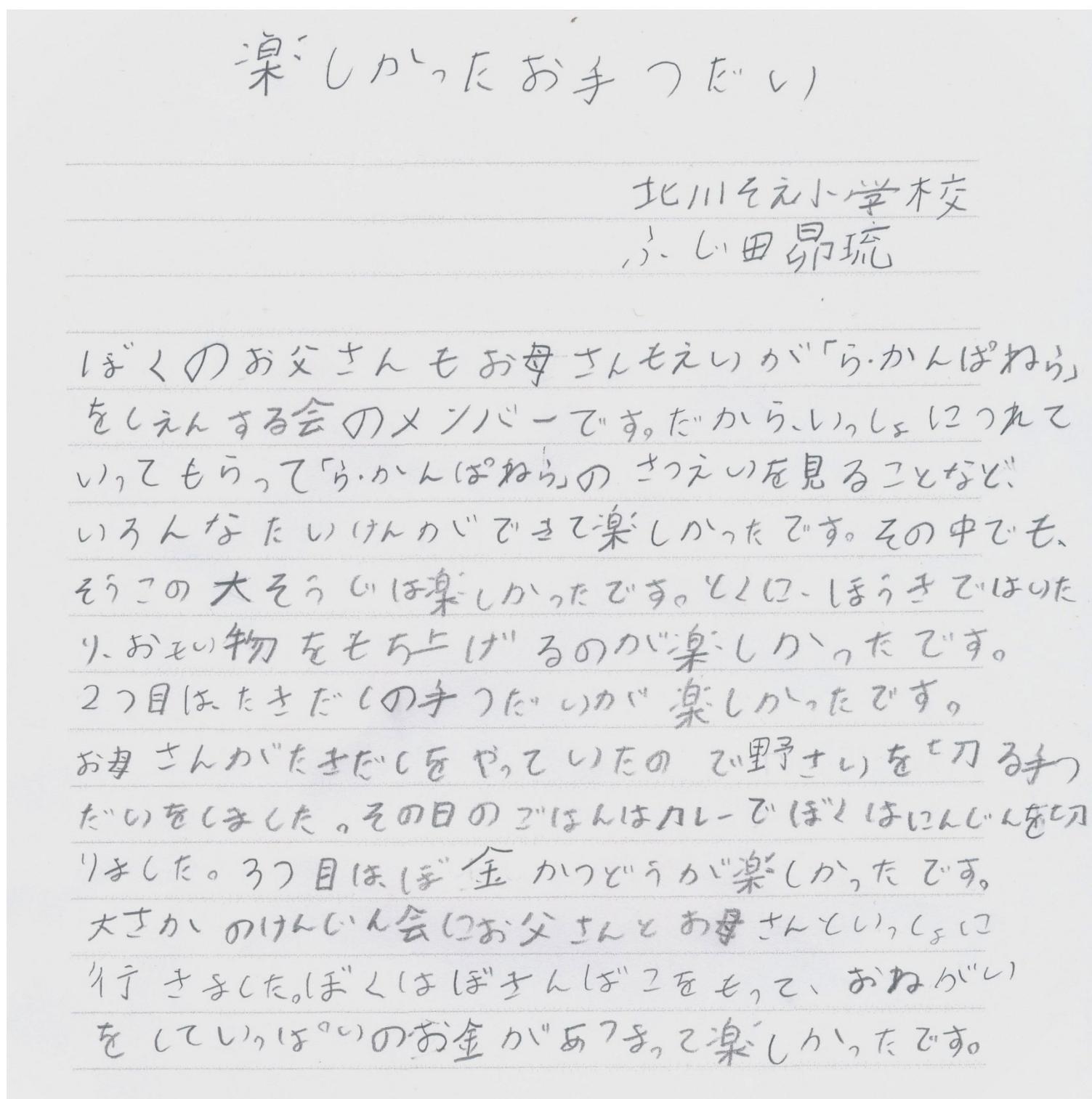
きっと映画に関わっていなければ出会うことはなかったであろう素晴らしい仲間達に。

感謝を込めて…そいぎまた(^^)/~~~~~



支援する会に参加して

映画「ら・かんぱねら」を支援する会 藤田 昂琉



腹をくくって、いつもの食卓を演出

映画「ら・かんぱねら」を支援する会
フードコーディネーター兼データ管理 藤田 あずさ

ロケが始まる約1週間前の事です。撮影に使う料理を用意して欲しいと話がありました。スタッフルームの白板にある「スケジュール表」を見ながら、早く料理を決めないと撮影が始まってしまう！大変だ！との思いでメニュー会議がはじまりました。

朝食ならばこのおかずがいいんじゃないか、佐賀といえばこれを使いたいなどフードコーディネーターの仲間と話し合いを重ねました。作った料理は、まず試食会で監督や製作スタッフの了承を得てから、3日間の食事風景の撮影になりました。

私と同じく料理担当の川原麻子さんが担当した初日は、朝食と昼食の2シーンで、ご飯や味噌汁、卵焼き、我が家の中華麺にんにく唐揚げ、ひじきの煮物におにぎりなどを大量に抱え、撮影場所の徳田邸へと向かいました。

映画のプロの集まりの撮影現場に素人2人が紛れ込んだ形になり戸惑いましたが、スタッフから「2人のいつもの食卓を作ったらしいんだよ。食器の並べ方も地方によって違いがあるかもしれないし、それは私達じゃわからないんだから。自分たちの自然なやり方でやってね」と声を掛けられ、腹をくくることができました。

現場の張りつめた空気を感じながらモニターを覗かせていただき、カットがかかるとせわしく次の準備をする私達に「美味しい」と声をかけてくれる役者さん、ありがとうございました。映画をぐっと近くに感じることができた素晴らしい一日でした。



映画「ら・かんぱねら」に携わって

映画「ら・かんぱねら」を支援する会

支援チーム 稲富 紀子

「同級生のことが映画になる」と聞いた時は、「すごいねえ～」くらいで他人事の想いでした。ある日の事です。ちょっとした用事で支援する会の事務所に立ち寄った時、狭い事務所の中では、楽しそうにみんな笑顔で活動されていました。

そして、同級生で事務局長の川崎賢朗さんから「一緒にやろう」と声を掛けられ、これがキッカケで少しずつ活動に関わるようになりました。しかし、仕事の都合もあり撮影のボランティア活動は、参加したかったけど、何も手伝えないままクランクアップを迎えるにはほんとに申し訳ない思いでいっぱいでした。



その後、支援する会の会議に参加してみると、支援金のお願いや今後の宣伝広報などを真剣に話され、ひとりでも多くの方に知って貰いたいという熱い思いが伝わり、支援の輪が拡大している事を強く感じました。本当に凄いことだと実感しました。

佐賀市文化会館での完成披露試写会の日、キャストのみなさんが舞台挨拶の中で、支援する会の努力と熱意を褒め称える話をされたときは感動でした。また5分間のエンドロールは、まるで映画の一場面のような感覚でした。

佐賀人として、この映画に携わるチャンスを頂いたことに心から感謝しています。



映画の体験は、人生の糧になった

映画「ら・かんばねら」を支援する会

支援チーム 池田 莉奈



私は、友達の紹介で映画「ら・かんばねら」を支援する会に入って撮影に関わる機会を頂きました。その当時、私は高校3年生でした。

初めて事務所に入った時、知らない人がほとんどで事務所では、支援する会の人や映画スタッフと打ち解けるまで時間が掛かり、緊張していた事もありますが同時に楽しみが混じった気持ちだったのを覚えています。ロケでの撮影の機会には、あまり参加する機会はありませんでしたが、想像以上にスタッフの人が多いのに驚きました。こんなに支えているスタッフがいるから、1つの映画が成り立つ事を知りました。

撮影の中でエキストラとして参加した時です。最初から一人だけカメラに写っていてとても緊張し、NGシーンを出してしまい迷惑を掛けました。その時、南果歩さんから「大丈夫」と声を掛けて貰い安心しました。カメラの前での演技がどれだけ大変か分かりました。

監督は、スタッフの意見をなんでも取り入れていて、何故なのか疑問に思っている部分もありました。監督と一度話をした時に、「その分野の人の意見を取り入れると、よりよい作品ができると思う」と言われました。そんな考えを持っている人もいるのかと学びました。

監督は他の事に対してはこだわりが強いところがあるので、ロケ中に要望などがたくさんあり振り回された事もありました。

撮影前からスタッフをしていましたのでロケ地での撮影禁止の張り紙やオーディションの申込者のまとめ、それにポスター配りなど支援する会のスタッフと一緒に活動する事が出来ました。こんな小さなお手伝いでも映画に何らかの形で還元できると感じました。振り返ると、撮影時は映画に関する知識は全くなく不安になった事もありました。経験したことは初めての事ばかりで、苦戦の連続でしたが新しい世界を見る事ができ、良い人生の糧になったと思いました。

台本を読み返し、自分なりの海苔監修

映画「ら・かんぱねら」を支援する会

海苔監修 佐々木 成人

映画撮影現場は、今まで経験したことのない場所でした。俳優たちの表情や仕草、その合間に見せる稽古での真剣さは凄い迫力でした。華々しく表舞台で脚光を浴びる俳優さんの陰には、カメラ照明、録音などの道のエキスパートが一つの作品のために協力し合い、時にはぶつかり合いスタッフ一丸で最高の映画を創るために日々努力される姿が伝わってくる最高の現場でした。

私は、海苔監修の大役に指名され荷が重かったのですが海苔の事、作業の大変さ、何より佐賀海苔の品質と味の良さを多くの人に知って貰おうと海苔監修を受けました。有明海の現場では、「潮の流れ」「風の向き」は勿論の事、俳優たちが本物の海苔師に見えるか自分なりに考えて、何度も台本を読み返し指導しました。

こんな事が現場ありました。有明海の特徴でもある6メートルに及ぶ干満の差での出来事です。リハーサルを繰り返すと潮位が変動して、本番では見える風景が変わりました。こんな時こそ、我々海苔師の出番です。海苔網の高さを調整し、船の位置を移動し万全の体制で本番を迎えました。潮の満ち引きは、映画だろうが何だろうが待ちません「宝の海有明海は偉大」でした。

主役の伊原剛志さんが映画の中で「潮は待たんぞ!!」というセリフを言いますがこのフレーズは、海苔師の人との雑談の中から伊原さんが気に入りセリフに取り入れた秘話でもあります。まだまだ、たくさんのエピソードと出会いました。

私が映画創りに参加し言えることは、本当に楽しかった一言に尽きます。大変だったことや、思いや考えの違いもありましたが仲間との出会いもあり、本当に楽しかった。最後に映画「ら・かんぱねら」を支援する会の仲間に会えたことに感謝申し上げます。



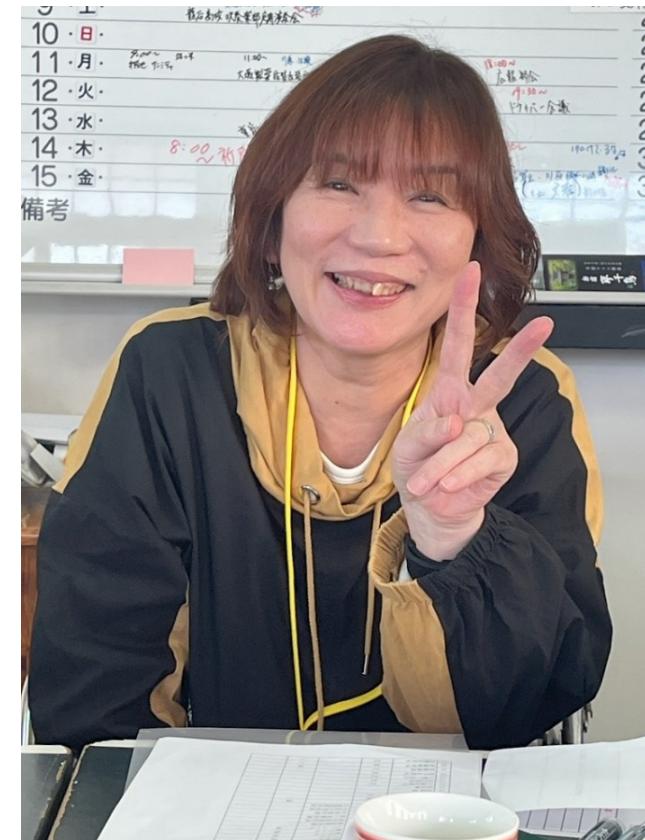
美味しそうに焼けたが…実は！？

映画「ら・かんぱねら」を支援する会
フードコーディネーター 馬場 亜希子

映画スタッフが食事を取りるために設営されたテントで干物を焼く練習をしました。キャンプ用のガスコンロを使って1回目の試作を焼きました。結果は大失敗！魚の形はボロボロで悲惨な焼き上がりになり大笑いでした。

撮影に使われた干物は、見た目重視ということで、焼き上がりはとても美味しい焼けました。しかし、実際は中まで火が通っていない生焼けです。でも映像では、綺麗に映し出されてました！

塩海苔は、海苔師の家庭で常備品だと聞いてます。伊原剛志さんも「これは美味しい」と言って、撮影の合間でも食べて下さいました。



海苔小屋を改修したピアノ部屋で食べるシーンのお弁当は、コンビを組んだ川原麻子さんと相談し「爆弾おにぎり弁当」に決め試作を行い監督へ確認。確認後のお弁当に製作スタッフが群がり、あっという間になくなってしまいました。スタッフが美味しそうに食べている姿を見てとても嬉しかったです。皆さん是非、映画の中の食べ物にも気を配って見て頂ければ幸いです。

映画製作は、段取り、テスト、本番と繰り返しながら撮影されていく事を目の前で見る貴重な体験が出来ました。その中でも、伊原剛志さんと南果歩さんの心のこもった演技には魅了されました。

最後に、私がフードコーディネーターを楽しくできたのは、いつも笑顔で過ごせた仲間たちのおかげです。ありがとうございました。



美味しい、ありがとうに嬉しくて頑張った

映画「ら・かんぱねら」を支援する会

炊き出し班 北村 由美

職場の人たちからの勧めや高校球児の寮母をしていたので手伝い程度ならと気軽に参加したもの、いつしか「おもてなし隊」炊き出し班のリーダーに任命され驚くばかりで不安もありました。

ロケ現場での炊き出しは、差し入れや協賛の品などを考慮し、メンバーで事前に献立を決め不足の品物は買い足しを行って、当日は作るばかりに準備をしていました。



しかし、出来上がるまでの時間の制限もあって、ゆっくりはできない状態でした。でもみんながテキパキと動いてくれて、どんどん料理が出来上がっていきました。

また、私が失敗したり味付けを決めかねていると仲間の皆んなが寄り添って来てフォローしてくれました。

そんな中でも一番の楽しみは、空いている時間を利用したおしゃべりタイムでした。みんながとても明るくて、色々な話が聞けて時間の経つのを忘れてしまう程でした。

そろそろ食事の時間ではと配膳に取り掛かろうと思っても、撮影が押したりで温かい物が冷めないかと心配したり、逆に煮詰まり過ぎないかと火の調整に手こずってました。そんな苦労を知ってか鈴木監督や俳優さん、それに製作スタッフの方々が「美味しい」「ありがとう」等と声を掛けて頂き嬉しい気持ちでいっぱいになりました。主演の伊原剛志さんは、どんな天気の日でも毎回来て頂き、私たちの作った料理に必ず笑顔で声を掛けてくださった素敵なお方でした。

最後になりましたが炊き出しスタッフの皆様にはかなり助けて頂き、本当に感謝しかありません。ありがとうございました。

支援する会で懐かしい出会い

映画「ら・かんぱねら」を支援する会

副デスク 千住 友二

令和5年秋、不思議な物語のスタートになりました。例年になく、たくさんの花苗を買い求めたのです。オーガニック野菜を育てたり、寄せ植えをつくりすることが趣味の一つで、土いじりが大好きです。

10月、友人から映画「ら・かんぱねら」を支援する会の発会式に誘われました。内容は、海苔漁師が、フランツ・リストの「ラ・カンパネラ」に挑戦し、見事演奏できるようになるものでした。徳永義昭さんとは2回目の出会いで、川口プロデューサー、鈴木一美監督との出会いにもなりました。



流れが大きく変化したのは、今年2月からです。スタッフルームへお手伝いに通うようになりました。日に日に会話が増えていき、これまで知らなかつた人達と仲良く、楽しく、頼まれるままの作業、仕事をこなしていました。

何気ない会話の中からいろんな発見、出会いが見つかりました。そのひとつは、モデルとなつた徳永義昭さんの長男の奥様です。30年前受け持つた卒業生の妹さんでした。小3の時の顔を今でもよく覚えています。また、映画に出演している佐賀市出身女優川崎瑠奈さん、六年生の時の担任は我が家によく泊めていた元同僚というサプライズもありました。

お手伝いを進めていく中で、私の役目は文書を作成する役が固まつていきました。人のお役に立てる、何と素晴らしいことでしょう。自分にできることで周りの人が喜んでくれる。ふと気づいたことは、この映画「ら・かんぱねら」がもつ、人と人との結びつけるエネルギーのようなものなんだということです。

不思議な物語とは、昨日まで知らなかつた人と人とが結びついていく「縁」のようなものということを感じました。そうです。私の育てた寄せ植えが映画「ら・かんぱねら」にエキストラ出演していました。これまたビックリ！

襟元の缶バッヂに声を掛けられた

映画「ら・かんばねら」を支援する会

商工部会長 山西 淑朗

口ケが終わって上京した時の事です。羽田空港のターミナルビルの前で、大宮行きのリムジンバスを待っていた時です。私の襟元をじっと見つめてる女性が「すみません。少しお話し良いですか」と声を掛けてきました。

「リストのラ・カンパネラ、お好きなんですか？私もピアノを弾きますので…」との事でした。確かに私は、襟元に「ら・かんばねら」の映画の缶バッヂを付けていました。

この缶バッヂは、佐賀での口ケ中に亡くなった支援する会スタッフの原征治さんが作ったものでした。

女性は広島の方でした。私は、支援する会の名刺を渡し、映画の事を話しました。

「佐賀の海苔漁師がリストのラ・カンパネラを独学で7年の歳月を掛けマスターされ、夢を叶えた物語で家族の愛が盛り込まれたドラマなんですよ」と話すと女性は、「凄いですねえ。頑張ってください。私も必ず広島で観ますから」と励ましてくれました。

私の出身は小豆島で、佐賀東高のOBでもなく海苔の関係者でもないですが、ご縁があって支援する会のスタッフになりました。映画を通してスタッフの皆さんへの映画に対する気持ちの強さを感じ心を動かされました。

ありがとうございました。



元気を貰った、お客様の対応

映画「ら・かんぱねら」を支援する会

支援チーム 中溝 由美子

映画「ら・かんぱねら」が2025年1月31日にイオンシネマ佐賀大和で先行上映開始となった。その舞台挨拶で主人公の妻役南果歩さんが、「支援する会の皆さんの卒業式でもあり、作品のスタートの日」と言わされたが、なんと、私にとってはこの日が映画に関わるスタートの日となったのです。



映画撮影中は何の手伝いも出来ず、オーディションや佐賀市文化会館での試写会等数える程度だった。

定年退職し時間も出来たので、支援する会の一員として出来る事をしようと、上映中の3月中旬からは映画館の券売機でお客さまがチケットを購入する際のお手伝いを始めた。連日多くのお客さまがいらして、満席で当日の入場が出来ずお断りする日もあり心苦しかった。



中には、「高速使ってきてたのに・・」と呆然とする方がいらっしゃって、何とか翌日の予約をし、再度足を運んで頂き有難いと心から思った。また、発券機の操作が難しく、お手伝いが必要なお客さまからは、「よかったです～ひとりでは買いきらんやったよ！ありがとう！」と笑顔で感謝された時は、お役に立ててよかったですと逆に元気をもらつた。

1月31日の公開から連続で上映期間が延長され観客動員数も記録づくめの勢いだが、私も微力ながら貢献出来たのではないかと自負している。

映画を通して貴重な経験が出来、支援する会に声をかけて下さった川崎賢朗さん、鐘ヶ江留美子さんには感謝の気持ちで一杯です。ありがとうございました。

想い出の一枚



令和6年11月17日完成披露試写会



イオンシネマでの特別試写会



完成披露試写会スタッフ



伊原さんとKBCテレビでPR



伊原さん舞台挨拶前に事務所へ



BEERパーティーの記念写真

現場を癒したミュキティー

映画「ら・かんぱねら」を支援する会

車両部(ドライバー) 竹下 美由紀

私にとって、映画「ら・かんぱねら」との出逢いは、本当に意味あるものになりました。

28年間勤めた会社を退職する事を決めたタイミングで、知人から一緒にボランティアをしようと誘われたのがキッカケでした。もう二度と映画製作に携わるチャンスはないと思い、二つ返事で承諾したのが始まりでした。

ボランティアは、俳優さんや製作スタッフの為の炊き出しの他、製作スタッフをロケ現場まで送迎するドライバーを主にさせて頂きました。

撮影現場では、映画製作の過程など十分に楽しませて貰い、ボランティアというより一緒に映画スタッフになつた感情が大きかったです。

その中で、みんなが疲れているだろうと思い、コーヒーやお茶だけでなく、甘い飲み物(ミルクティー)で疲れを取ってあげたいとの気持ちから、毎日、現場に持つて行く様にしてました。

その度に、スタッフのみんなから「待っていたよ～！ミュキティー！」と、私の名前とミルクティーを掛け合わせた「ミュキティー」が定着し喜んでくれました。そのことが、私自身の楽しみにもなっていました。

また、孫と一緒にエキストラにも参加できて、今までにない経験もでき、本当に意味のある映画となりました。

そして、素晴らしいボランティアの仲間との出逢いにも感謝！



俳優の近くでエキストラ！大興奮の私

映画「ら・かんぱねら」を支援する会

支援チーム 緒方 珠美

私は、佐賀市の浪漫座であったピアノの発表会のシーンにエキストラ出演が叶いました。

人生初の映画の製作に関わった事は、私自身最高に興奮した1日でした。広い浪漫座には、エキストラ100人以上がぎっしり席を詰め、正面のステージには、ピアノが準備されていました。その中、助監督たちが映像に主役が上手く撮影できるように席替えを繰り返していました。

私は、同じ会場に主役の伊原剛志さんや南果歩さん、それに大空眞弓さんがいるだけで感情が高まっていました。

決まった席は、真正面から見たら、なんとなんと伊原さんと大空さんの間だったんです。それだけで私は、緊張で胸が震えていました。目の前での演技には、大興奮で溢れ出るオーラが半端でなく、大俳優だと思いました。

南果歩さんは、とてもチャーミングで素敵な声で登場された瞬間、会場のエキストラの皆さん顔が綻び拍手が沸きました。

これまで、テレビの画面越し、映画ではスクリーン越しでしか見ることが出来なかった俳優が、私の目の前で見る事ができ、感動・感激・大興奮の1日でした。

一生の宝物です。大切にていきます。



セットづくりの細やかさに驚き

映画「ら・かんぱねら」を支援する会

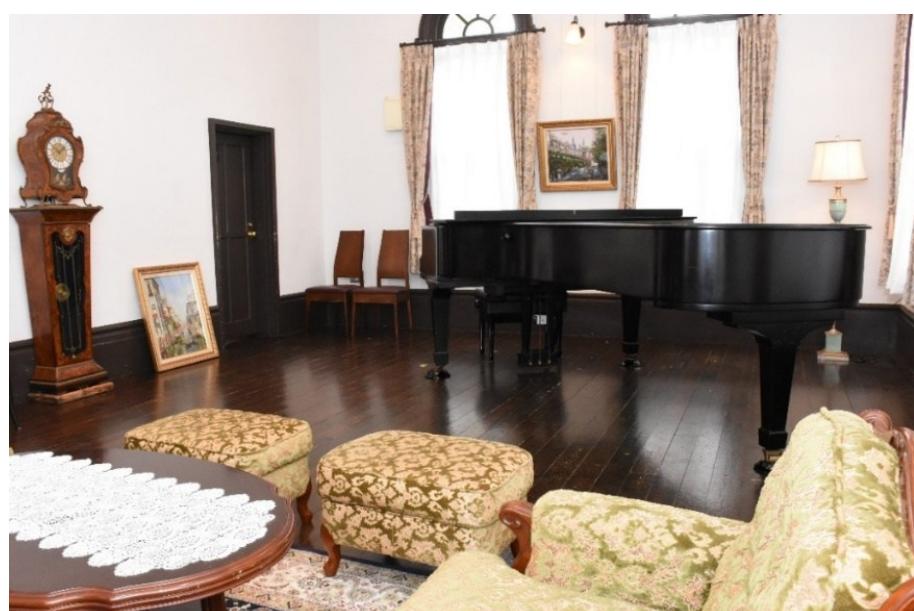
支援チーム 池田 史子

「池田さん、あさって映画の話し合いのあっけん来んばよお！」と次男の友人の父、久米善彦さんから電話がありました。以前聞いた話ではあったものの“マジか！”困ったことになったぞ！面白半分で「手伝うよ」と言っただけなのにと思いつつも話し合いに参加してみました。支援する会の実行委員会に2回、3回と参加するうちに、映画製作の進み具合を楽しみにするようになりました。

私にとって2~4月は仕事上一番忙しい時ですが、合間にぬって撮影準備の手伝いをしました。まずは、川副町川崎邸の海苔小屋2階の大掃除からです。床が抜けそうになりながらの掃き掃除や片付けなど、ほこりが舞う中の掃除は鼻の奥まで真っ黒け。(笑)

その後、牡蠣殻に色を塗る作業です。美術担当の黒瀧きみえさんの指示で色を塗り始めたものの黒瀧さんが首を傾げ始めたので、みんなは一端手を止めました。海苔の種付け用の牡蠣殻と色合いを比べながら、色の調合を何度も何度も繰り返され、納得された黒瀧さんからの“GO！サイン”で再開したのでした。

口ケも順調に進んでいるころ、スタッフと共に大道具倉庫から、テーブルや椅子等を佐賀市のレトロ館に運び入れた時の事です。レトロ館は、大空眞弓さんの自宅になり、映画では重要なシーンのひとつです。だからでしょうか、装飾担当のスタッフがテーブルや椅子の位置をミリ単位で動かされたり、光の入り具合を確認される等、プロのこだわりを肌で実感し、映画づくりの世界にどっぷりとのめり込んだ私でした。



応接セットづくりは最大の自慢

映画「ら・かんぱねなら」を支援する会

広報部(情報収集担当) 島ノ江 素子

映画「ら・かんぱねなら」を支援する会に参加することが出来て、幸せで誇りに思います。

支援する会で感じたことは、皆さんの映画に対する熱意と仲間を思う心です。とても素敵で愛に溢れた人たちでした。仲間ひとりひとりが自主的に何か出来ることがないかとコツコツ動き、その積み重ねが大きな力となって話題を作り上げて行ったのでした。

また、映画の中で、元ピアニスト石田秋子役の大空眞弓さんが「夢があれば、生きていいける」と語りかけるシーンは感動でした。それは、支援する会のみんなが目標に向かって進む姿で映画そのものでした。



個人的には、テレビドラマなどでよく拝見していた大空眞弓さんが出演した、佐賀市のレトロ館で部屋の応接セットづくりを手伝った事は最大の自慢です！

そして、素晴らしいキャスト、スタッフ、支援する会の仲間が誇りです。これからもこの映画が多くの方に届きますように祈念いたします。

本当の仲間と言われ、最高でした

映画「ら・かんぱねら」を支援する会

車両部(ドライバー) 北村 佳子

この映画のスタッフに入ったキッカケは、映画「ら・かんぱねら」を支援する会の久米善彦さんから「炊き出しとか暇な時だけいいから手伝って」と軽い気持ちで誘われたのが始まりです。でも夢のような1ヶ月でした。

初めての体験ですが映画スタッフとの関わりを持たせて頂いた事に感謝致します。中でも、川副町小々森で主役の自宅になる田中邸の掃除の手伝いに行って美術担当の黒瀧きみえさんとは仲良しになりました。それからです。黒瀧さんは、富士町の口ヶ地を下見に行ったり、同じ川副町の川崎邸の海苔小屋をピアノ部屋に変えるための作業で、壁の色塗りや美術助手の鈴木貴士さんを交えて防音シートのカットなど手伝いました。

「凄く簡単な作り物」が撮影されたモニターに映し出されると、私が色塗りしたとは思えないほど、本物のように見えて「これぞプロの技だ」と感心させられました。



作業の合間の事です。とっても嬉しかった事がありました。それは、甘い物が苦手な私に、貴士さんが「仲間だけが食べられるお菓子を食べて」と差し出され「よしこさんは本当の仲間だよ」と言われたのは最高でした。

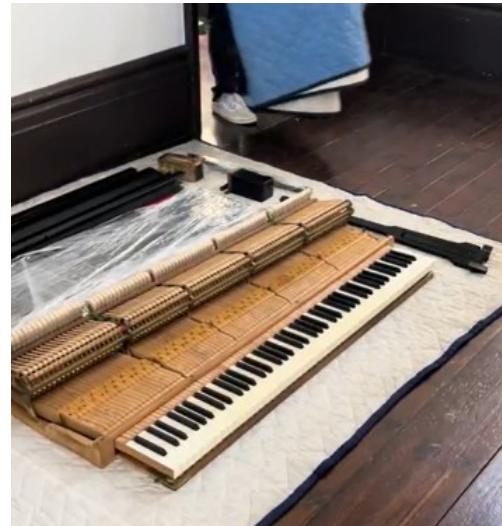
他にも、映画関係者を口ヶ現場まで移動するためのドライバーも担当しましたが楽しい事ばかりでした。口ヶ現場で邪魔にならず過ごせる場所を見つけました。それは、録音担当の清水雄一郎さんのところで、全体の進行も分かるしモニターで本番の映像も見られ何時間いても飽きませんでした。特に面白かったのは、清水さんのボヤキで、それがもとで楽しかったです！(笑)

広報部員ちえりんは見た！

映画「ら・かんぱねら」を支援する会

広報部 進 智恵

口ヶ期間中、行けるときは現場を取材にお邪魔していました私。こんなに撮影の裏側を見て回ったのは私くらいかもしれません。その中でも一押しの現場をお伝えします！



§ 1 グランドピアノ空中大作戦！！

この現場は、新聞にも掲載され、かなり話題になりました。斯坦ウェイのグランドピアノを佐賀市のバルーンミュージアムからこのさがレトロ館へ移設するという難易度高い現場でした。実はこの後が大変だったらしく、ピアノを運び出すシーンの撮影をしてからピアノを梱包してトラックへ積み込み、既に夜中だったので運送会社の倉庫へいったん預けて後日時生のピアノ部屋へ運ぶという、撮影部、ピアノ運送会社、調律師さん、すべてのスケジュール調整が神がかりに合わさってのピアノ大移動だったようです。



§ 2 調律師さん役の方の役者魂が凄い！

この大移動作戦の時、調律している様子を学びに調律師役の女優さんが来られました。実際に調律師の手さばきを見て色々尋ねておられ、その後YouTubeなどで調律の様子を見て学んで撮影に挑まれたそうです。

映画の中では、数分の場面なのですが、私にとってとても印象深いシーンです。

記録写真から見た、素敵な仲間たち

映画「ら・かんぱねら」を支援する会

広報部(撮影班) 飯田 豊一

3月14日早朝、映画の祈願祭が川副町の海童神社で行われました。とても寒かったのですが、いよいよ始まるとの士気の高揚からか境内は緊張の中にも和やかなムードに包まれていました。記録写真の撮影はここからが始まりました。

3月17日は、クランクインで撮影がスタートしました。私はロケ隊に同行し有明海まで行きましたが、ほとんどが海での作業シーンばかりで、とにかく寒かった思い出があります。そんな過酷な撮影が続いている中、支援する会の炊き出しスタッフが準備した温かいスープが癒しになったのか、食事中は、終始和やかな雰囲気になり俳優や撮影スタッフから感謝の声が掛っていました。その上、炊き出しスタッフとのグループ写真やツーショットなど写真に応じられていました。

その後、4月12日のクランクアップまで佐賀城公園や浪漫座、そして東与賀海岸などの撮影が続いたのですが、その間に有名な俳優さんや有名な作品に携わってこられたスタッフの方と会話ができ、普通じゃ考えられない時間を過ごす事が出来ました。

俳優さんたちや撮影スタッフの皆さん、そして支援する会のスタッフさんは、これ以上ない素晴らしい素敵なお方ばかりです。

皆さんに巡り会えたことやこの映画に携われたことは、一生の宝物として想い出に残っていくと想います。



芸能界への第一歩

映画「ら・かんぱねら」を支援する会

広報部 納富 美聰

この映画の存在と出会ったのは、母の弟が亡くなったタイミングでした。法事の後に、学校や将来の夢について親戚の人たちと話をしていました。事務長の川原常宏さんから誘いがあり、支援する会に参加しました。今思えば母の弟が、繋いでくれた素敵なものだと思っています。

当初、役者は雲の上の存在だと思っていたので関わることはないと思っていました。しかし、伊原剛志さんや緒形敦さんをはじめ、主要キャストの人と話すことが出来たのは、とても光栄でした。皆さんに頂いたサインは、上京してから頑張る糧になっています。そして、会う度に声を掛けて頂けることに感謝しています。

高校生最後の年に、製作の手伝いや映画に関わったことはありがたく、ここまで撮影現場が「居心地がいいな」と思えることはないと思います。

卒業後の今は、芸能の専門学校で裏方を学んでいますが、この経験を大事に活かし今後の現場づくりの参考にしたいと思っています。素人なのに、照明の担当者に今後の話を気楽に話せたり、手伝えたことが、とても嬉しかったです。使う機材や職種は違いますが、誰よりも早く現場経験が出来たのは良かったです。また、製作で大学生の人とも出会え、たくさん手伝うことも出来たし、こんな仕事もあるんだと勉強になりました。

私は今後、映画とは交わることのない職に進むかもしれません。でも、私にとって生まれて初めての現場は「ら・かんぱねら」だし、将来の夢への第一歩でもあります。この映画に関わったことで、夢があればどんなに辛くても「その夢に向かって頑張れるんだ」という事、人のつながりや関わり方を学ばせていただきました。本当にありがとうございました。



キャストとスタッフの両輪で活躍

映画「ら・かんぱねら」製作スタッフ
キャスト兼エキストラ担当 川崎 瑞奈

キャストとスタッフを同時並行で参加する作品は初めてでした。

18歳で佐賀を出て約8年、26歳になった私はいま、俳優として地元に帰り、皆さんと一緒に映画製作に関わるなんて想像も出来ませんでした。

ふるさとは温かく出迎えてくれ、何よりも心を通じ合える仲間に出会えた事と合わせて、一緒に同じ温かいご飯を食べて過ごした時間は私の宝物になりました。

撮影も終盤に入り、私の出演するラストカットの時でした。支援する会の皆さんや小さい頃から応援してくれる地元の皆さん海苔小屋まで足を運んでくれて、「るなちゃんの最後の撮影だから頑張れ！」と言って励まし、映像が映し出されるモニターの前で見守ってくれました。皆さんに何とお礼を言つたら良いか分かりません。

オールアップの時には、主演の伊原剛志さんや製作スタッフの皆さんに囲まれて迎えられたことや花束を頂いたこと、そして控え室に戻る時に支援する会の皆さん笑い泣きしながら花道アーチをつくって見送ってくれたことは、今でも鮮明にその時の光景が浮かびます。あんなに温かなオールアップの瞬間は、絶対に忘れません。

映画に携わりながら、必死に頑張り抜いた毎日は私の財産となり最高の時間でした。
素敵すぎるキャストやスタッフの皆さんとの出会いを頂いてありがとうございました。
全てに感謝です。



エキストラ同士で話した演技

映画「ら・かんぱねら」を支援する会
スタッフルームチーム 石隈 由紀子

演技経験も無く勢いだけでエキストラオーディションに応募しましたが見事に落選しました。でもオーディションが意外と楽しかったのでセリフはないですが役者の後ろを歩くなどのエキストラの登録をしました。

そして、エキストラでの出演チャンスを待ちながら、最初は初めて映画に出演出来るかもと期待でワクワクしていました。しかし、運良く出演出来たとしてもカット割の都合などで映像に映らない可能性は大いにあると聞き、出るからには映れば良いなという気持ちと不安な気持ちが入り混じりつつの中、佐賀城公園での撮影にエキストラの声が掛かったのです。

当日は凄く綺麗な青空で、天気も佐賀城での撮影を喜んでいるように感じました。私の役は、友人と公園内を歩く事や親子4人で観光するものでした。役の設定とざっくりとした動き、口は動かして欲しいが声を出さないようにとの指示があった以外には自由に演技して良いとのことでした。少しでも自然な演技が出来るようにと、撮影前にはエキストラ同士で自分たちの役の設定を更に細かく決めてセリフも作りました。即興で作ったエキストラの小さな物語は誰にも気付いてもらえませんが私にとっては大切なワンシーンになりました。

佐賀城でのエキストラは撮影の度に人の組み合わせがシャッフルされました。組む相手が変わることは珍しいことではなく、相手が変わっていても映画を観ている人にはほとんど気付かれないと見えます。普段はあまり注目されないエキストラですが、一度注目して観てもらえるとまた違った一面が見えて面白いと思います。初めてだらけのエキストラでしたが、緊張しつつも全てが最高に楽しかったです！！貴重な経験をさせていただきありがとうございました。

そして、映画「ら・かんぱねら」は、沢山の素敵なお人たちが一生懸命作った映画です。末永く多くの皆さんに見てほしいと思っています。



素敵な出会いと体験に感謝

映画「ら・かんぱねら」を支援する会

車両部(ドライバー) 深川 ひさみ

「佐賀で海苔師さんの映画撮影があるよ…」と噂を聞いて1ヶ月後です。まさか、この映画に関わることになるとは夢にも思わなかった。

まずは、ロケ地となる徳田邸の掃除から始まり、荷下ろし作業と着実に映画作りが進んでいくが私の好奇心は「そんな細部まで！」「凄い！」と興奮で心が揺さぶられていた。そんな中、俳優の伊原剛志さんが佐賀に到着したと伝わり、私の興奮もMAXに達していた！最初は、伊原さんに会えるという浮ついた気持ちがありましたが、ドライバースタッフとして現場に向かった初日にその気持ちが一瞬で吹き飛んだことを思い出した。



「段取り～！」あちらこちらから聞こえる業界用語、聞き慣れない言葉が飛び交う現場では、撮影クルーの無駄のない連携プレーと地元海苔師さんの手際の良い作業が続いた。戸ヶ里漁港から船に乗り込み、有明海に向かう伊原さんや撮影クルーが支援する会のみんなに向かって「行ってきまーす」と大きな声を張り上げ出港して行った。エンターテイメント＝キラキラした世界とはまるで違う裏側を目の当たりにして、私もドライバーで参加している以上は、迷惑をかけられないと下見に行って、道に迷わないように真面目にお手伝いをさせていただきました。(笑)

撮影最終日、海苔小屋に響く伊原さんのピアノの音、モニター画面に映る伊原さんをみんなで見ながら涙で鼻を啜る音を堪えたあの時間は一生忘れる事はない貴重な体験でした。待ちに待った公開日から暫く経ってやっと映画館に足を運ぶことができ、私の体験は号泣で幕を閉じました。

こんなに素晴らしい作品に関わったこと、笑いの絶えない楽しい場所で温かく迎え入れて下さった支援する会の方には感謝の気持ちでいっぱいです。本当に有難う御座いました。「ら・かんぱねら」最高～！

エキストラ出演は俳優になった気持ちに

映画「ら・かんぱねら」を支援する会

炊き出し班 福田 京子

私の映画「ら・かんぱねら」との出会いは、エキストラ募集に応募して、大勢の中から選ばれた事から始まりました。どんな雰囲気であってるか興味があり、初めて撮影現場を見学しました。そして二日後には、佐賀市の浪漫座でのピアノ発表会のシーンにエキストラ出演しました。

この日の朝、現場に着いた瞬間に原島助監督から「あなたは、この男性と夫婦として歩いてください。気持ちは待たせてゴメンネ…といった感じでやって下さい」と指示がありました。私は、動搖しながらも演技をするの」は俳優になった気持ちでした。

ピーンと張り詰めた撮影現場の空間の中、何度もテストを繰り返しエキストラと俳優それにスタッフが一つになって進められ、撮影が終わった時はとても感動しました。そして、どつと疲れがでました。改めて俳優さんや製作スタッフの皆さんとの体力、気力は凄いものと思いました。

私はその後、必然と炊き出し班のスタッフになりました。皆さんが俳優や製作スタッフの体調を考えた献立や旬の食材も地産地消にこだわり作り上げたものでした。食で皆さんのが笑顔になり一致団結した素晴らしい映画が出来たと確信しています。

私は、支援する会の一員になれたこと「一期一会」に感謝致します。



私のおはぎがスクリーンに登場

映画「ら・かんぱねら」を支援する会
スタッフルームチーム　　納富　直美

まさか、私が作った「おはぎ」がスクリーンに登場するとは思わなかった。振り返ると、支援する会のスタッフルームに通い始めて間もなくのことです。監督から有明海の撮影シーンに使うから粒あんの「おはぎ」を作ってほしいと依頼がありました。こしあんはよく作っていますが、粒あんは苦手なので作った事はありませんでした。それは、小豆の選別や煮る時間さえ分からない手探り状態でした。そこで近所のお店でアンパンやまんじゅうを買って色々と食べて食感を確かめては、何度か試作してみました。

私は、以前から腰痛持ちで長時間の作業は大変でした。それでも頑張って作りました。アドバイザーで故内田俊彦さんから「おはぎは、今年も美味しい海苔が採れますようにとゲン担ぎのため作り、海苔作業が始まる時に食べるんだよ」と伺い、合わせて映画の撮影が無事に終わりますようにとの祈りを込めて作りました。

伊原剛志さんを交えての試食会の直前の事でした。伊原さんは、甘いものが苦手との情報が入り焦りました。砂糖と塩の加減をどうしようか、頭を抱えてしまいました。試食会は、心臓がはちきれんばかりに緊張し不安を感じた時「美味しい」と伊原さんが笑顔で褒めてくれて、全身の力が抜けてしました。



依頼から口ヶ本番までの1ヶ月ほどは小豆との格闘の毎日が続きました。こんなに粒あんに悩まされるとは思いませんでしたが、美味しいそうに食べていただいて嬉しかったです。

最後に娘が上京する前に、一緒に活動できたことも良い思い出になりました。皆さんに感謝いたします。

酒会から支援が始まった

映画「ら・かんぱねら」を支援する会

商工部会 池田 茂

私、江北町で塩ラーメン屋須彌亭(しゅみてい)を営む池田と申します。私と映画「ら・かんぱねら」を支援する会との出逢いは、佐賀市旧古賀銀行跡(浪漫座)で開催された日本酒の会でした。そこで、監督やプロデューサーと一緒に壇上で挨拶されたのが、商工会青年部でお世話になった事務局の川原常宏さんでした。

懐かしさを覚え、その日は、プロデューサーの川口浩史さんと川原さんのお二人に、二次会迄お付き合いいただきました。その場には、酒会の主催者の女将とJAさがホールディングスの金原壽秀会長も同席され、楽しい時間を過ごすと共に、支援する会への熱心な勧誘を戴き協力していく事に致しました。

その後は、寄附や映画上映への理解など、支援する会の皆さまのご指導を仰ぎながら活動させていただきました。店にポスター等貼っていますと、いろんなお客様から「私も、協力しようよ！」「〇〇さん知ってますよ」「佐賀の映画よね？」「もう少しPRした方が、よかよ」と励ましの声を掛けて戴く事が多く、支援する会の活動が多岐に渡り浸透しているのが実感できる日々でした。

映画に携わると云う非日常的で貴重な体験をさせて貰って、私にとっても大切な時間となりました。

この映画に関わりが出来たことに対して、皆様に感謝申し上げ、これからも大事にして行きたいと思います。映画「ら・かんぱねら」を支援する会の皆様の発展の一助と成れば幸いです。 啓白



不知火同窓会の一員として

映画「ら・かんぱねら」を支援する会

支援チーム 鶴丸 征枝

夢を叶えた海苔師さんが同級生であることを知りました。不知火同窓会の川崎賢朗会長から「やれる範囲で良いから、支援する会の活動をして、みんなで試写会をみましょう」という言葉に背中を押されました。

指令はまず、映画で使用するスタインウェイピアノを探せ、でした。私は、それなりの人脈を駆使し、色々と駆け回り盛り上りました。指令のもとに私の活動を報告します。①支援金集め、映画の宣伝等。②食事づくりのお手伝い。その内容は、カットした野菜や肉をフードコーディネーターの方の指示に従って美味しそうに仕上げていく。出来上がった時、笑顔の花が咲きました。③ロケの見学。役者の皆さん、「佐賀弁上手かあ～」「綺麗かあ～」などと思いました。

その他、ピアノ発表会や調律のシーンは、駆け回って探したこと等を思い出しては親しみと懐かしさがこみ上げてきました。また、ピアノの演奏シーンでは、張り詰めた空気の中、何故か私自身も緊張していました。今の気持ちは、素晴らしい映画が完成し、たくさんの人に観ていただいて感動を共有したい気持ちで一杯です。

何より支援する会の皆様方の熱意に頭が下がります。そこには、いつも笑顔があります。不知火同窓会事務局の鐘ヶ江留美子さんのご尽力はもとより、目配り、気配り、心配りは素晴らしいといつも思います。私に声をかけて頂きありがとうございました。「諦めなければ夢は叶う」この言葉を大切に、前に進んでいけたらと思います。



本番の力チンコで緊張が増し

映画「ら・かんぱねら」を支援する会

支援チーム 百島 美代子

友人から映画キャストのオーディションと支援する会のお手伝いのお誘いがあり、皆さんとの出会いが始まりました。

最初はエキストラとして出演が決まり前日の夜、製作スタッフから「翌朝は5時30分過ぎに現地集合ですか」と電話連絡が来ました。また「衣装は自前で準備してください」とのことでのことで少し興奮気味になり、夜中まで服を選びました。いよいよ撮影当日、現場は朝早かったのですが約50人のスタッフが準備されていて、映画製作の大変さを感じつつ、ドキドキしながら監督からの指示に少しでも近づけるよう演技する事に必死でした。そして、いざ本番の力チンコの音で緊張は増し、あつという間にワンシーンを撮り終えました。

次のシーンは南果歩さんの近くでの撮影でした。果歩さんは、自分の演技もさる事ながらエキストラを含めたシーンに「こうした方がいいんじゃない」と細かな演技指導する事もありました。映像では、さりげなく演技されているように見えても、よりリアルな役柄になるよう考えながら演じられた南果歩さんの女優魂を感じるひとときでした。

また、この映画の主役となった徳永義昭さんのピアノへの方ならぬ努力と奥様の支え、その上、有明海の海苔師の現状や家族愛が描かれ感慨深い映画となっていました。

私はエキストラに加え夕飯の炊き出しや事務所のお手伝いをさせていただきましたが、今回の撮影現場を体験して思ったことは、支援する会や製作スタッフの素晴らしいチームワークで出来上がった映画に少しでもお手伝いができたことは、私の思い出に残る日々でした。本当に有意義な毎日でした。



ドライバーとして映画づくりを体験

映画「ら・かんぱねら」を支援する会
車両部(ドライバー) 中野 利勝

映画には、スタッフドライバーとして撮影隊に参加することができ、大変良い経験をさせて頂いた事に感謝しています。

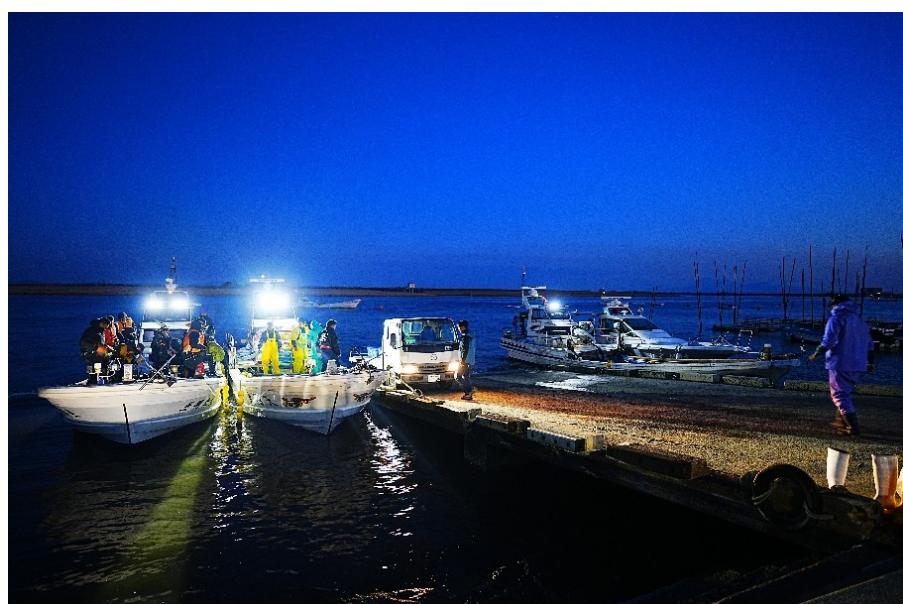
ドライバーとして、安全運転を徹底し時間に遅れたらいけないという責任感を感じながらの楽しい日々でした。撮影現場を見学させて頂いて、ワンシーンを撮影するのにも、大変な作業の中で繰り返され「OK」サインができるまでのドラマが、そこにはある事を知りました。

普段、ドラマとか映画とか何も考えないで見ていた事が少し恥ずかしい気になりました。例えば、ワンシーンの撮影でも、その現場には沢山のスタッフが取り囲み真剣に取り組んでいる光景は、私のハートに焼き付いています。

当たり前の事だと思いますが、この素晴らしい作品は、夜の撮影、朝の撮影に関わらず時間との戦いの中でしか出来上がらない事を痛感しました。そして、俳優さんが熱のこもった演技を披露し、それをカメラ、照明、録音などの人たちが一体となって収録するこのチームワークから素晴らしい作品が生まれるものだと初めて知り、合わせて体験させて貰いました。今は気なくドラマを見ている家族に「なんも考えんで見よーろ！回りには沢山のスタッフさんが囲んで撮影しよんさーよ！大変かとよ！」と言ってしまう、今日この頃です。

今後願う事は、この作品を1人でも多くの人に見て頂き、そして永遠に生き続ける作品となって欲しい、そうなる事を固く信じています。

本当に楽しい日々と体験をありがとうございました。



文ちゃんも人間です。爆睡もします。

映画「ら・かんぱねら」を支援する会

車両部長兼ドライバー 吉田 信

映画「ら・かんぱねら」にエキストラや車両部などで関わり幸せな1ヶ月でした。佐賀スタッフ&東京スタッフ&スーパースター俳優軍団の皆さん、全ての人に言えるのは、悪い人が1人も居ない軍団でした。だから、ロケ期間中は、愉快で楽しい事ばかりで最高の気分を味わいました。

私は、愛称で「文太」と呼ばれています。映画トラック野郎の主役の菅原文太さんが大好きで自称「トラック野郎」を名乗り直接会いに行った事もあるから、スタッフの皆さんから「文太」と呼ばれるようになったのです。

食事の場所でも、ロケ地でも少しの休み時間があると気軽に声を掛けられて嬉しかったです。そのお陰で、他の人よりも多くの記念写真を撮っていただきました。有難かったです。

たまには、トラックの運転席で「爆睡」することもありました。でも、この日は早朝4時からのロケが始まるため、早起きして撮影機材を運ぶボランティアだったので、気は引き締めていたのですが昼食の後、ポカポカ陽気に誘われて、つい寝てしまったこともあります。そこはご愛嬌でお願いします。

映画が完成し、試写会が行われました。会場は泣いて笑って最後はお客様が立ち上がり拍手喝采でした。この映画に関わった事は誇りに思います。ありがとうございます。

追伸 内田先輩、原ちゃんご苦労さまでした。



必死に練習する姿に感激

映画「ら・かんぱねら」を支援する会

支援チーム 大久保 新

映画館で映画を観たのは何か月ぶりだろう。最近は年に1回観ているんだろうか？

私の映画館デビューは、中学生の頃だったと思う。同級生4人で観た東映の任侠映画と記憶している。高倉健さんが主演で、観終った後はすっかり健さんの世界に入ってしまった事を思い出した。

ここ数年は、DVDのレンタルやインターネットで映画やドラマを観る事が多くなった気がする。いつでも、どこでも他人に気兼ねする事なく寝転んだり、飲食をしながらでもパソコンやスマートフォンで、あるいはテレビの再放送で観られるからだ。私は、映画「ら・かんぱねら」を支援する会に参加し、その活動の一環として協賛金のお願いや映画に使う資材の運搬等を手伝った。

海童神社での祈願祭や撮影現場を間近で見学させて貰うと、どんどん映画に引き込まれていく自分が居た。

今日映画館で観た試写の「ら・かんぱねら」は、最近はやりのスマートさは無かったが、佐賀の良さ、泥臭さが随所に盛り込まれ、自然相手の海苔作業の厳しさが表現されていた。

その中でも夫婦の絆、親子の絆、仲間との信頼関係等がふんだんに取り込まれていて、主人公がリストの難曲「ラ・カンパネラ」を有明海での重労働の後、寝る間を惜しんで必死に練習する姿には感激した。

この映画を観た観客が、夢に向かって人生を豊かにし、感動とわくわく感を味わってくれることを切望する。



生きる証を肌で感じた

映画「ら・かんばねら」を支援する会
広報部(WEB担当) 安藤 智之

「ら・かんばねら」は多くの人の情熱と支えによって形になった“生きた証”のような映画だ。特に印象的だったのは、映画の中で語られる「まだ夢をみることができるんだ」という言葉だ。

このフレーズは単なる台詞ではなく、この映画が生まれるまでのプロセスそのものを体現しているように思えた。映画づくりは一人の想いだけでは成し得ない。しかし、想いを持ち続ける人がいる限り、共鳴が生まれ、支えが集まり、ついには形になっていく。結局のところ、夢を諦めるかどうかを決めるのは環境ではなく、その人自身なのだろう。



私自身、このプロジェクトに関わる中で映画が出来上がる過程を肌で感じた。そして、ただ観るだけでは決して知ることのなかった“映画の本質”に触れられた気がする。「ら・かんばねら」は単なる一本の映画ではない。夢を追い続けることの尊さ、そしてそれを支える人々の力強さを描いた“リアル”な作品だ。



映画は、私への励みになった

映画「ら・かんぱねら」を支援する会

支援チーム 吉村 明美

2023年の11月に、中溝由美子さん、鐘ヶ江留美子さんと3人でランチを楽しんでいる時に、会のBOSS(川崎賢朗くん)が突然現れて、映画「ら・かんぱねら」を支援する会へ誘ってくれたことが、参加するきっかけとなりました。

軽い気持ちでお引き受けしたところ‥仕事の都合で、あまりお役にたてることもなく、支援する会のみんなには申し訳ない気持ちでいっぱいでした。そんな気持ちが大きく変化したのは完成披露試写会の時でした。映画自体はもちろん素晴らしい作品でしたが、皆んなの一丸となった団結力に、ただ、ただ感動するばかりでした。

2025年の1月31日より映画の上映が始まり、たくさんのお客様にご来場いただき、連日チケット販売機が大変混雑していると知り、何とかお客様をサポートできないものかと、イオンシネマ佐賀大和へ足を運びました。お客様に気持ちよく映画を見て、楽しんでいただきたいと、その思いだけでした。チケット購入のお手伝いをしていると、労いの言葉をかけてくださるお客様も多く、目標を失いかけていた私自身への励みにもなりました。

BOSSが最初に言ってくださったことがあります。「絶対いい事があるから！」と。

本当にその通りでした。素敵な仲間との出会い。相手を思いやり尊重する大切さ。とても楽しい活動でした。

貴重な経験をさせていただいて、ありがとうございました。心より感謝申しあげます。



「輪と和」があふれる仲間に出会えた

映画「ら・かんぱねら」を支援する会

支援チーム　吉田　京子

私にとって映画「ら・かんぱねら」を支援する会はまさに映画を支援する大きな輪と和の会でした。

支援する会の事務所には、初めて出会った人たちばかりなのに長年付き合っているような雰囲気を作りひとつの輪になって活動していました。

チラシを折り込んだり歓迎のうちわを作ったりで大変ですが笑いの絶えない場所でした。そして、深夜になるロケでは冷え切った身体を温かいスープで振る舞い、朝早いロケでは車両部の皆さんが機材を運んでいました。

おもてなしの佐賀の心をさりげなく出して俳優や映画製作のスタッフを和ませていました。映画は宝の海である有明海から始まり、家族愛や夫婦愛の姿を映像に表現して、最後は伊原剛志さん自身のピアノ演奏で終わりましたが、試写会では会場の聴衆が一斉、ラストシーンに息を呑み、終わった瞬間に万雷の拍手が沸きあがっていました。

1日6時間、ピアノに向かって情熱を持ち、努力すれば必ず夢は叶う事を私たちに実証してくれました。そして、映画「ら・かんぱねら」は私に夢を見る喜びを与えてくれた素晴らしい映画でした。

完成した映画はこれから私たちみんなで「育てていく」映画となった気がします。そして、支援する会の「輪と和」がある限り続していくと思いました。

最後に、夢を叶える仲間に加えていただきありがとうございました。感謝！



新鮮で初めての体験に感動

映画「ら・かんぱねら」を支援する会

支援チーム 藏戸 直己

「映画出演のオーディションがあるらしいよ(^.^)」その一言から始まりました。

有明海の海苔漁師さんが独学で超難曲「ラ・カンパネラ」のピアノ演奏を成し遂げたというエピソードを耳にしていた私は、それが映画になるのなら、とにかく何でもいいから関わりたい！と思いました。

夢に向き合い諦めずにやり遂げたことに感銘し、映画製作について全く知らなかったにも関わらず、支援する会の一員としてのお手伝いがスタートしました。そのすべてが新鮮で初めての体験でした。

映画が完成した秋の試写会は、上映前からハラハラドキドキでした。

サックスの演奏と共に映し出された映像が流れた瞬間から、溢れてしまった涙を隠しきれず恥ずかしいような、そして一味も二味も違った感動を味わいました。一生に一回あるかないかの貴重な体験をくれた映画「ら・かんぱねら」にありがとうの気持ちでいっぱいです。



海苔師の生き様とオーバーラップ

映画「ら・かんぱねら」を支援する会

支援チーム わたなべ ちえ

「こういう海苔漁師さんいる」とか「あ～こういう奥さんいそう」と納得させられました。海苔漁師の街、川副の空気や音、息遣いが、演技はもちろんのこと画面に映る小道具などによって確かに表現されていました。

海童神社や港周辺に漂う潮の香りや、漁期特有の張り詰めた緊張感までもが感じられ、懐かしさが込み上げてきました。

俳優の表情や仕草は、これまで出会ってきた海苔漁師の皆さんと重なって見えました。一見怖そうでいて優しいこと、妻に頭があがらない可愛らしさがあること、仕事への責任感と漢気があること。そして何よりも、常に有明海と海苔のことを一心に考えて生きていること。

漁師の皆さんから実際に聞いたことのある言葉がセリフとして放たれるたびに、この物語を通して、リアルがもつ輝きを再確認しました。

海苔作りの過程も丁寧に描かれていて驚きました。海苔一枚は冬の凍てつく寒さのなか、家族一丸となって紡ぎ出されるものなのだと。その厳しさと温かさが表現されていました。

私は佐賀の海苔と、海苔を作る人たちを愛しています。素晴らしさを多くの人に知ってほしいと思っています。この映画にはそれを伝える力があると感じました。



「ら・かんぱねら」という共通語

映画「ら・かんぱねら」を支援する会

広報(イベント担当) かくもと しほ

支援する会では広報を担当、また支援する会の発会式や映画クランクイン前の祈願祭・クランクアップのおつかれ会、そしてイオンシネマ佐賀大和での先行上映時の舞台挨拶等での司会を担当しました。その他、オーディションのお手伝いや撮影場所を選ぶ製作スタッフとの同行など普段やり慣れていることから全くの未体験まで様々なことに関わらせて頂きました。

映画「ら・かんぱねら」に携わり多くの方と出会い強く感じたのは、一人ひとりが自分にできることを探し積極的に関わっていこうとする姿でした。

映画製作のプロ集団に臆することなく、地元佐賀の自分たちだからこそ知っていること、感じることを率先して発言、それに監督はじめ現場のプロたちもしっかりと耳を傾けてくれました。

そういう思いの積み重ねが単に「地元で撮った地元を舞台にした映画」ではなく、「自分たちが生きる佐賀の、私たちの映画」を生み出したように思います。

そして映画を観た人たちにも同じように伝わっていて、本編後の5分もある長い長いエンドロールまで、まるで作品の一部として着席のまましっかりと見ていらっしゃるのです。毎上映、観客が入れ替わっても「ら・かんぱねら見たよ」「ら・かんぱねらの...」そんなふうに声を掛けられたり会話を耳にすることもよくあります。「ら・かんぱねら」という共通語がみんなの夢と思いをつなぎ、絆を強くしてくれました。



自然と生きる大切さを痛感

ささき農園 自然薯生産者

佐々木 励

炊き出しに参加した日がクライマックスシーンの撮影最終日でした。炊き出し中は、和やかな雰囲気で記念写真を撮ったり、子供たちも伊原さんの膝に座ったりし、見ているこちらが「うらやまし~」とハラハラドキドキの楽しい時間を過ごさせて頂きました。

しかし、撮影に入ると空気が一転し、俳優陣や監督さんの張り詰めた緊張感がこちらにもヒシヒシと伝わってきました。

その一体感はまるで自分も映画の中の世界に飛び込んだかのようで、大変貴重な体験でした。何かを成し遂げようと、極めようとするのなら、その事について狂うぐらいにならなければダメだと、何かで読みましたが、まさにその通りのストーリーで胸に響きました。完成した映画を拝見した時は、同じ一時産業に携わる者として自然と向き合う仕事の大変さや家族との時間、夢を持って生きる事の大切さをより一層強く感じました。

この映画に少しでも携われた事を嬉しく思います。ありがとうございます。



トマトジュースで応援

(株)Agrish トマト生産者

吉田 章記



この度は、映画「ら・かんぱねら」の撮影現場で、弊社のトマトジュースをケータリングとしてご提供させていただく機会をいただき、誠にありがとうございました。現場では、製作スタッフやキャスト、そして支援する会の皆さんのが一丸となって真摯に映画づくりに取り組まれていて、その熱意と情熱に触れ、感動いたしました。

昼の食事の時は、炊き出しの弁当やスープと共に、弊社のトマトジュースを召し上がっていただき皆様から「自然な甘みが美味しい」「疲れた体に染み渡る」といった温かいお言葉を掛けてもらい、大変嬉しく思っております。このような形で、地域に根ざした企業が、映画を通じて佐賀や有明海の魅力を発信するこのプロジェクトに微力ながら参加できましたことを誇りに感じております。



映画「ら・かんぱねら」の公開が全国の皆様に感動を届けることを心より祈念とともに、今後とも地域と共に歩む企業として、皆様の挑戦を応援してまいります。本当にありがとうございました。

視点が鋭い弘学館新聞

弘学館から尾崎修一先生と新聞部の結城恵理さんと皆川紅芭さんの3人が支援する会の事務所を訪れ、鈴木監督に映画についての取材申し込みがありました。

中学生とは思われない、鋭い質問やキチンとした文章で、監督が語る映画の魅力を引き出してくださいます。監督も「視点が鋭い」と感想を述べられていました。ありがとうございました。



弘学館新聞部のみなさん

現在の困難が描かれ共感

元 サガテレビアナウンサー
完成披露試写会 司会 内田 信子



私は、昭和30年代初めに佐賀市川副町広江で生まれ、漁師さん達の重労働と改善努力によって有明海が日本一の海苔産地になっていく歴史を見てきました。サガテレビの記者時代は、映画のモデル徳永義昭さんの妻千恵子さんのご両親が「苦労するから海苔漁師の所へ嫁にはやれん」と言われるほど過酷な漁場で幾度となく取材をさせて頂きました。

有明海の海苔漁師の夢を描くという映画の力になれるなら企画に参加したのは、ごくごく自然なことです。助け合ってきた漁師さん達の強い絆が核となって、支援の輪は大きく広がっていきました。事前準備から撮影・資金集めなど、その大変さは並大抵ではなかったのです。

映画では徳永さんが夫婦愛、家族愛に支えられながら「ラ・カンパネラ」の完奏という夢を追いかける姿が描かれていましたが、海苔の不作や後継者難など、現在の困難が描かれた事も共感を呼んでいます。

この映画の成功と徳永さんが安心して「ラ・カンパネラ」の演奏を楽しめるように、有明海が「宝の海」であり続ける事を願っています。



La Campanella ら・か・ん・ぱ・ね・ら

[進行台本]

2024.11.17 佐賀市文化会館 大ホール



台本

(第一部)	
12:25	予ベル
影アナ	本日は、お忙しい中、映画「ら・かんばねら」の特別試写会に足を運んで頂き、ありがとうございました。
	皆さまの多くのご支援を持ちまして映画が完成いたしました誠にありがとうございました。まもなく上映になります。
	皆さま、どうぞお席の方に着席をお願いいたします。
	上映に当たりまして、いくつかのご注意点をお守りください
	・上映中の映画の撮影・録音は、法律で禁止されています。
	・携帯の電源を切るか、マナーモードにしてください
	・会場での飲食は、禁止されています。お席で静かに鑑賞をお願いいたします。
	尚、聴衆の皆様には、上映が終了しましたら俳優のみなさんの舞台挨拶もございます。楽しみにしてください。
	まもなく、上映致します。静かにお席に着席下さい。
12:30	本ベル
	1時間59分の上映
14:30	映画終了～下手の司会者席へ
3分	いかがでしたか。素晴らしい映画でしたね。(アドリブ) 司会は、内田信子です。宜しくお願いいたします。 これからのおスケジュールを簡単に説明させて頂きます。 主催者・監督の挨拶の後、俳優の皆さんがステージに総出演され観客の皆さんに、ご挨拶されます。 それが終わると、皆様に「フォトタイム」を設けまして自由に撮影する時間を製作します。撮った写真は、直ぐにでもフェースブック・X・SNSで拡散して頂ければと思っております。 それまでお待ちください。
14:33	(理事・監督・代表挨拶)
2分	それでは、映画「ら・かんばねら」の企画・脚本・監督をされました鈴木一美監督ご挨拶です。
3分	ありがとうございました。続きまして 映画「ら・かんばねら」を支援する会より、陣内博史会長です。
14:38	(俳優の舞台挨拶)
3分	それでは、俳優のみなさんの登壇ですが、観客の皆様まだ撮影は出来ません。終わりましたかフォトタイムがあります しばらくお待ちください。では、俳優のみなさんの登壇です。 まずは、主役で奇跡のピアニスト徳田時生役の伊原 剛志さん 続いて、徳田時生の奥様、娘々役の南果歩さんです。 おじいちゃん役の敵を演じられた 不破 万作さんです。 好青年で息子・優斗役の絆形 敦さんです。 続いて、時生の妹役の枝川 萌(もえ)さんです。 海苔師の土崎幸雄役の田中 がんさんです。 徳田時生の立花賢太役の鹿毛 喜季(よしえ)さんです。 佐賀市立劇団出身で介護士の長岡みつ子役の川崎 瑞奈さんです。 映画に出演して頂いた俳優の皆さんです。 もう一度、温かい拍手をお送りください。 なお、大空真弓さんとどぶろっくの二人は、仕事で欠席になりました
14:41	(俳優5人の挨拶)
4分	それでは、伊原剛志さんから順にご挨拶をお願いします 続いて、南果歩さんをお願いします。
4分	不破万作さん
3分	絆形 敦さん
3分	秋元 萌さん
3分	他の俳優を代表して、佐賀市出身の川崎瑞奈さん、お願いします。
	質問などで時間調整致しまax:15:10まで
15:10	(九州キャスト紹介) (台本頒)

4分	その他、いろんな方が出演され素晴らしい映画にして頂きました。紹介いたします。大変申し訳ございませんがその場にて起立され、皆さまに挨拶をお願いします。
欠	・今野工務店、今野正一社長役の 万丈(まんじょう)さんです ・剣道の道場主、越川 正彦役の 上瀧 雅大(まさひろ)さんです。 ・南川副支所、森山界隈管区長役の 岩坪 光理(ひかる)さんです
欠	・有明漁協、森山亮一青年部長役の 松下 莉(り)さんです。 ・ラーメン店「夫婦軒」の浜井良介大将役の岩本 将治(まさる)さんです ・ラーメン店「夫婦軒」の浜井良介女将役の小貫 薫(おぬき かおる)さんです ・徳水産、畠田 二郎場長役の 演濱 信幸(しんこう)さんです ・ピアノ調律師の江里口順子役の さざわ りかさんです ・進藤 寿吉会長役の 横木 和雄(かずお)さんです ・近所のおばちゃん、吉岡信子役の 坂本 幸代(さちよ)さんです ・同じおばちゃん、伊東 富貴子役の 本村 久美子(くみこ)さんです
欠	・楽器店店長役 松尾 秀昭(ひであき)さんです
欠	・バチンコの女性客 吉村 志保(しほ)さんです
欠	・跨生の高校生時代の木寺 琴(ことね)さんです ・奈々子の高校生時代の役 舟越 幸音(ゆきね)さんです ・ピアノの女子生徒役 北村 桃々(ももさん)です ・ピアノの女子生徒役 真喜 夏実(なつみ)さんです
欠	・ピアノの生徒、太田仙吉役の 垣塙 謙之(けんじ)さんです ・ピアノの男生徒役 片測 奏法(そうふう)さんです ・エレコースの女子大生役 田中 映衣花(えいいか)さんです ・ピオラケースの女子大生役 田中 由衣夏(ゆいか)さんです。 ・古湯温泉、山口屋支配人 粟原 高広(たかひろ)さんです。
15:15	モデルの徳永義昭さん千恵子さんご夫婦です。皆さんへのご挨拶です 伊原剛志さんと南果歩さんの間におりください
15:20	(フォトタイム)
4分	さてお楽しみのフォトタイムです。 徳永さんご夫婦もセンターに進まれ、皆様と一緒にお願いします。 さあ皆さん、映画に出演された俳優のみなさんの撮影ができます。 お持ちの携帯やカメラ、ビデオで撮影してください。 撮影したら、フェースブック・SNSに上げて拡散をお願いします
15:24	皆さま、撮影はこれを持ちまして終了致しました ステージの皆様、ありがとうございました。 幕引きをお願いします。
15:25	(一部終了)
	観客の皆様、本日はありがとうございました。 お気を付けてお帰り下さい。尚、「ら・かんばねら」は 来年1月31日から大和町のイオンシネマで上映されます。 今日の感動は是非、知り合いの皆さんにお伝えして頂きまして、 「ら・かんばねら」の輪が皆さんのお声によって広がり 友人を誘って、また、イオンシネマでご覧いただければ幸いです。 本日は、誠にありがとうございました。 お忘れ物が無いよう、身の回りをお確かめてご退席下さい。 なお、前売り券は・・・
15:30	(締帳が下ります) マスコミ関係者の皆様、 ステージにお越しください。 俳優の伊原さんと南さん、徳永さんの囲み取材です 宜しくお願ひいたします。

タイムスケジュール(AN・進行用)

時間	時間枠	進行	場内・客席	ステージ	AN・その他	キャストの動き
10:00	2時間	ミーティング		スクリーンなど設置		マイク準備
10:30		開場設営	マスコミ用の音声OUTチェック	舞台挨拶席にマーク	途中で食事	10時4分伊原さん入り
11:00		全休リハ	ゲストの客席確認	簡単な流れを確認	流れ確認 キャストは無しで	11時30分伊原さん入り
12:00		開場			マスコミ関係者 一階で受付	東京からのキャスト入り
12:25	2分	予ベル		影アナ	上映時の注意AN	
12:30	2時間	時間厳守	本ベル			
			第一部の上映	第一部の上映		
14:30		映画終了	場内明暈・ANにスポット	下手、司会者席に内田登場		
3分			会場へ挨拶	これからの進行説明	観客への要望等	
14:33	2分	下手待機	鈴木監督、お礼のあいさつ	鈴木監督 下手のマイクで挨拶	企画・脚本・監督鈴木一美	挨拶後、直ぐに退席
		3分	下手待機	陣内会長、挨拶	陣内会長 下手のマイクで挨拶	支援する会長
14:38	3分	俳優舞台挨拶	俳優登壇・下手より中央へ	センターに明りとかんばねらの字幕		
				全員順番に所定の位置に入る	簡単な配役を紹介しながら1人づつ紹介	
		川崎 栄元 緒形 伊原 南 不破 田中 鹿毛 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ (赤はマイク)	(上手)	伊原剛志/南 果歩/不破万作/ 緒形 敦/枝元 聰/田中がん/鹿毛喜季 川崎瑠奈	※入る順番と紹介の順番は変わる。センターに伊原さんと南さんがて左右に家族。応相談。	
14:41	4分		俳優のあいさつ時間	伊原剛志さん挨拶	映画に対する想いなど	
	4分			南果歩さん挨拶	映画に対する想いなど	
	3分			不破万作さん挨拶	映画に対する想いなど	
	3分			緒形 敦さん挨拶	映画に対する想いなど	
	3分			枝元 聰さん挨拶	映画に対する想いなど	マイクを瑠奈に
	3分			川崎瑠奈さん挨拶	映画に対する想いなど	
15:00~10					質問などでANで時間調整	
15:10	4分	時間厳守	九州キャストの紹介 (AN)	席で立ってもらうだけに		
15:15	3分		モデルの徳永義昭夫婦登場	徳永夫妻、伊原さんと果歩さんの間に	下手のマイクで挨拶	
15:20	5分	時間厳守	フォトタイム	徳永さん夫婦も一緒に	俳優と一緒に写真タイム	SNSなどに発信
15:25		一部終了			AN一部終わりを告げる	
15:30		時間厳守	総帳を下す	俳優がステージから抜けると総帳		
(約10分)退席			総帳の裏で	(印み取材は、10分程度)	伊原・南・徳永	監督は別の場所

クリスマスカードに寄せて

(株)ミズホールディングス

会長 溝上 泰弘



映画「ら・かんぱねら」は、ピアノの難曲「ラ・カンパネラ」を独学で習得した川副町のノリ漁師・徳永義昭さんをモデルにした映画。十一月の完成試写会では、出演者の舞台挨拶があり、「この映画はいくつになつても夢を見る大きさを教えてくれる」「こんな素敵な家族があつたらしいなあと思った」「こんな素敵な家族があつたらしいなあと思った」との声が上がった。観客からは「徳永さん役の伊原剛志さんのピアノへの熱意が胸を打ちました」との感想も聞こえてきた。

私は、強くて優しくて温かい佐賀弁が映画全体を通して聞かれることがとても居心地よく、嚴冬の夜明けの過酷な作業など、ノリ養殖の描写に新たな発見があった。何よりも有明海の景色の素晴らしさに感動し、この宝の海を子々孫々まで守っていかねばという意を強くした。1月末より全国公開予定。

映画を鑑賞して佐賀を好きになつてもらつたら嬉しい。

溝上泰弘
印

令和六年 師走
ご縁に感謝申し上げます。「笑門来福」
よい年をお迎えください。



映画「ら・かんぱねら」ロケ地を取材して

元 朝日新聞記者

野上 隆生

街中いたるところに「海苔ピアノ」のポスターが貼り巡らされ、現地撮影の約1カ月を中心に、「太秦映画村」ならぬ「川副映画村」の雰囲気でした。「うさん臭そうなおじさん」(?)に見えた鈴木一美監督が未完の台本を携え、川副の町をうろうろし始めて3年。ここまで地域がまとまり、街全体で映画づくりに向かうとは、驚きました。

川副映画村の人々は「支援する会」を中心に、撮影スタッフや俳優陣を現場や宿舎まで車で送迎したり、50~100人分の炊き出しをしたり。分割みでボランティアを配置し、決して撮影の支援に穴をあけない緻密なスケジュールを組んで撮影を支え続けました。

食材が足りないと、LINE一本で市民からコメや野菜が届く。イノシシの肉が届くとシシ鍋。大根が大量に届いた寒い日にはおでん。お母さんたち中心の炊き出し班は日々、実力をいかんなく発揮。「笑顔とおいしい食事に癒され続けた」「ここまで地域の人に応援された経験はない」と、東京から来た撮影スタッフや俳優陣に大絶賛されました。

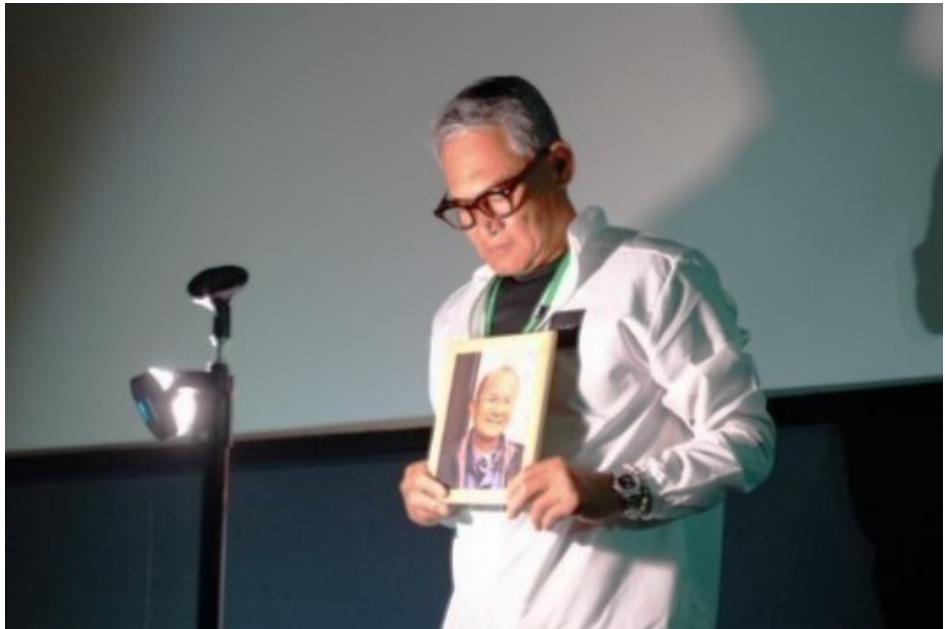
支援する会メンバーが見守る中でのクランクアップ直後、撮影現場は温かい拍手や花束、そして涙に包まれました。「出演者や撮影スタッフと支援する会メンバー一人一人の思いが詰まっていて、つながりできている。会で活動して本当によかった」。そばにいた女性が口にした言葉が忘れられません。

先日試写を見て、周囲に支えられて夢を実現させた映画の主人公と、佐賀の人々に支えられて映画づくりの夢を実現した鈴木監督が、重なって見えました。

この映画は、支援する会の活動も含めて一本の「作品」とみるべきでしょう。そして、その作品は、「絆を結ぶ」という行為の気高さを強く強く感じさせてくれるはずです。



想い出の一枚



完成試写会は遺影と共に
令和6年11月17日完成披露試写会



柳川市長表敬訪問



ビアパーティーで笑顔



東京ユーロスペースの舞台挨拶



徳永さんのコンサートで訴え



KBC出演後の記念写真

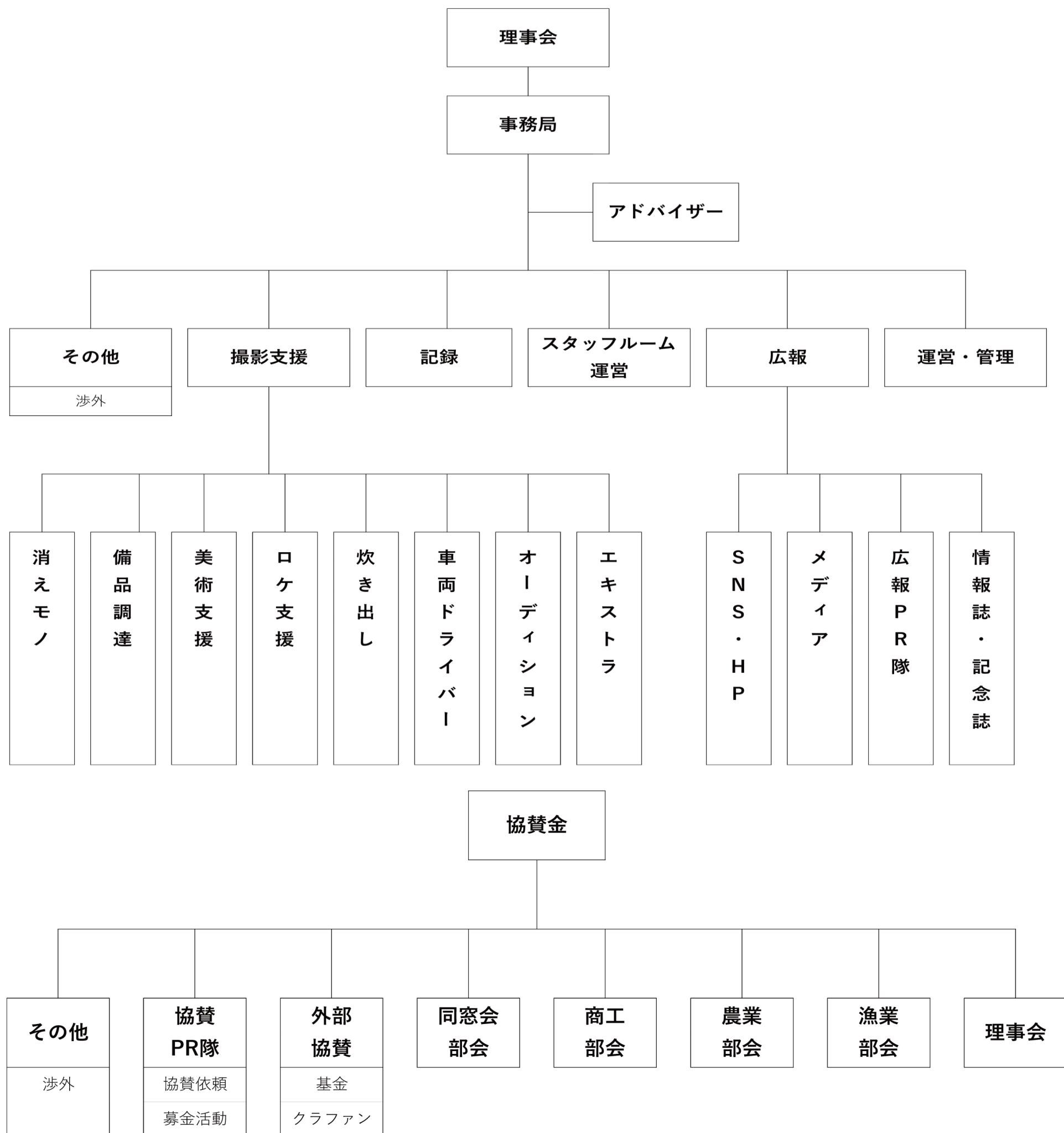
映画「ら・かんぱねら」を支援する会

– 組織体制 –

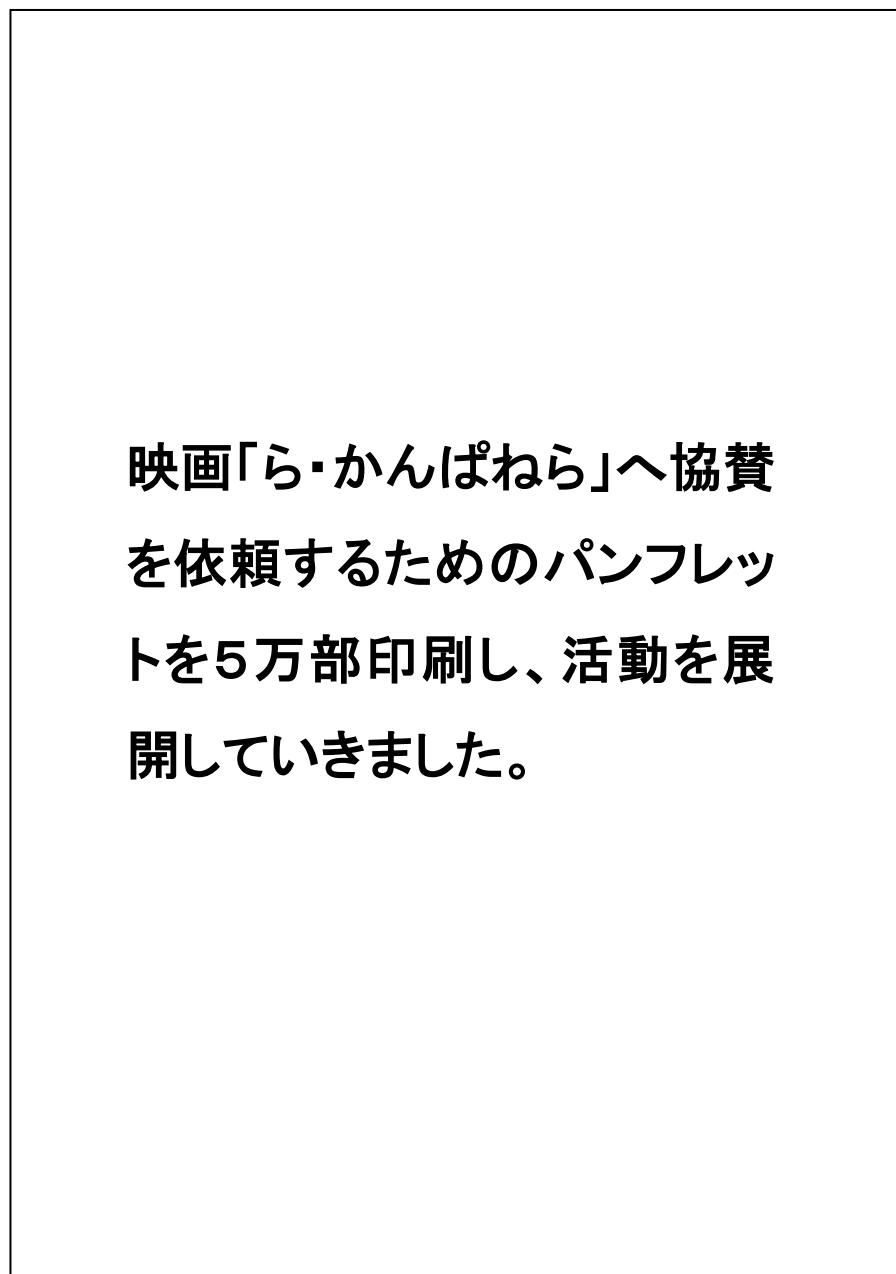
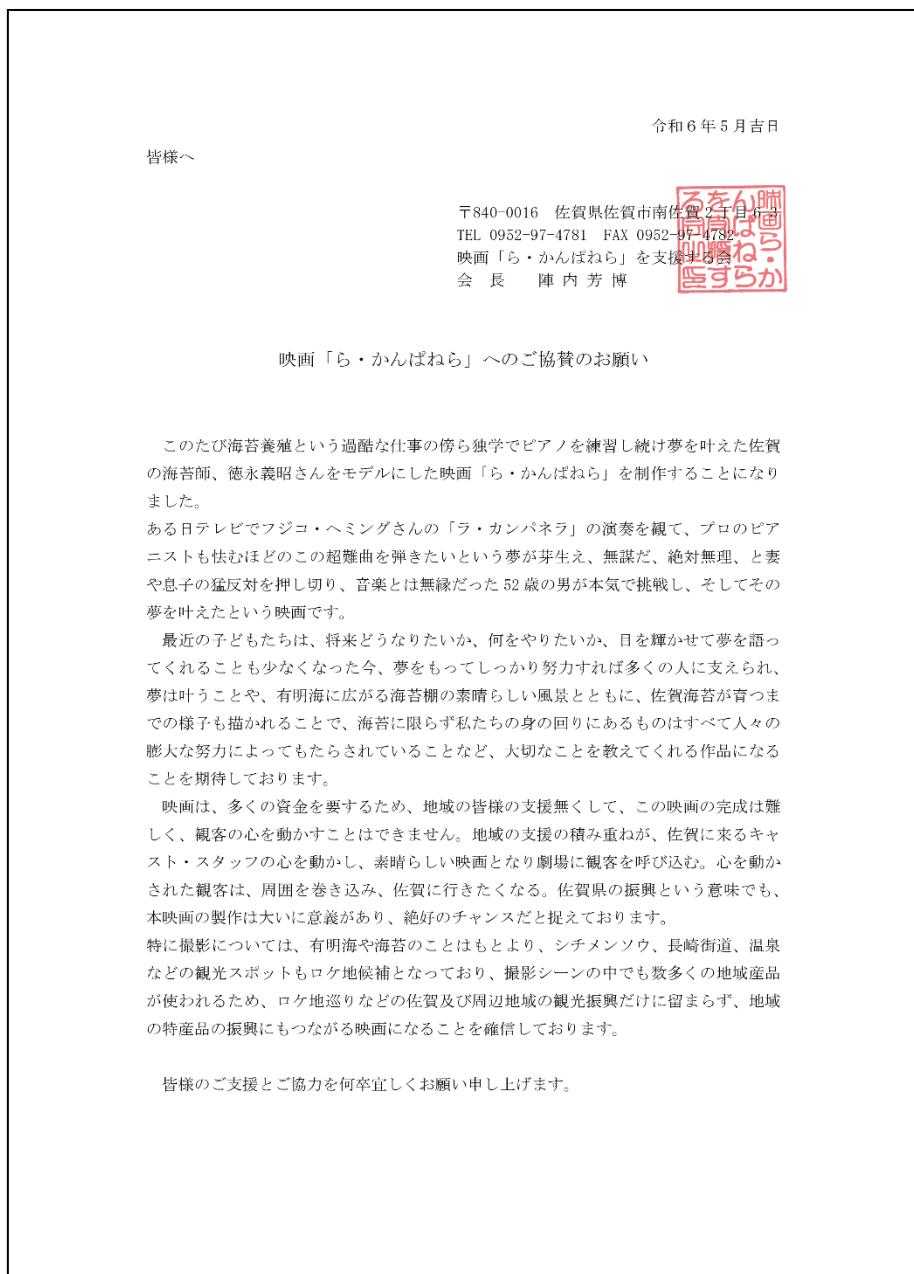


【顧問】	山口 祥義 坂井 英隆	佐賀県知事 佐賀市長
【会長】	陣内 芳博	佐賀県商工会議所連合会 会長
【副会長】	西久保 敏	佐賀県有明海漁業協同組合 代表理事組合長
【理事】	大島 信之 福岡 桂 峰 英太郎	佐賀県農業協同組合中央会 代表理事会長 佐賀県中小企業団体中央会 会長 佐賀県商工会連合会 会長
	牛島 英人 吉村 忠	佐賀市南商工会 会長 佐賀市観光協会 会長
	篠塚 周城	佐賀県私立中学高等学校協会 会長
	川崎 賢朗	佐賀東高等学校不知火同窓会 会長
【監事】	樺島 雄大 山口 勝也	SAGA COLLECTIVE協同組合 理事長 こだまの富士(さと)倶楽部 代表
【事務局】	川崎 賢朗 川原 常宏 鐘ヶ江 留美子 内田 俊彦 北村 和秀	(事務局長) (事務長) (デスク) (アドバイザー) (アドバイザー)

- 事務局体制 -



- 活動報告 -





ポスター（活動開始時）



ポスター（キャスト決定後）



映画「ら・かんばねら」公式ポスター



名刺台紙

支援する会では、名刺やポスターを作成し、あらゆる場所やお店に掲示をお願いし、映画製作への気運を高めて行きながら協賛金のお願いも同時に行つた。映画公開前には、公式ポスターへの貼り替え活動も行い、上映に向けた支援も行つた。

映画「ら・かんぱねら」を支援する会

規 約

(名称)

第1条 本会は、『映画「ら・かんぱねら」を支援する会』と称する。

(目的)

第2条 本会は、以下に掲げる映画「ら・かんぱねら」に関するさまざまな制作・配給事業を通して、地域住民の関心と参加意欲を高め、郷土愛の醸成と地域の活性化を図ることを目的とする。

(事業)

第3条 本会は以下の事業を行う。

- (1) 撮影現場に関する支援
- (2) 撮影スタッフに対する支援
- (3) 協賛依頼及び協賛金の募集活動
- (4) 映画の広報活動及び上映普及活動
- (5) その他、目的達成に必要な事項

(会員)

第4条 会員は、本会の趣旨に賛同し映画「ら・かんぱねら」の支援活動に積極的に取り組む、行政機関、各種団体、法人、個人とする。

(入会)

第5条 本会の入会は、所定の入会届を提出し理事・委員合同役員会の承認を得る。

(役員)

第6条 本会に次の役員を置く。

- (1) 会長 1名
 - (2) 副会長 若干名
 - (3) 理事 5名以上
 - (4) 監事 2名
- 2 本会には、顧問・相談役を置くことができる。
3 本会には、委員8名以上を置くこととする。
4 本会には、協力団体を置くことができる。

(役員の選任及び解任)

第7条 役員は総会において選任または解任する。

(役員の職務)

第8条 会長は、本会を代表し、会務を総理する。

- 2 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときは、副会長がその職務を代行し、会長が欠員のときはその職務を行う。

- 3 理事及び委員は、本会の業務を審議する。
- 4 監事は、本会の会計及び会務を監査する。

(役員の任期)

第9条 役員の任期は事業終了までとする。

(会議)

第10条 本会の会議は、総会及び理事・委員合同役員会とし必要に応じて会長が招集する。

- 2 会議の議長は会長をもってあてる。
- 3 会長に事故あるとき又は欠員のときは、副会長が議長となる。
- 4 会長及び副会長に事故があるとき又は欠員のときは、出席者の互選によって議長を定める。
- 5 会議は、構成員の過半数の出席をもって成立する。
- 6 会議の出席は委任状を持ってこれに代えることができる。
- 7 会議の議決は、出席者の2分の1以上とし、可否同数の場合は議長が決する。
- 8 総会は、正会員（理事・委員・会員）をもって構成し次の事項を審議する。
 - (1) 規約に関すること
 - (2) 役員に関すること
 - (3) 事業計画及び予算に関すること
 - (4) 事業報告及び決算に関すること
 - (5) その他本会の運営に関する重要な事項
- 9 理事・委員合同役員会は、会長、副会長、理事、委員をもって構成し、次の事項を審議する。
 - (1) 総会に諮る議案を審議すること
 - (2) 総会の議決した事項の執行に関すること
 - (3) その他会務の運営に関する臨時または緊急の事項
- 10 監事は、理事・委員合同役員会に出席し意見を述べることができる。
- 11 理事・委員合同役員会の開催が必要で招集が困難な場合は、持ち回りまたは書面議決を行うことが出来る。
- 12 持ち回りまたは書面議決を行う場合は、議決権者の2分の1以上の賛成により議決する。
- 13 持ち回りまたは書面議決を行った場合は、議事の結果を速やかに理事・委員合同役員会の構成員に報告しなければならない。

(退会)

第11条 会員は所定の退会届を提出することで、任意に退会することができる。

(事務局)

第12条 第3条に掲げる事業を円滑に行うため、本会に事務局を置く。

- 2 本会の事務局を、佐賀県佐賀市南佐賀2丁目6-3に置く。
- 3 事務局に、事務長1人のほか、必要なスタッフをおく。
- 4 事務長は、会長の命を受け、庶務を統轄する。
- 5 事務局スタッフは、事務長の指揮を受け、庶務を処理する。
- 6 事務長は、会長が任免する。

(財政)

第13条 本会の財政は、協賛金、寄付金、その他の収入をもって充てる。

(会計)

第14条 本会の会計決算は、9月末日及び映画完成後の一次上映終了月の月末までとする。

(財産)

第15条 本会で集めた協賛金及び寄付金は、会の運営に必要な費用を差し引き予算額の範囲内で適宜、映画製作・配給委員会へ寄付することとする。

- 2 映画製作・配給委員会への寄付は、その時期及び金額を理事・委員合同役員会の議決をもって行う。
- 3 事業終了における決算において収支余剰金が発生した場合は、理事・委員合同役員会で寄付先、寄付金額を決定し、総会の議決を経て全て寄付するものとする。

(解散)

第16条 本会は、第3条に掲げる事業の終了をもって解散する。

(設立年月日)

第17条 本会の設立年月日は、令和5年10月16日とする。

附 則

1. この規約は、令和5年10月16日より施行する。
令和5年12月15日一部改正

- 事業計画 -

映画「ら・かんぱねら」を支援する会 事業計画			
年 月	支援する会	製作配給委員会	備 考
2023年 10月～ 2024年 2月まで	支援する会 祭会 協賛金 募集開始 ロケハン（ロケ地下見）協力 関連団体・協力団体・個人等の撮影エリアへの協力要請 実景撮影協力 SNS配信 HP運用開始	ロケスタッフ準備開始 宣伝配給戦略打合せ ロケハン（ロケ地下見） 台本完成 制作予算確定 ロケスタッフ準備開始 実景撮影（海苔作業先行撮影） SNS配信 HP運用開始	パブリシティー開始 公開劇場、次期調整
2024年 3月～4月	協賛金募集 撮影支援、協力	制作記者発表 クラシックイン（ドラマ撮影） ※日数：20日間 宣伝開始	
4月～6月	協賛金募集	ポストプロダクション ※編集、音声などの仕上げ作業 劇伴音楽収録 劇場宣伝配給計画開始	公開予定決定
2024年夏	試写会準備	0号試写 関係団体・マスコミ試写会 写バケ（ジャケット写真）納品	佐賀先行上映会

映画「ら・かんぱねら」を支援する会 収支予算書（案）			
〔 収入の部 〕 (単位／円)			
項目	適用	予 算	備 考
協賛金	企業、団体	135,000,000	関連団体及び関連企業なども含む
	一般	10,000,000	1万円／口
	クラウドファンディング	5,000,000	1万円～
収入合計		150,000,000	

※ 出資及び佐賀県、佐賀市及び行政関連団体の助成金、文化庁補助金等は、製作・配給委員会へ直接の繰り入れとなります。

〔 支出の部 〕 (単位／円)			
項目	適用	予 算	備 考
寄付金	製作・配給委員会へ	120,000,000	
運営経費	広報・印刷費	7,000,000	協賛依頼リーフレット、封筒、名刺、ホームページ制作、広報誌等
	会議費	1,000,000	役員会、総会、報告会等
	通信費	3,000,000	ハガキ、切手、郵送料等
	返礼品	12,000,000	鑑賞チケット、粗品等
	事務費	500,000	コピーインク、コピー用紙、消耗品費等
	事務局費	3,000,000	事務局運営費、人件費等
	旅費・交通費	2,000,000	ガソリン、普及活動（東京など主要都市の県人会）等
	手数料	1,000,000	振込手数料、郵便振替手数料等
	予備費	500,000	
収入合計		150,000,000	



- 佐賀市報（令和7年 元旦号）-



Story

海苔漁師になって30余年、繁茂期が明けたある日、自宅で酒を飲んで寝ていた時に、つけっぱなしのテレビから流れてきた情熱的なピアノの音色に、かつてない衝撃を受ける。「オイも、この曲を弾いてみたか！」。曲目は、フランツ・リストの名曲「ラ・カンパネラ」。それまでの人生で、音楽には全く無縁。楽譜も読めず、「ド」の位置にすら戸惑う。妻や息子からは「弾けるわけがない」と猛反対され、仕事仲間からも馬鹿にされながら、時生は楽譜を購入し、1日4時間、長い時には8時間、ピアノに向かい、練習を重ねる。

無骨な男の奏でる「ラ・カンパネラ」とは！

提供：2025「ら・かんばねら」製作監修委員会

映画 ら・かんばねら

La Campanella

佐賀大和イオンシネマ

1月31日(金)

佐賀県先行上映

※2月21日(金)からは九州各县のイオンシネマで公開

市内各所でロケが行われました



筑港の中で最も多く登場する有明海の海苔漁場



ピアノの演奏会のロケ地となった日吉銀行

昨年
11月17日

特別



完成試写会が行われました

舞台挨拶では、主役を務めた伊原剛志さんが、「最初から最後までピアノを演奏しました」と話しました。ラストシーンで、伊原さんがピアノ演奏を終えると、観客席から大きな拍手が沸き起こりました。観客の皆さんに感想を聞くと、「ピアノがだんだんと上手くなる過程とノリの成長の様子がきれいに撮影され、身近に感じました。また、妻役の南果歩さんとの意気がピッタリで夫婦愛をすごく感じ、感激で泣いてしまいました。佐賀、最高ですねえ」など作品のすばらしさに感動した様子でした。



映画について、詳しくはコチラ▶

最高にうまい佐賀海苔～役者・製作スタッフが翼口同音～

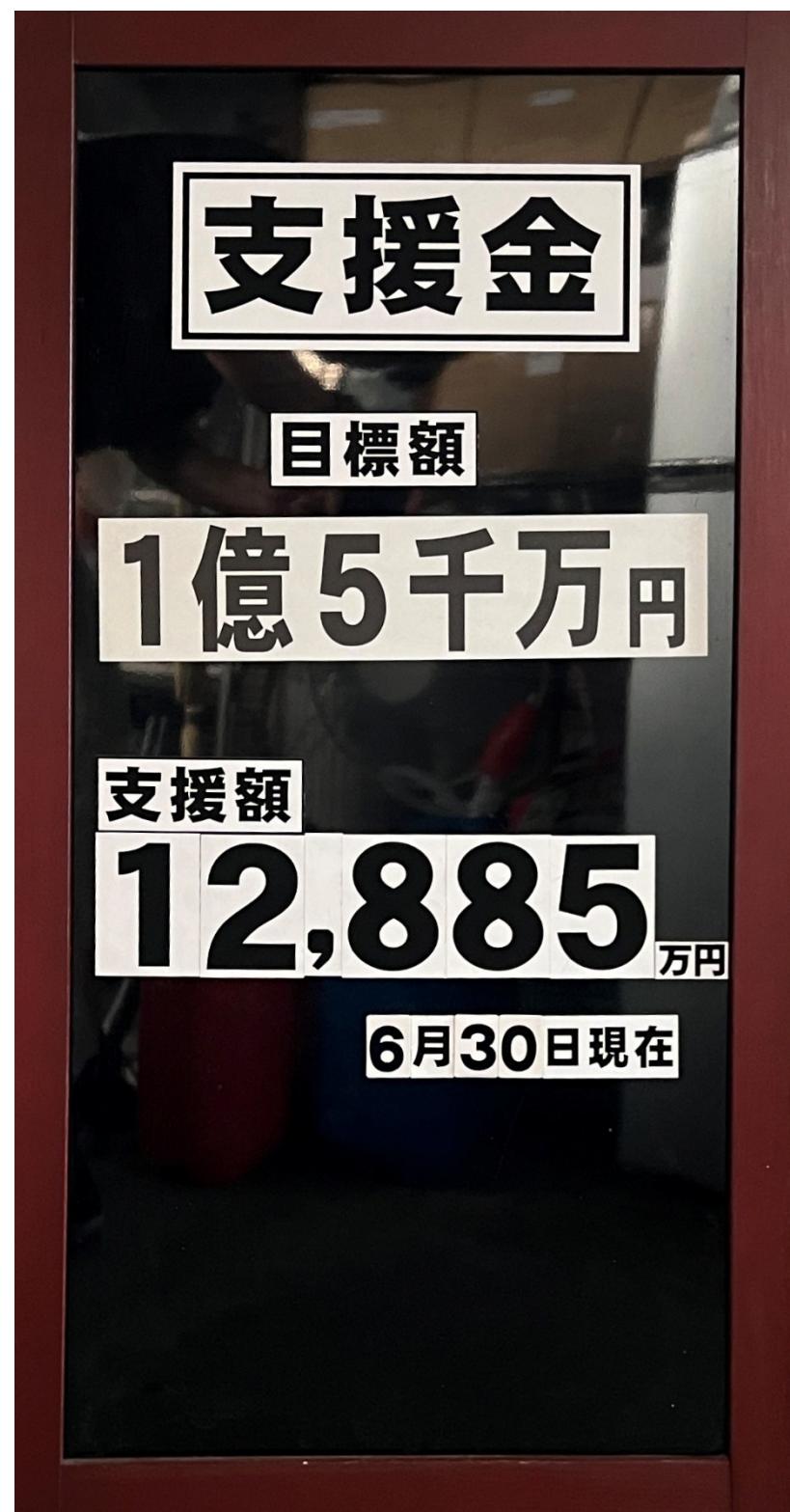
「僕の朝食は、パン食だったよ。でもねえ、佐賀で海苔と出会って、朝食はご飯に変えたよ」と目を細くして話したのは、照明を担当した山川英明さん。「熱いご飯に海苔を巻いて食べると最高だねえ。本当に日本人に生まれて良かったよ」とヒートアップしていく。製作スタッフや役者さんからは、「うまい佐賀海苔がこんなに大変な作業を通して1枚の板海苔にでき上るとは、知らなかつた」など…。モデルとなつた徳永義昭さんも海苔漁をしながらピアノに打ち込んだ体操を、改めて実感したようでした。皆さんは「お土産は、やっぱり佐賀海苔！」と買いました。



問 映画「ら・かんばねら」を支援する会 ☎97・4781



映画「ら・かんぱねら」を支援する会
– 協賛と補助金の区分 –



一般協賛金・募金	佐賀県補助金
佐賀県未来創造基金	佐賀市補助金
クラウドファンディング	

※ 補助金については、映画製作委員会への補助となります。
※ 基金は「事業指定」を受け損金処理が可能となりました。

ご支援・ご協力の個人行政・企業・団体

佐賀県有明海漁業(協)／佐賀東高不知火同窓会

久光製薬(株)／戸上電機グループ／(株)サン海苔

(株)海洋化学／九州電力(株)／(株)鴻池組／(株)佐賀銀行／佐賀県有明海漁協南川副支所／(株)佐賀新聞社／(株)サガテレビ／JA佐賀県農業協同組合中央会／陣内芳博／(株)ダイイチ／大成建設(株)／ホンダカーズ佐賀(株)／松尾建設(株)／(株)ミズ／溝上薬局／(株)ミヅタ

百武静子／(株)大石膏盛堂／(株)オーツボ／(株)九研／(株)九電工佐賀支店／(株)協和製作所／(株)神代薬局／玄海ヤンマー(株)／コトブキテクレックス(株)／佐賀宇部コンクリート工業(株)／(株)佐賀電算センター／佐賀トヨタ自動車(株)／(医)佐賀リハビリテーション病院／JNC開発(株)／(株)大神／田島(株)／(医)長晴会きりんグループ／東亜工機(株)／(株)トヨタレンタリース佐賀／(株)永池／(株)中野建設／西福岡宇部コンクリート(株)／(株)福岡商店／(株)富士建設／(株)平和鋼材／(株)モトシマ／ヤマハ発動機(株)／ヤンマー船用システム(株)／(医)祐愛会／祐徳薬品工業(株)／吉原正博／理研農産化工(株)／(株)ロジコムグループホールディングス

佐賀酒類販売(株)／三福海苔(株)／朝日テクノ(株)／(株)有明・テック／(株)イツワ工業／十四代今泉今右衛門／大坪産業(株)／鹿島印刷(株)／(株)川島製作所／(株)かわでん九州工場／川原常宏／(医)北川眼科／(株)北島／九州信漁連佐賀統括支店／(株)JA建設クリエイトさが／(医)古賀眼科／古賀設備工事(株)／(株)古賀電機製作所／五誠機械産業(株)／佐賀金属(株)／佐賀県食糧(株)／佐賀商工会議所／佐賀信用金庫／佐賀スズライト販売(株)／佐賀東信用組合／(株)佐電工／(株)シバタ設備工業／(株)全日警佐賀／(株)大洋建設／(株)田久保建設／竹下産業(株)／(株)電興社／中島商事(株)／中野武志／(株)中村電機製作所／(株)ナンリ／(株)西九州道路／ニシハツ産業(株)／(株)西村商会／日本生命／JA佐賀川副農政協議会／(株)フカガワ／富士警備保障(株)／(医)葡萄の木／(株)ホンダカーズ中央佐賀／「道の駅」大和そよかぜ館／(株)三原建築設計事務所／宮島醤油(株)／(株)宮園電工／牟田建設(株)／(株)山田鉄工／旅館大和屋／渡邊機開工業(株)

佐賀県有明海漁協大詫間支所／佐賀県有明海漁協東与賀町支所／佐賀県有明海漁協広江支所／佐賀県有明海漁協諸富町支所／(資)今右衛門／(有)榮祐建設／佐賀県有明海漁協佐賀市支所／佐賀市南商工会／篠塚周城／多久市佐城地区商工会連絡協議会／田中和博／中村玲子／東京佐賀県人会／佐賀県有明海漁協早津江支所／弁護士田中芳樹／旅館あけぼの／(学)旭学園／(株)有明・潮風ファーム／池田博／池田誠／(有)イシマル電器／(有)内川鉄工所／内山電機(株)／宇部エクシモ(株)／江頭輝夫／(株)江島農園／枝國医院／大串昭彦／(有)やさい直売所マッちゃん／(株)音成印刷／鹿島機械工業(株)／鐘ヶ江剛／川崎英行／(株)環境STR／岸川整形外科／木村将志／GATHER／九州精密工業(株)／九州保温工業(株)／(株)クーイング／久留米運送(株)佐賀支店／祁答院繁／(株)建匠コンサルタント／小浅商事(株)／(株)コーディネイトスタジオふろしき／(株)五大／坂井医院／佐賀ガス(株)／まこっちゃん／佐賀県有明海漁協久保田町支所／佐賀県火災共済(協)／佐賀県商工会連合会／佐賀県中小企業団体中央会／佐賀県陶磁器工業(協)／佐賀県生コンクリート(協)／(株)佐賀広告センター／(株)サガシキ／(株)佐賀タクシー／サカタプラスチック工業／(株)佐賀玉屋／佐賀日産自動車(株)／佐々木成人／三愛オブリ(株)／ジブラルタ生命保険(株)／自由同和会佐賀県支部／浄安寺／翔栄水産／(有)昭和車体工業／(株)果実工房新SUN／生産組合連絡協議会／正宝電気(株)／全国漁業組合連合会／(株)ソアー／副島アサ／大和証券(株)佐賀支店／(有)ダイワ板金塗装工業／(有)だるま／中央警備保障(株)／(医)鶴田整形外科／(株)鶴屋菓子舗／(有)テクノ立石／(株)テラビット寺内／(有)天山環境開発工業／天山酒造(株)／東邦石油(株)／(株)戸上メタリックス／徳永義昭／(株)鳥栖構内タクシー(株)トスバックスシステムズ福岡営業所／富山弘幸／中島テック(株)／中島浩徳／西村昭彦／(株)西村鐵工所／(株)西村土木建設／野中敏幸／(株)バイオテックス／(医)早津江病院／肥前通運(株)／ファーストクラス／(有)福島機械

(有)ノグチ／(有)野口左官工業／(有)野田鉄工／野中達也／鯛せん／野中拓実／野中研二／野中良平／Bar_BlueVelvet／(株)バームクーヘンワークス／焼鳥はじめ／(株)HASHLABS／(株)長谷川鉄工／畠瀬一成／八江農芸(株)西九州支店／バッセル化学(株)／花島光喜／花ステューディオ遊楽花／パナランドカトウ／馬場賢一／(有)馬場ボディー／(株)浜口商会／はやしだ耳鼻咽喉科／バラエティー／原田(株)／／富士貨物自動車(株)／(株)フジックス／古川次男／古湯温泉旅館組合／古湯・熊の川温泉観光コンベンション連盟／平成黎明会／寶泉正美／寶泉玲子／(株)堀甲製作所／(株)マーレ／(有)マイン／(株)前田海苔／馬郡蒲鉾(株)／(株)MASHIRO／(医)まつした耳鼻咽喉科クリニック／東龍軒／つり具のまるきん／(株)丸信開発工業／光富伸二／ミドリ環境保全(株)／もりた住機設備(株)／(株)ヤマコ／山田裕久／祐徳自動車(株)／横尾剛／與田本店／(株)ラポール／(有)李莊窯業所／レグナテック(株)／脇村由紀

川原食品(株)／眞木優／(有)山本商店／ピアノの音色で牛津を元気にプロジェクト実行委員会／関西佐賀県人会／丸徳川副本店／丸徳大和店／竹下美由紀／(有)アール・エス・ビー／(株)アイティーインペル／飯田豊一／(有)イ・才設計室／Villa石の蔵Hotel／伊勢神社／伊藤幸一／威徳寺／井上康彦／井口食品(株)／(有)伊万里陶芸／上原設備／内田慎次／内田光／江頭一郎商店／(株)ENEOSサンエナジー九州支店／圓照寺／(株)エンターアイ／クリーンライフ布団事業部エンドレス／大塚米穀店／gallery&hall奏樂庭／大坪製菓(株)／(株)オーテック／岡アサ子／夢食彩叶おせそ／(株)小野原製茶問屋／カイドー薬局好生堂店／唐津湾海区砂採取(協)／川崎淳／川崎賢一／川崎千里／川崎照子／(有)川代テント工業／川副中学校第18回卒業生同窓会／川副町物産協議会／北村孝信／(株)機動開発／(株)九州運輸／九州資材販売(株)／共栄火災海上保険(株)／(株)希星／久米正剛／光淨ペットメモリアル／高祖勝幸／(株)高太／コーソ薬局ラポール店／古賀恵義／小柳信好／佐賀トヨペット(株)／佐賀栄城ライオンズクラブ／(公社)佐賀県トラック協会／佐賀月星(株)／(有)坂本石灰工業所／佐賀大和工業団地(協)／ささき農園／佐々木義文／(株)サンシティ／日枝神社／喫茶サンパウロ／デイサービスしあわせ工房／島内啓次海苔店／須彌亭／ジョイックスグループ／昇海水産／白武啓介／(有)白石海苔機械センター／(株)陣内電設／(株)末次タイヤ工業所／鈴木貴幸／(株)スマイル・プランニング／精密舎(株)／(株)想建／(株)ソクト／大正屋／北村正文／(有)高崎商会／高田太／竹下勝治／竹下幸佑／竹下製菓(株)／(株)竹八／田中和子／田中明／田中裕子／田中浩人／田中広海／田中志昌／谷田将拓／(税)中央会計事務所／(株)白峯てまり／寺町倫子／(税)トータルパートナーズ／徳永重訓／徳永忍／(株)徳永製茶／徳永千恵子／徳永陽一／鳥羽かおる／苗代淳也／(株)中川自動車／(有)中島クリーニング／南生水産／西日本総合コンサルタント(株)／西松原自治会／西村扶佐子／西与賀雅俱楽部／(株)日産サティオ佐賀／(株)納所運輸／野中蒲鉾(株)／(特非)のんびらあと／八谷浩司／樹脂粘土花実アート／馬場哲郎／(有)原口設備工業／原田賢二／原田容岐／ハンバーグレストランZOO／ぴあの屋ドットコム(株)／(株)Be-fun／(医)ひらまつ病院／(株)廣松組／福田病院／藤田ファミリー／(株)藤永電設／フラットシップ(株)／フレイグランスコール／ホテルニューオータニ佐賀／(株)MARVEL／松石忠俊／(有)松田木工／豆田裕／まるしょう／丸秀醤油(株)／(有)水田商事／(株)光石丸／(有)みどり映画社／和料理みね家／未来調達研究所(株)／宗政酒造(株)／(株)村岡総本舗有志一同／(株)桃谷商店／(医)森川耳鼻咽喉科／森田秀祐／(株)ヤスナガ／山田酒店／山本満行／ユウシード東洋(株)／(有)吉田商店

(株)副島金物／野田建設(株)／緒方珠美／深川久美／神埼ロータリークラブ／(株)アイワン／あおぞらファイナンシャルサービス(株)／明石孝幸／あぎゃんそぎゃんこぎゃん／アシスト／(株)梓設計九州支社／あだち珈琲(株)／アパート相続対策(株)／(有)あらお花店／荒巻商会／(有)有明アルミニウム佐賀県有明海漁業青色申告会／有明交通(株)／(株)ECAST／(株)池田開発／池田香／池田和彦／池田装飾／池田史子／(株)イケマコ／(有)池田誠商店／池田正人／池田有輝／石井忠文／石江隆法／石川鈴奈／石田茶織／石橋文子／泉繁雄税理事務所／麺処いっせい／(株)井手解体実業／(有)井上製麺／井の口物産(株)／(有)イハラ建設／岩佐英之／植木美佐夫／海授丸／内田一臣／内田俊彦／UBE三菱セメント(株)／浦川康昌／HSエンジニアリング／AILES／江頭順子／えがしら小児科医院／江頭卓也／江頭夏樹／江頭正則／江頭良平／エディオン白石店／(株)NBCラジオ／江見みどり／(株)エリカ健康道場／エレクトロ通商(株)／大久保宏次／大久保新／大島麻池子／大坪信剛／大坪石材(株)／大坪信貴／大曲西中第13期生／(株)大本／緒方歯科クリニック／(有)小副川建設／小田クリニック／落合裕二／小野外国语スクール／御結びの女神／鹿島商工会議所／鹿島海苔機械／髪切処なかしま／仮屋湾遊漁センター／川崎新一／(有)川崎菅材／川崎畜産直売所／(株)川崎プロパン／川副板金店／川原麻子／(株)川原建設／川原幸恵／川原峻／(有)カン・テック／(株)企画ななきの家／岸川茂人／北原沢子／北原美沙子／北村和秀／北村茂樹／喜多村石油(株)／北村誠道／木下澄雄／(株)九州構造設計／九州積水工業(株)／九州不動産専門学院グループ／ぎんざ夢工房／柳田恵美子／葛岡達司／ぐつとらつ句の会／久米謙太郎／久米祥太郎／久米善彦／くらとみ眼科医院／久留米むつもん雑貨市／黒木賢一郎／こいで歯科医院／光伸(株)／(医)古宇田歯科医院／ゴールドジュエリータナカ／こが医療館明彦まきこクリニック／古賀会／古賀一視／(有)古賀機械／古賀希与子／(医)こが内科こどもクリニック／(株)古賀木材センター／(有)コスモス開発／小園裕久／(有)小宮鉄工所／小森留美子／こやなぎ薬局／(株)colore／サカイオイル(株)／坂井哲也／堺文子／佐賀運輸(株)／佐賀県環境科学検査協会／佐賀県漁業共済／(株)佐賀工房／(同)／佐賀市漁村女性の会／佐賀中部食品衛生協議会／佐嘉神社記念館／佐賀ステンレス工芸／坂田恵輔／(有)佐嘉の絲／(株)佐賀美石／(有)サガ・ビネガー／佐賀ライオンズクラブ／(医)佐藤整形外科／サニーズ佐賀店／JA佐賀市中央／(株)JTB／JAIFA佐賀県協会／シェ・ヤマモト／(株)シグマ／Kazuyo／島崎元次／島ノ江素子／酒の蔵えん／浄教寺／菖蒲共栄／新栄地研(株)／進藤久／鈴木建設(株)／STAR会／住友大阪セメント(株)福岡支店／(株)生産日本社福岡支店／西部機材(株)／全国共済水産業(協連)九州事業部佐賀支店／全国漁業信用基金協会佐賀支所／泉州真田會／千住友二／草苑／佐賀県造園(協)／(株)創研／副島智子／園木まゆみピアノ教室／園田税務会計事務所／Soraimo／(有)ソラリス・オフィス／第一生命佐賀支社／大樹生命保険(株)／太陽生命保険(株)佐賀支社／(株)大和建設／高尾電設／(株)高澤福岡営業所／(株)タカダ／タカトモ／高橋恵子／TAKEO_STEEL_Co.,Ltd.／(株)武雄タクシー／竹下恵子／竹下昌邦／竹下由紀子／(株)竹中印刷工芸／田代明子／(株)タチバナ／(税)TACHIBANA／(株)田中設計事務所／田中啓善／田中めがね／田中喜久／(株)たにだ／田伏俊作／(株)筑後物産／(株)中央楽器／(一社)佐賀県中小企業診断協会／(株)通宝／堤初子／(有)堤正則建築設計事務所／坪倉謙之／鶴丸自動車／(税)TMサポート／(株)D.C環境開発／T-1'sバーガーカフェ／手塚労務管理事務所／(有)寺崎資材工業／てんとうむし／(株)テンプス／土居祐一／東魂会／東邦商事(株)／(協)戸上会／徳光さつき／佐賀ラーメン徳吉／徳吉咲子／(株)トスプロ／長家塗装(株)／永石実里／中島育子／(株)中島製作所／中島武子／中島敏啓／ナカシマプロペラ(株)／(株)永田／永田啓造／永田てるみ／(有)長野映研／名越栄亮／

hair・makeあとりえ／中原誠／(有)ナカムラ／なぎさ本舗京都屋／(有)ナナスタジオ／(株)ナンキュウ／(株)エニシム／西岡剛志／お惣菜・お弁当にしき／西田義浩／西日本ポール(株)／西村浩美／(有)日楽ホーム／日興食品(株)／二宮幸雄／(株)日本一たい焼き／日本セロンパック(株)福岡支店／沼山良太／佐賀県農協川副支部青年部／納富美聰／(有)野口建築設計事務所／(有)原田製樽所／原田博史／BAL_TAPAS／伴野マキ子／(株)美ALL／東中尾優希／(同)ヒカリミライ／ひさのう循環器・内科／(有)肥前防災／美と書Sala.la／ひなた村自然塾／vino_bar_TOCCO／(株)美Pro／(株)肥吉商会／美ライフスタイルLab／平松博之／平松幸男／広重屋／(株)福岡工務店／福岡銀行柳川支店／(特非)ふくしの家／福田造園／(株)藤井電工／藤研二／(有)フジタ工務店／(有)フジ電気／藤原正義／ふたば幼稚園／舟越陽子／(株)ファーストリバー／プラジュ／(株)PLUS／(株)plan／ブルー・ストーン／古川俊博／(株)佐賀古湯キャンプ／BAKERY_M's／ホーリョウ商事(株)佐賀営業所／(有)外尾自動車／ホスムスカモス／(株)ほけんの未来・佐賀／堀上秀信／ホルモン五郎ハ／ボンスリー／馬郡孝子／(有)眞崎木型製作所／眞崎自動車／マサキ電通／増本和之／(有)松石建設／(医)まつお歯科医院／松尾順子／松尾理一郎／肉処まつした／(株)マベック／右寺直樹／みぞかみ耳鼻咽喉科／満岡誠／みつき／宮原和子／(特非)みんなの森プロジェクト／(株)村岡屋／村上功／明治安田生命佐賀支社／(株)名門大洋フェリー／明倫国際法律事務所／堀田明希／メープルベーカリー／メック(株)／(株)本告酒店／(株)モトーレン佐賀／本村吉浩／(有)ももえん／米のもりげん／森永建設(株)／(有)諸富クレーン工業／(株)モンスタイル／(有)やかた商事／やきとりいちりん／安永勝一／柳川農業(協)本所／山口一豊／山佐木材(株)／山下正雄／山下士功／山下雄司／山代ガス(株)／やまだ一樹／(有)山田石油／ヤマトカンキョウ(株)／山西淑朗／山西恵美子／遊心庵／祐徳通商(株)／祐徳旅行(株)／有料老人ホームひだまり／ゆめか整骨院／楊柳亭／(医)横尾クリニック／(株)横尾土木／吉田京子／(株)吉武燃料／吉田宏毅／(医)吉松皮フ科／らいふ薬局川副店／ラ・ポール／RENDEZ-VOUS DES AMIS／(司)リーガル綜合事務所／(株)リブハウス／リングス(株)／6人組／浪漫座／(株)若草不動産／若林秀樹

(株)アプロジャパン／内田直美／内田涼子／石丸食品／ミュージックワイド／岩坪光輝／碓井佑奈／鎌田明日香／古賀瑠美／(株)コニシ物産／小西トキエ／篠崎由起子／食堂権現／高木栄一／竹島鉄工所／中村千春／新北神社／原田正子／藤井瑞恵／持永安春／吉原登代子／佐賀東高ラグビー部OB会／江口浩文／西田義久／ここから／合阪須美子／秋山美奈／AXIAカッティングサロン／株式会社／アプロジャパン／荒木真衣子／荒木和則／荒木佐苗／荒谷和江／安西知子／池上智美／池田一善／池田久美子／池上直子／石井賢治／市川澄子／モイスティーヌ光サロン／出フミ子／糸山哲生／井上栄子／井上俊己／素敵屋帝国imagine／伊万里ちゃんぽん新橋店／祝迫勝之／岩崎一男／上野美由紀／(医)ウェルビジョン／牛島美代子／内田卓治／内田若枝／内田和憲／内田勝義／内田順子／きものと帯えがしら／江頭和代／江頭貞則／江頭資雄斗／江頭政二郎／江口恵美子／江口満／江口久美／江口弘一／江口美貴／江口由巳／江島和浩／江島佐知子／江藤みずえ／スナックえりな／大串サイ子／大島秀昭／大島弘子／緒方うらら／小副川春美／音成洋子／鬼崎信文／小渕悦靖／片岡伸子／香月幸子／香月泰則／加藤ひろ子／金丸正之／(株)鹿の子／蒲原勉／加茂大雅／河合正行／川久保優子／川崎正法／川崎翔平／川崎一也／川崎隆応／川崎温子／川崎浩幸／川崎義秀／川瀬義弘／川瀬進／川瀬昌広／川副里子／川副隆夫／川原久美／川原康宏／川原理子／金基鎧／北古賀享子／北島正信／北濱美奈江／木津恒美／ぎやらりーモモ／くさば食堂／久保木孝／久保化粧品店／久保秀幸／(株)久間／久米康寛／久米安憲／久米洋子／藏戸直己／GLAMASH／桑原美香／ゲストハウス繋ぐ／小池瑞穂／小出昭善／高祖剛／高祖勝／古賀伸輔／古賀時子／古賀三千代／御所直紀／小林佐知子／小宮尚子／菰方千文／小柳春菜／近藤詳子／近藤正凱／今野昭一／坂井生花店／坂口勝広／佐賀県保育会青年部／(株)坂田組／坂田幸広／佐熊邦夫／酒村祐輝／酒村郁香／佐々木忠夫／貞富海運(有)／貞松千恵子／RAM_eyebrowsalon／サトウクリニック／佐藤剛志／サロンド・ユー／サロン卑弥呼／三福海苔(株)社員一同／See_yaシーヤ／(有)七田清次商会／七田義孝／七田彰子／司法書士米満安浩／下野ゆう子／JAZZ工房Nishimura／庄島瑞恵／正松本敦子／ジーワイタイヤ佐賀販売／(有)信栄商会／新ヶ江一守／神河好子／新村敏雄／末藤電気管理事務所／杉乃家／杉本哲也／鈴木伸吾／角田美穂子／関正毅／(有)セキュリティスタッフ／千住泉／副島等／園田広海／園田正／園田咲子／園田清弘／園木まさ／園田翼／向井美保／(株)ダイニング佐賀／高木瀬整骨院／高橋とし／高柳勉／高山百合子／滝川祐子／田口和江／田口清孝／田口英之／竹下功／竹下饅頭店／武田朋子／武谷美紀／DA_GINO／伊達ミツ代／田中聖子／田中照美／田中明子／田中要／田中幸子／田中歯科医院／田中茂利／田中食材／田中龍臣／田中俊幸／たなかのパン／田中丸縫子／田中由紀子／谷修良／タニグチ保険サービス／塚崎忍／(有)塚原旗商会／つじかわこういちろう／土橋洋／堤建太／津村孝子／鶴勉／手塚登代美／徳富ゆかり／徳永美恵子／徳永稔穂子／徳久友子／鳥栖中央マイカーランド／ナイトスペースレザボー／中尾恵子／長尾一十三／ようこちゃん／中島唯友／中島義允／中島紗弥香／中島宗昭／ゆーみん／中島陽子／永田美穂／中野愛姫奈／中野恵美子／中野利勝／長野良子／中原禎之／永松一敏／中溝洋子／(株)中村電工／中村聰一郎／成定和江／南里真優美／仁位早由美／西岡健次／西川悦子／西村剛／日伸産業(株)長崎営業所／日本強運堂(株)佐賀支店／納富二三恵／(有)野口商事／野口忠紹／野口輝彦／野口文夫／野中松子／野中邦雄／野中正男／野中洋子／野本英美／橋本輝次／橋本美和／畠山隆／畠瀬忠／八谷克幸／濱尾新／濱田裕子／御弁当・仕出しさはやし／林功生／林純子／林田千恵美／原口郁哉／原幸子／ハラダ工業(株)／原田千恵美／原田由佳／東島吉孝／さく咲くコラボ／樋口隆／樋口ゆう子／樋口由利子／久富文江／秀島雅人／(株)一吉／百武邦仁／百武龍斗／平方美奈子／廣川松江／深川照弘／福井邦枝／福崎一之助／福島隆宏／福田伸裕／藤井春彦／(株)富士商会／古川カズオ／古川和則／古川哲／古村嘉子／(株)フローリストかわさき／ベーカリーコロ南佐賀店／(株)ほけんショップ／本城弥生／(株)本田設備／マーキーMilestone／前山直／美容室Magu／まごころ授産所／真崎ちゆき／真白／(司)増田事務所／松井洋子／松尾啓子／松尾幸樹／松尾隼雄／松尾博志／松下周太／松永るみ子／松永真一郎／松永登美子／松永美妃／三木吾朗／水田銀子／水谷昭治／溝上徹也／南川岸子／峰松大輔／宮崎孝子／宮崎慶宣／宮添有里／創作らーめん無庵／牟田薰／武藤あけみ／村岡知子／村山万葉香／(株)明治屋クリーニング／モスバーガー佐賀南バイパス店／百島美代子／森永智登美／やすつねただのり／山浦五郎／山口聰子／山崎武／焼鳥やました／山下幹夫／山田晟雅／山田真司／山田未敏／山田直江／山本みづほ／EURO／杠研一郎／(株)加根又本店佐賀支店／杠美弥子／ゆっこ農園／横尾文子／横尾文三／横川美佐子／吉岡信夫／吉川弘記／吉田晃一／吉田直彦／吉田真理／明子／吉松誠一郎／吉村由美子／米沢真理／龍悦子／龍憲行／(株)レジテイク／ワーズワースの庭

その他、1万円以下のご協賛を頂いた多くの皆様

ら・かんぱねら募金へご協力いただいた皆さま

支援する会スタッフ募金

ご協賛をいただいた全国の皆さまへ – 感謝のハガキでお礼 –



映画「ら・かんぱねら」
応援してます！



映画「ら・かんぱねら」を支援する会
佐賀県佐賀市南佐賀2丁目6-3 TEL 0952-97-4781

ご協賛ありがとうございました。

※エンドロール・パンフレット・ホームページへ掲載させていただく
社名又はお名前のご確認をお願いします。誤りがございましたら恐れ
入りますが、ご連絡をお願いします。（掲載情報は上記に記載）

※エンドロールへの掲載は社名のみとなりますのでご了承ください。

※エンドロール等に掲載を希望されない場合は、ご連絡をお願いします。

※映画完成披露試写会又は映画鑑賞チケットの送付は、今年秋頃になる
予定です。

お問い合わせ窓口 TEL 0952-97-4781



支援する会は、全国各地から届いたご協賛
に対し、皆さまへ一枚一枚心を込めて感謝の
お礼のハガキを郵送するなど、佐賀ならでは
の対応を最後までやり通しました。その数は、
2,000枚を超えます。

看板が市民にアピール



協賛 (株)ナガノ・ホールディングス

スタッフルームが立ち上がって間もなくの事でした。支援する会の川崎賢朗局長と鈴木一美監督から映画「ら・かんぱねら」が目立つようなネオンサインとかできませんかと相談がありました。

早速、広告と看板等の企画が出来る(株)ナガノ・ホールディングスの社長に連絡を取りました。さすがプロフェッショナルでした。「ネオンはダメですよ。スタッフルームの前にどこから見ても分かる大きな看板を建てればいいですよ」とプランを持って来てくれました。それも、会社の協賛という形での無償設置のご提案でした。その言葉に甘えてお願ひをしました。

しばらくするとスタッフルームに映画「ら・かんぱねら」の素晴らしい看板が建ち、出来上がりしました。その時の驚きと感動は今でも忘れることが出来ません。

その後、第二弾としてポスターをモチーフにした看板も、同じように協賛で製作して頂きました。スタッフルームには、昼も夜も輝き続けています。

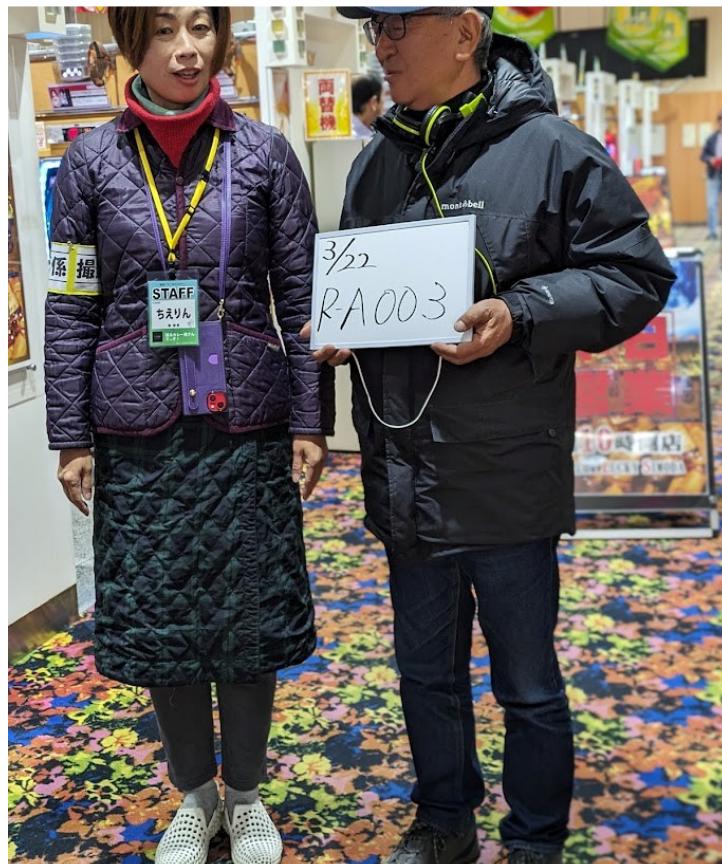
この様に多くの皆さんのが心よく協賛して頂いた映画「ら・かんぱねら」はヒット間違いなしと確信しています。

広報PR隊の活躍



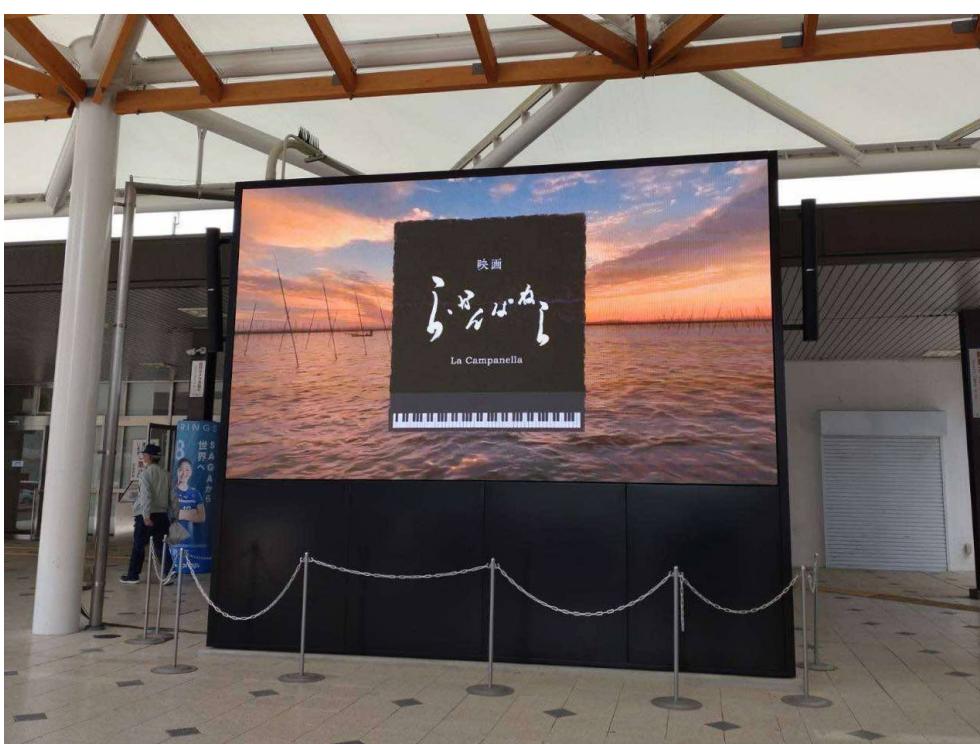
※ 撮影してはSNSに投稿

完成披露試写会では、キャストから一般観客まで、チームのメンバーが手分けして取り組む。泣きながら感動したとカメラの前で話してくれる観客が映し出される。編集も素晴らしくプロ顔負けの作品でした。



※ 毎日、監督にインタビュー

ロケ現場には必ず、広報PR隊がいて監督にインタビューをすることが、ロケ期間中の日課でした。今日は、どのようなシーンを撮るのか聞くと監督から、「パチンコ店で負けたシーン RA003」ですとコメントを取ったら、直ぐに、SNSに投稿し、大勢の皆さんに広報して行きました。



※ サイネージで広報

- ・佐賀駅改札YOKATOビジョン
 - ・佐賀駅前市民広場大型ビジョン
 - ・佐賀市サイネージ
 - ・佐賀市観光協会サイネージ
 - ・佐賀空港サイネージ
- などで映画製作のPRを展開し、多くの市民が映画「ら・かんぱねら」を知ることとなった。

思い出のメディア出演



KBC九州朝日放送に出演
(伊原剛志、支援する会)



TOSテレビ大分に出演
(鈴木監督)



NBCラジオに出演
(鈴木監督、川崎事務局長)



サガテレビのニュース

九州内で映画「ら・かんぱねら」を取り上げてくれたメディア

(テレビ)

サガテレビ NHK佐賀 KBC九州朝日放送 RKB毎日放送 FBS福岡放送 TVQ九州放送 KTNテレビ長崎 NCC長崎文化放送 TKUテレビ熊本 KKB鹿児島放送 KTS鹿児島テレビ UMKテレビ宮崎 TOSテレビ大分

(新聞・雑誌)

佐賀新聞 西日本新聞 朝日新聞 每日新聞 読売新聞 日本経済新聞 共同通信 時事通信 佐賀経済 長崎新聞 熊本日日新聞 大分合同新聞 MOTEMOTE 佐賀市広報 東京佐賀県人会

(ラジオ)

FM佐賀 NBCラジオ RKKラジオ えびすFM からつFM

(CATV)

ぶんぶんテレビ ケーブルワン



FM佐賀に出演
(川崎瑠奈)

上映チケット交換時の封入用チラシ



海苔師の徳永義昭さんをモデルにした映画が遂に完成！

ら・かんぱねら

La Campanella



何かに挑戦しようと思えば、挑戦できる機会がたくさん転がっている現代。それなのに、「自分には無理だ」と諦めて3日坊主で終わったり、「あなたには無理よ」と周りから言われてしまい、始めることができない人も多い。しかし、海苔漁という過酷な仕事の傍ら、ピアノを練習し続け、夢を叶えた男がいた。その姿を描くことで、「人間、やろうと思えばできないことはない」「新しいことを始めるのは、今からでも遅くない」と、挑戦する一步を踏み出す勇気をくれる映画です。

CAST 伊原剛志、南果歩、緒形敦、大空真弓、不破万作、どぶろっく、川崎瑠奈、他

2025.1.31 Fri ~

佐賀

佐賀先行上映！
イオンシネマ佐賀大和

2025.2.21 Fri ~

福岡
熊本

イオンシネマ福岡
イオンシネマ戸畠
イオンシネマ筑紫野
イオンシネマ大野城
イオンシネマ熊本

2025.5.9 Fri ~

東京

ユーロスペース（渋谷）



※上映期間は、館によって異なります。それぞれの館にてご確認ください。



<ご質問・お問い合わせ先>

映画「ら・かんぱねら」を支援する会 事務局

TEL 0952-97-4781 (平日 13時～17時)

東京・関西・福岡市の県人会も支援



支援する会は東京・関西・福岡市の佐賀県人会を訪問し、総会などで映画への支援を呼び掛けてまいりました。東京佐賀県人会では、5月9日東京渋谷にあるユーロスペースでの公開と合わせて、映画のモデルとなった徳永義昭さんのコンサートを開催するなど、会員の総力をあげて独自の支援を企画して頂きました。このことは、ユーロスペースの延長上映に大きな力となりました。



佐賀新聞全5段広告



C&R

株式会社 佐賀リコピーサービス RICOH Office Partner

映画「ら・かんばねら」応援キャンペーン協賛社（順不同）

JJAバンク佐賀

株式会社 西日本企画サービス

メガネのヨネサワ

映画「ら・かんばねら」初日までの宣伝と取り組み				2025.1.22現在	
年	月・日	行動など	趣旨	対象	備考
2024	12月中旬	招待券プレゼント	ワイドショーなどにお年玉プレゼント (招待券は、来年になる。東京試写会で対応)	テレビ・新聞・ラジオ	KBC受諾
		佐賀の十大ニュースに	今年を振り返る中に、入れさせる行動	テレビ・新聞・ラジオ	佐賀・福岡
		佐賀新聞 サガテレビ	・十大ニュース(上位にランクイン) ・十大ニュースに「ら・かんばねら」に入る ・NHK佐賀も・確認中		年末に掲載 12月30日放送
		試写状付き年賀状を著名人へ	・映画評論家や著名人・県人会150名に試写状を		製作委員会で
		バリヤフリー版製作スタート	障がい者用の音声と字幕ガイド製作(劇場用)		製作委員会で
		佐賀駅の大型モニターにて予告編			支援する会
	12月27日	糸島新聞	コラムで映画紹介「夢叶える」	糸島地区	
	12月30日	全五段P	1月31日の先行映画PR	佐賀新聞 一回目	12月30日紙面
2025	元旦	元旦号に記載	・佐賀新聞元旦号に大きく掲載 ・佐賀市報元旦号の裏面一面に掲載 ・東京佐賀県人会元旦号に記載		
	4日～10日	新年挨拶回り	商工会議所など		CM放映など
	1月12日	映画上映訴え	熊本・天草の映画館挨拶		監督・今村・北村
	15～16日	大分・北九州に映画上映訴え	大分・北九州(午後にTOS園田報道制作局長挨拶)		監督・今村・北村
	14日の週	KBC	13:50～14:50 地元応援 LIVE WISH	テレビで番宣	
	1月19日	演劇「ら・かんばねら」	徳永さん演奏	東与賀ホール	
		全五段P	1月31日の先行映画PR	佐賀新聞 二回目	1月19日紙面
	1月20日	第一回東京試写会(渋谷・映画美学校)	映画評論家・県人会・フジテレビ関係者など		製作委員会で
		マスコミリリース	先行上映会のリリースと囲み取材の案内	製作配給委員会より	上映招待・進行案
か ん ば ね う わ ら イ ク	1月24日	監督講演	16時40分～17時半		龍登園
		かちかちLIVE	サガテレビ出演要請(18時～)		監督・川崎瑠奈?
	1月26日	全面広告(佐賀新聞)	1月31日の先行映画PR	佐賀新聞	
	1月27日	FM佐賀	夕方のワイド(監督出演)		16時ごろ
	1月29日	えびすFM	ワイワイ横丁(監督出演)		10時から出演
	1月30日	NBCラジオ	午前中の生	監督出演	10時ごろ
	1月30日	KKB鹿児島放送	夕方のニュース枠	監督 ラインで出演	17時半から
	1月30日	LOVE FM	「さがの小部屋」でかんばねらを放送		福岡のFM局
	1月31日	先行上映	知事・市長など舞台挨拶 南さんも参加予定	マスコミも招待する	進行は、製作委員会
	2月1日	イオンモールにてイベント(イオンコンパス)	舞台挨拶：伊原さん・南さん＆(2回)予定	マスコミも招待する	進行は、製作委員会
	2月第一週	全五段P	ダメ押しPR	佐賀新聞 三回目	
	5月9日	徳永さんピアノコンサート	東京上映初日に合わせて	東京佐賀県人会の主催	
				文責：北村和秀・桑山和之	

ら・かんぱねら NEWS vol.01(表)



ら・かんぱねら NEWS

vol.01 2024.05

発行者：映画「ら・かんぱねら」を支援する会

La Campanella

映画「ら・かんぱねら」
4月12日 クランクアップ！！

2024年秋
完成披露試写会
予定

CAST



主演：伊原剛志



南果歩



緒形敦



大空眞弓



不破万作



どぶろっく



川崎瑠奈

主演、伊原剛志さんの役者魂！

- ・9月の主演決定後1日6時間ピアノを猛特訓！リストの「ラ・カンパネラ」を演奏できるまでに！
- ・海に落ちそうになりながらも、難しい船上での支柱立てをやりこなした！
- ・ピアノ演奏や海苔師の仕事に加え、佐賀弁もマスター！「佐賀弁むつかしかあ～！」

南果歩さん、妻役にピッタリ！佐賀弁でアドリブ！

- ・方言指導の先生も驚きの流ちょうな佐賀弁！「あんた！なんばしょっと！」「何ね！その恰好は！」など
- 緒形敦さん、フレッシュな息子役！
- 大空眞弓さん、映画のキーになる謎の女性を熱演！
- 不破万作さん、父役の渋い演技も見どころ！
- どぶろっくさんの海苔師役も見ものです！

inside story

隣の部屋からピアノの音色が聞こえる。映画スタッフたちは、次の場面の準備で大忙し。でも何となく和む雰囲気を作り出す。主演の伊原剛志さんと南果歩さんが少しの合間に縫ってピアノに向かって奏でる曲は、「ら・かんぱねら」であったり「浜辺の歌」であったりするが、それがスタッフたちの心の中まで染み、て和ませる。映画のロケ地での些細な事だけどチームワークの良さまで作り出している。また、佐賀市の浪漫座ではロケの合間にピアノに向かったのは南果歩さんだった。「い～つか浜辺を・・」と浜辺の歌を演奏し始めたら会場の100人のエキストラの皆さんがあなれ入って涙する人も、終わったら果歩さんは皆さんにお辞儀、大きな拍手に包まれた。人情産地、佐賀ならではのロケ光景でした。

監督 鈴木一美

<https://la-campanella.net>

ら・かんぱねら NEWS vol.01(裏)

La Campanella



ら・かんぱねら NEWS

Shooting on a locationnn



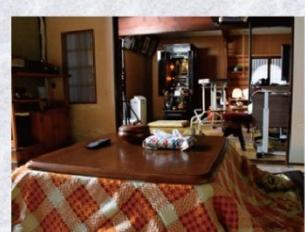
浪漫座（柳町）



レトロ館（城内）



パチンコ店（下田）



徳田邸（川副）



海苔小屋（川副）



クランクアップ

佐賀のみなさんと一緒に製作 ～ロケ地で新たな交流～

佐賀市柳町にある浪漫座での地元エキストラ
100名による映画の重要なシーンを撮影！

<主要ロケ地>

有明海の海苔漁場、戸ヶ里漁港、海童神社、東よか干潟ビジターセンターひがさす、浪漫座、レトロ館、直正銅像と城内公園、佐賀東高校、古湯温泉、熊の川温泉、嘉瀬川ダム、白石修道館、小川楽器店、他

Volunteer

ボランティアスタッフの真心のおもてなし ～温かな、お味噌汁やスープ～

俳優さんも映画スタッフも大満足のおもてなし！

延べ100名を超える炊き出し隊では、支援する会のスタッフに加え、南川副・早津江・大詫間・広江・諸富などJF有明海漁協女性部の皆様が、海苔スープ、豚汁、しじみ汁、玉ねぎスープなどの汁ものから、シシリアンライスや豚丼、カレー、おでんなど、それぞれ思考を凝らしたお料理でおもてなしを行いました。炊き出し風景は、主演の伊原剛志さんのInstagramで動画配信して頂いております。是非、ご覧ください。

映画製作スタッフへの支援！

支援する会では、制作部の車輌ドライバーや美術道具の搬入搬出、食事場のセッティングなど、影となって様々な支援で映画の撮影をサポートさせていただきました。



みなさまへご支援のお願い

この映画は1億5千万円の制作費がかかります。支援する会では、この映画を素晴らしい映画にするため、皆様のご協力を募っております。



映画「ら・かんぱねら」基金



クラウドファンディング

発行者：映画「ら・かんぱねら」を支援する会
佐賀県佐賀市南佐賀2丁目6-3 TEL 0952-97-4781 mail:info@la-campanella.net



ホームページ

ら・かんぱねら NEWS vol.02(表)

ら・かんぱねら NEWS
vol.02 2024.07
発行者：映画「ら・かんぱねら」を支援する会

La Campanella

映画「ら・かんぱねら」
オール・ラッシュに感動！！

2024年秋
佐賀で完成
披露試写会

熱烈歓迎

東京調布市の角川大映スタジオに着いた3人は、久しぶりに再会する映画スタッフの熱烈な歓迎に、少し照れくさい仕草を見せた。一応の挨拶を済ませた後、スタジオ地下にある試写室に案内された。3人とは、映画「ら・かんぱねら」を支援する会のBOSSの川崎局長・川原事務長・鐘ヶ江デスク。支援する会が発足前から準備を進め、苦労を重ね映画製作に多大な貢献をした人たちです。「3人がいなかったら映画製作は無い」とも言われている。お礼を込めて誰よりも早く「オール・ラッシュは、先ず3人に観て貰って」感動を支援する会のメンバーに伝えてほしいとの配慮から行われた。

角川大映スタジオと編集室(東京都調布市)

All-Rush

感動で無言に！

オール・ラッシュとは、効果音や音楽などが入ってなくて、台本に沿って映像シーンを繋いたものです。試写が進むにつれ3人の表情が変化し始めた。前のめりになったり、目頭を拭いたり、試写が終るとしばらく無言になり、込み上げてくるもの抑えながら製作スタッフに感謝を述べた。完成は8月末の予定で、秋には佐賀で先行上映が開かれます。

感動のひとこと

【川崎賢朗】監督からの誘いでオールラッシュ！映画のたまごを観てきました。佐賀を出発する時は楽しみ半分、不安半分が正直な気持ちでしたが、試写会はロケで仲良くなったスタッフがいて懐かしい中で始まりました。試写会が始まってすぐに不安は解消し音楽や効果音が加えられた完成作を早く大きなスクリーンで観たくなりました。

【川原常宏】台本を読み何度も涙させられたが、オールラッシュを観て、ロケの準備、撮影、炊き出しなど、これまでみんなでやってきたことを想い出し思わず涙が込み上げてきました。

【鐘ヶ江留美子】「ら・かんぱねら」一足先に観てきました。伊原さんが奏でる「ラ・カンパネラ」を是非スクリーンで聴いて欲しいです！皆さんご期待ください！感動をお届けします！

Message from the Director

天気の予報士ならぬ予想士がいた。それも映画製作スタッフのひとりでピッタリ当たるから凄いです。ロケーションのスケジュールも遅延なく順調に行っているある日のことです。午前中から、どんよりとした雲が被い、今にも雨が降りそうな空模様でした。しかし、彼は笑顔で「夕方は晴れます」「有明海の夕日は撮れます」とロケ現場で確信を持って言い放った。スタッフは驚いたが涼しい表情にも余裕がある。その人の名は、原島孝暢助監督です。海苔が好きで、佐賀の酒が好きで、帽子が好きで、親父を愛する孝行息子です。ロケの現場では、いつものように大きな声で段取り、リハーサル、本番と繰り返しながら動き回る一方、翌日のスケジュールを入念にチェックし、決定版をスタッフや関係者にメールする。そこには、有明海の潮汐と天気予報が記載され「最高の助監督」と称されている。また、一緒に仕事をしたいスタッフのひとりです。

監督 鈴木一美

<https://la-campanella.net>

ら・かんぱねら NEWS vol.02(裏)

La Campanella



ら・かんぱねら NEWS



もうひとりいた監督

有明海での撮影は、すべて支援する会の佐々木成人くんが仕切れます。鈴木監督の右手にはいつもいて指示を的確にします。有明海の潮汐から漁船に乗船し方・支柱立て・海苔網の調整など全てを指導します。この映画は成人が居たから出来たと監督に言わしめた男です。

麻ママのひとことで始まった！

佐賀市川副町小々森の旧田中邸に、映画「ら・かんぱねら」の主役が住む徳田邸のセットが作られた。美術・装飾のプロデューサー達が本気で素晴らしいセットに仕上げた。台所を覗くと食事シーンのための料理が盛り付けられていた。その中に居るのが川原麻子さん。支援する会の川原常宏事務長の奥様で、通称「麻ママ」。人気者で事務局を切り盛りしているひとりです。何を隠そう「麻ママ」こそが、この映画を決意させた眞の「立役者」なんです。鈴木監督が三年に渡って通い、海苔師のピアニスト徳永義昭さんをモデルにした映画づくりを訴え続けたが、中々いい返事を出さないBOSS。そんな時に普段は穏やかな麻ママが「なんばグジグジしよっとね！」と喝！この一言でBOSSの不安を払拭させ、頑張ろうと決意した。その後、順調に進み映画「ら・かんぱねら」を支援する会が発足し、現在に至ったという逸話があります！



cast



主演：伊原剛志

南果歩

緒形敦

大空翼弓



不破万作

どぶろっく

川崎瑞奈

みなさまへご支援のお願い

この映画は1億5千万円の制作費がかかります。支援する会では、この映画を素晴らしい映画にするため、皆様のご協力を募っております。



映画「ら・かんぱねら」基金



クラウドファンディング

発行者：映画「ら・かんぱねら」を支援する会

佐賀県佐賀市南佐賀2丁目6-3 TEL 0952-97-4781 mail:info@la-campanella.net



ホームページ

ら・かんぱねら NEWS vol.03(表)

ら・かんぱねら NEWS

vol.03 2024.10
発行者：映画「ら・かんぱねら」を支援する会

La Campanella

**映画「ら・かんぱねら」遂に完成！
完成披露試写会の日程決定！！**

11月17日(日)
佐賀市文化会館
大ホール

初号試写に拍手が沸く！

8月13日 東京調布市の角川大映スタジオで、関係者約30人を招待して「初号試写（特別完成試写会）」が行われた。新たに編集された映像に、坂田明さんの音楽と効果音が入りドラマの起承転結を作り出していた。役者の皆さんが流暢な佐賀弁で芝居すると近親感が増して来て、映画の中に入り込んだ。ラストシーンは、感激の余り涙が込み上げてきたエンドロールも長いけど短く感じた。

試写が終わって、隣にいた鈴木一美監督に握手を求め「ありがとうございました」と感謝述べた時、会場から自然に拍手が沸き、改めて感激しました。試写で拍手が沸くことは珍しいと、カメラの丸池さんと照明の山川さんが説明してくれた。そして、これは大成功の兆しがあるとのお墨付きを頂きました。

あらすじ

有明海で海苔師一筋に生きてきた男がある日、リストの「ラ・カンパネラ」聴いて感動し、この曲を自分も弾きたいと決意する。しかし、周辺から、無謀だ・絶対無理など揶揄されながらもピアノに無縁な男は本気で挑戦を始める。就活する謎のピアニストからピアノを頂き、海苔小屋を改修した部屋で猛特訓が始まる。そして、妻の誕生日プレゼントに「ラ・カンパネラ」を弾く。無骨な男が家族愛、夫婦愛に包まれながら夢を叶えた海苔師の物語です。

鈴木監督を取り巻く三匹のオッサンたち

鈴村高正 丸池納 山川英明

製作配給委員会代表 撮影監督 照明監督

ゼネラルプロデューサー 宮司純子と寺島しのぶの親子 48作品以上の映画照明を担当。
高倉健、最後の作品「あなたへ」 共演。「待合室」や「眠る男」 代表作「島守の塔」「峰最後の
を担当 などを撮影 サムライ」など

初めて3人と対面した時、鈴木監督の姑たちだろうと思いました。いやいや撮影が始まると、そんな思いは吹き飛んだ。富士建設の会社を古湯温泉の山口旅館に早変わりさせる鈴村さん。昼も夜も雨も関係ありません、物語の場面にあった照明をしますと山川さん。役者の動きを見てカメラアングルを決めていく丸池さん。平均年齢が75歳とは思えない程の身のこなしで若々しい映像を作り上げています。映画を鑑賞すれば、直ぐに分かります。素晴らしいです。

Message from the Director

数十年前のロケ現場は、怒鳴り声が飛び交うものでした。その声でまた、やり合うシーンが見られました。今の現場は、静かなモノです。インカムで連絡が伝わり、ボスはモニターを見ながらの指示で済みます。映像モニターもそうですが、以前はケーブルを引き回していました。今スタッフが見るのは、ノートPCより手軽に持ち運びできるタブレットです。場所を問わず映像のチェックが出来て、作業がスムーズに進められます。また、役者の芝居を録音するマイクケーブルもそうです。地面を張り巡らせてミキサーと一緒にいました。今は、ワイヤレスの指向性が高いマイクで音をキチンと拾います。それに、照明もバッテリーが良くなり、小さな容量のものから大容量のバッテリーに変り、LEDライトで明るく長時間の撮影が叶うようになり、有明海の沖合でのロケでも役者さんの芝居が鮮やかに照らされます。何となくロケ現場に入り、いつもの様に撮影してきました。ふとロケ現場の床を見たら、整然としています。映画づくりの進歩を感じました。

監督 鈴木一美

<https://la-campanella.net>



文太 さん出番ですよ！

「文太さん寝ている場合ではないですよ」と声を掛けられても気づかず、トラックの運転席で爆睡する吉田信さん、愛称は文太さんで支援する会の人気者です。Facebookでも一番星桃次郎で登録するほど俳優の菅原文太さんが大好きで、直接会いに行った事は有名な話です。話題は尽きない伝説の持ち主の文太さん！自称トラック野郎を名乗っています。爆睡するには訳があります。この日も早朝4時からのロケが始まるため、早起きして撮影機材などを運ぶ車両担当のボランティアで、昼の食事を済ませポカポカと気候も良くなり睡魔が文太さんを襲ったものです。お疲れ様ですと労いたい気持ちです。でも、この時だけ静かです。直ぐにいつものパフォーマンスが始まります。「監督、いいですよ。やります！」と監督だけでなく・助監督・プロデューサーにも売り込みに全霊を尽くします。現場では笑いもありますが、独特な対応にはエキストラのスターとスタッフをも感心させました。映画「ら・かんぱねら」どのシーンに文太さんが出るか、楽しみながら鑑賞して頂ければ幸いです。



監督の側にピッタリ



サイン収集の結果



予定表を熟知する



川崎瑠奈さんと一緒に



エキストラ成功でピース

最高にうまい 佐賀海苔

～役者・制作スタッフが異口同音～



「僕の朝食は、パン食だったよ。でもねえ、佐賀で海苔と出会って、朝食はご飯に変えたよ」と目を細くして話してくれたのは、照明を担当された山川英明さんです。「熱いご飯に海苔を撒いて食べると最高だねえ。本当に日本人に生まれて良かったよ」とヒートアップしていく。製作スタッフや役者さんもまた、旨い佐賀海苔がこんなに大変な作業を通して一枚の板ノリに出来上がるとは、佐賀に来るまで知らなかった。そして、海苔漁師の苦労が分かりましたと感想を述べていました。この映画のモデルになった徳永義昭さんも、同じ海苔漁師の仲間として作業をやりながらリストの難曲「ら・かんぱね」を練習されたと、改めて凄さを実感したようでした。この海苔がロケ現場の食事の際、必ず添えられ佐賀の玉ねぎスープやレンコンなどと一緒に食卓を飾りました。佐賀には、日本酒も旨いし宝庫です。「もっと PR してください」と注文があり、スタッフから全国に広めましょうと励ましの言葉もありました。お土産は、佐賀海苔を一番多く買い求め自宅や友人に送っていました。最後は、佐賀最高と連呼でした。



親愛なる友に捧ぐ ～内田俊彦アドバイザーを追悼～

去る7月30日にお亡くなりになられた内田俊彦さんと共に志をひとつに映画「ら・かんぱねら」を支えたメンバーとして、心から哀悼の意を表します。俊彦さんは、60歳の退職まで漁協の職員として勤められ、常識者で知見、見識を合い適えた方で私をはじめ大勢の人に心のこもったアドバイスをする等、絶大なる信頼の持ち主でした。また、趣味も多彩で釣り用ボート、カラオケ、素潜り、バイクツーリングと多く華やかでした。特にバイクは複数台有する程で、40年近く続くツーリングクラブの会長を務めて頂きバイクの楽しさを教えてくれた人でした。俊彦さんを映画「ら・かんぱねら」の支援する会のスタッフに誘ったのは私でした。経験豊富な知識を生かして貰おうとお願いした所、支援する会の発会前から規約、定款作りに尽力を頂き、支援する会のアドバイザーとして活躍されました。その他、車両班として、映画の準備が進む中、マイクロバスを運転し福岡空港まで製作スタッフを出迎える。ロケ中は、早朝から深夜に至るまで送迎に努め、独特な口調で話し掛けで疲れているスタッフの気持ちを和らげて感謝されていました。また、



PR隊としても映画のモデルになった徳永義昭さんのピアノコンサートなどでは、チラシを配ったり募金をお願いしたりと支援の輪を広める活動をされていました。支援する会のために一生懸命行動され、充実した日々を送られていた姿が今でも目に浮かびます。俊彦さん、念願だったスタッフ一同が揃った特別試写会を観る事は叶いませんが、一番良い席を用意しますので一緒に楽しみましょうね。

合掌 BOSS 川崎賢朗



ら・かんぱねら NEWS Episode 0.5(表)

La Campanella News

Episode 0.5



映画のたまご（オールラッシュ）

東京調布市の角川大映スタジオに着いた3人は、久しぶりに再会する映画スタッフの熱烈な歓迎に、少し照れくさい仕草を見せた。

一応の挨拶を済ませた後、スタジオ地下にある試写室に案内された。3人とは、映画「ら・かんぱねら」を支援する会のBOSS川崎賢朗・事務長川原常宏・デスク鐘ヶ江留美子で、支援する会が発足前から準備を進め、苦労を重ね映画製作に多大な貢献をした人たちです。

「3人がいなかつたら映画製作は無い」とも言われている。お礼を込めて誰よりも早く「オール・ラッシュはまず、3人に見て貰って」感動を支援する会のメンバーに伝えてほしいとの配慮から行わられたものです。



製作の鈴村代表、鈴木監督と角川スタジオにて

【BOSS】監督からの誘いでオールラッシュ！映画のたまごを観てきました。佐賀を出発する時は楽しみ半分、不安半分が正直な気持ちでしたが、試写会はロケで仲良くなったスタッフがいて懐かしい中で始まりました。試写会が始まってすぐに不安は解消し、音楽や効果音が加えられた完成作を早く大きなスクリーンで観たりました。

【事務長】台本を読み何度も涙させられたが、オールラッシュを観て、ロケの準備、撮影、炊き出しなど、これまでみんなでやってきたことを想い出し思わず涙が込み上げてきました。

【デスク】「ら・かんぱねら」一足先に観てきました。伊原さんが奏でる「ラ・カンパネラ」を是非スクリーンで聴いて欲しいです！皆さんご期待ください！感動をお届けします！

佐賀市川副町小々森の旧田中邸に、映画「ら・かんぱねら」の主役が住む徳田邸のセットが作られた。美術・装飾のプロデューサー達が本気で素晴らしいセットに仕上げた。台所を覗くと食事シーンのための料理が盛り付けられていた。その中心に居るのが川原麻子さん。支援する会の川原常宏事務長の奥様で、通称「麻ママ」。人気者で事務局を切り盛りしているひとりです。何を隠そう「麻ママ」こそが、この映画を決意させた真の「立役者」なんです。鈴木監督が三年に渡って通い、海苔師のピアニスト徳永義昭さんをモデルにした映画づくりを訴え続けたが、中々いい返事を出さないBOSS。そんな時に普段は穏やかな麻ママが「なんばグジグジしよっとね！」と喝！この一言でBOSSの不安を払拭させ、頑張ろうと決意した。その後、順調に進み映画「ら・かんぱねら」を支援する会が発足し、現在に至ったという逸話があります！



先行ロードショー

2025.1.31 (金) イオンシネマ佐賀大和

2025.2.21 (金) イオンシネマ福岡・筑紫野・大野城・戸畠・熊本



ら・かんぱねら NEWS Episode 0.5(裏)

La Campanella News *Episode 0.5*



的確に指示を出す佐々木成人君!

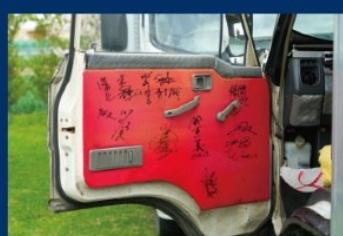


文太さん、出番ですよ！

「文太さん寝ている場合ではないですよ」と声を掛けられても気づかず、トラックの運転席で爆睡する吉田信さん、愛称は文太さんで支援する会の人気者です。Facebookでも一番星桃次郎で登録するほど俳優の菅原文太さんが大好きで、直接会いに行つた事は有名な話です。話題は尽きない伝説の持ち主の文太さん！自称トラック野郎を名乗っています。爆睡するには訳があります。この日も早朝4時からのロケが始まるため、早起きして撮影機材などを運ぶ車両担当のボランティアで、昼の食事を済ませポカポカと気候も良くなり睡魔が文太さんを襲ったものです。お疲れ様ですと労いたい気持ちです。でも、この時だけ静かです。直ぐにいつものパフォーマンスが始まります。「監督、いいですよ。やります！」と監督だけでなく・助監督・プロデューサーにも売り込みに全霊を尽くします。現場では笑いもありますが、独特な対応にはエキストラのスターとスタッフをも感心させました。映画「ら・かんぱねら」どのシーンに文太さんが出るか、楽しみながら鑑賞して頂ければ幸いです。



監督の側にピッタリ



サイン収集の結果



予定表を熟知する



川崎瑠奈さんと一緒に



エキストラ成功でピース



ボランティアスタッフの真心のおもてなし

俳優さんも映画スタッフも大満足のおもてなし！延べ100名を超える炊き出し隊では、支援する会のスタッフに加え、南川副・早津江・大詫間・広江・諸富などJF有明海漁協女性部の皆様が、海苔スープ、豚汁、しし汁、玉ねぎスープなどの汁ものから、シシリアンライスや豚丼、カレー、おでんなど、それぞれ思考を凝らしたお料理でおもてなしを行いました。炊き出し風景は、主演の伊原剛志さんのinstagramで動画配信して頂いております。



発行者： 映画「ら・かんぱねら」を支援する会

佐賀県佐賀市南佐賀2丁目6-3 TEL 0952-97-4781 mail:info@la-campanella.net

親愛なる友に捧ぐ

～内田俊彦アドバイザーを偲んで～

映画「ら・かんぱねら」を支援する会

BOSS 川崎 賢朗

去る7月30日にお亡くなりになられた内田俊彦さんと共に志をひとつに映画「ら・かんぱねら」を支えたメンバーとして、心から哀悼の意を表します。

俊彦さんは、60歳の退職まで漁協の職員として勤められ、常識者で知見、見識を合い適えた方で私をはじめ大勢の人に心のこもったアドバイスをする等、絶大なる信頼の持ち主でした。また、趣味也多彩で釣り用ボート、カラオケ、素潜り、バイクツーリングと多く華やかでした。特にバイクは複数台有する程で、40年近く続くツーリングクラブの会長を務めて頂きバイクの楽しさを教えてくれた人でした。

俊彦さんを映画「ら・かんぱねら」の支援する会のスタッフに誘ったのは私でした。経験豊富な知識を生かして貰おうとお願いした所、支援する会の発会前から規約、定款作りに尽力を頂き、支援する会のアドバイザーとして活躍されました。その他、車両班として、映画の準備が進む中、マイクロバスを運転し福岡空港まで製作スタッフを出迎える。口ケ中は、早朝から深夜に至るまで送迎に努め、独特な口調で話し掛けて疲れているスタッフの気持ちを和らげて感謝されていました。

また、PR隊としても映画のモデルになった徳永義昭さんのピアノコンサートなどでは、チラシを配ったり協賛金をお願いしたりと支援の輪を広める活動をされていました。

支援する会のために一生懸命行動され、充実した日々を送っていた姿が今でも目に浮かびます。俊彦さん、念願だったスタッフ一同が揃った特別披露試写会を観る事は叶いませんが、一番良い席を用意しますので一緒に楽しみましょうね。 合掌



(内田さんの娘・遼子さん)

「ら・かんぱねら」の完成おめでとうございます。この作品は、佐賀の魅力で溢れていて、中でも海苔養殖については非常に詳しく描かれ、今年度から海苔に関連する仕事に就いた私にとって非常に勉強になりました。父は、支援する会のメンバーとして映画に関わらせて頂いていましたが、支援する会の活動をはじめてからはより一層生き生きとしており、この活動が父の「生きがい」となっていました。「今日もかんぱねらに行くけん」と楽しそうに準備をしている様子は今でも覚えています。

完成した作品をみんなと一緒に観る事が叶わず、非常に悔やんでいる事だと思います。クセの強い父を温かく迎え入れ、優しく接して頂いた支援する会のみなさまに感謝致します。ますますのご発展を心よりお祈り申し上げます。

(内田俊彦さん)

上司は天国の映画館で観賞してます

～原征治さんを偲んで～

映画「ら・かんぱねら」を支援する会

支援チーム 古川 彩華



この度は、映画「ら・かんぱねら」の完成おめでとうございます。

私はSNSでの情報発信の担当として支援する会に参加させていただきました。仕事の都合によりあまりお力添えできませんでしたが、仕事先である障がい者支援施設での缶バッジを製作したことにより障害者の人達も社会貢献できた喜びの一つになったのではないかと思います。

この作品には、佐賀市内の浪漫座やレトロ館、それに有明海での海苔養殖など撮影された箇所に佐賀県の魅力が溢れています。一緒に活動していた前職の上司である原征治さんと完成した映画を観れなかったのは、とても悔しい気持ちでいっぱいです。

原さんのことだから天国の映画館で「ら・かんぱねら」を観ながら、主演の伊原さんをかつこいいとか、南さん美人とか呟いていそうです！ひとりで試写会にいきましたが、いろんな方が私に声をかけてくださいました。

支援する会の素敵なスタッフのみなさんと関われる機会を与えてくださったことに感謝いたします。益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

全15段(1面)広告 佐賀新聞 2025.1.26

(第三種郵便物認可)

佐 賀 新 聞

2025年(令和7年)1月26日(日曜日)

【広 告】

12

CAST



夢を応援した、たくさんの仲間たち!



伊原剛志

南果歩

不破万作

緒形敦

枝元萌

田中がん

鹿毛喜季

川崎瑠奈

江口直人・森慎太郎(どぶろっく)

大空眞弓

夢を弾く
届けたい、
こころの音色を



ら・かんぱねら

県内ロケ、
佐賀県民も
多数出演!

いよいよ 1/31(金)
イオンシネマ佐賀大和で公開開始!

この曲を弾きたい!
52歳の本気の挑戦がはじまる

九州・佐賀の有明海で海苔漁師として生きてきた男が、
ある日、フランツ・リストの名曲「ラ・カンパネラ」を聴いて感動。
自ら弾いてみたいと、周囲の反対を押し切り猛練習を重ねる。
プロのピアニストもひるむほどの難曲に、52歳の男の本気の挑戦がはじまる――。

監督・企画 鈴木一美

製作 鈴村高正 鈴木一美 プロデューサー 鈴木一美 川口浩史 モデル 徳永千恵子
脚本 沢澤美恵子 鈴木一美 音楽 坂田明 有木竜郎 プログラミングマネージャー 桑山祐之 撮影 丸池鶴 照明 山川英明 美術 黒瀧きみえ
監修 丸山鵬 診音 清水謙一郎 編集 村上雅樹 広報宣伝プロデューサー 桑山祐之 北村和秀 振替 コチ・プラン・ピクチャーズ
製作協力 映画「ら・かんぱねら」を支援する会 製作 京映アーツ / コチ・プラン・ピクチャーズ
特別協力 佐賀県 佐賀市

協賛 JF佐賀県有明海漁業協同組合 / 佐賀県立佐賀東高等学校 不知火同窓会 / 株式会社サン海苔 / 戸上グループ / 久光製薬株式会社

C2025「ら・かんぱねら」製作委員会(京映アーツ / コチ・プラン・ピクチャーズ)



C&R

株式会社 佐賀 シコピーサービス RICOH Office Partner

JJAバンク佐賀

株式会社 西日本企画サービス

メガネのヨネザワ

みんなに出逢えて良かった

映画「ら・かんぱねら」を支援する会

デスク 鐘ヶ江 留美子

2022年初夏 佐賀東高敷地内にある不知火同窓会事務局のドアがノックされ「どうぞ～」のかけ声と共に3人の男性が入ってくる。あ、徳永さんだ… 私が“映画ら・かんぱねら”と縁が繋がった瞬間でした。

「今度、徳永義昭さんをモデルにした映画を作る事になったんだよ」と鈴木一美監督。「同窓会さんにもお世話になると思います」と川口浩史プロデューサー。へえ～映画作るんだ～。この時戴いた「極秘」の印が押された台本を読む事なく一年放置した私は、2023年6月、一度の熟読で同窓会の事務局を兼ねてデスクを受ける覚悟をするのでした。

まだ事務所もない、パンフレットもない、ポスターもない、もちろん名刺もない。ないないづくしの中で「極秘」の台本一冊を手に、毎日毎日支援する会を立ち上げる準備に奔走するBOSS(川崎賢朗さん)と常さん(川原常宏さん)それに監督。協賛用の口座や郵便振替用紙を作るのにどれだけの時間を割いただろう…。規約も作らなきゃ、発会式には何が必要?メディアはどうする?手探りの状態から始まった、これが支援する会のスタートでした。これが一年後とんでもない会へと変貌を遂げます。協賛金集め、オーディション、炊き出し、試写会。スタッフみんなの結束力は凄いものがありました。どんなに大変でも常に笑顔で場の雰囲気を明るくしてくれます。いつも私達を助けてくれました。

監督、第二の人生への大きな一歩となりました。声を掛けていただきありがとうございました!BOSS、時にお互いの意見がぶつかる事もありましたね。でもBOSSだったからついて行けました。常さん、どこに持つていって良いか分からぬ気持ちを何度も聞いて貰った事か。あの時の涙は忘れません。そしてスタッフのみんな。みんなが居なければこの映画をここまで盛り上げることは出来ませんでした。感謝の気持ちでいっぱいです。映画「ら・かんぱねら」と「みんな」は私の財産です!みんなに出逢えて良かった!本当に本当にありがとう!

最後に一步を踏み出せずにいた私の背中を押してくれた子供たち、これからもよろしく。内田さん、原さん、天国からみんなの姿見えてますか。



映画に携わってくださった皆様に感謝

映画「ら・かんぱねら」を支援する会

事務長 川原 常宏

先ずは、この映画に関わって頂いた皆様に心より感謝を申し上げます。エンドロールに流れるお名前その他にも、本当に多くの方々、おひとりお一人のご支援やご協力が、この映画を完成に導いて頂けたものと思っております。

映画をつくりたいという鈴木監督の想いが、ほんの小さな火種となり、ここまで広がり盛り上がったのは、陣内会長率いる映画「ら・かんぱねら」を支援する会の役員の皆様、そして、仕事の傍ら支援する会の縁の下を支えてくれたスタッフのみんなのお陰です。

この支援する会を立ち上げるにあたり、陣内会長や西久保副会長が、やろうと！という決断をして頂けなかったら、この映画は動いていなかつたと思います。また、佐賀の映画を創るために力を貸して頂いた理事の皆様がいなかつたら、この映画は…。

私自身もそうですが、みんなが初めての経験という中で、何をどうやればいいのかも分からず手探りでの事務局運営となりました。完成まで幾多の壁があり、それをみんなでひとつひとつ乗り越えてきました。本当に大きな壁を！その壁を乗り越える度に、スタッフの結束力が強まり、それぞれの心に自分たちの映画を創るという「夢」が芽生えてきたのではないかと思います。

主演の伊原剛志さんや南果歩さん、そして不破さんからも「この映画は皆さんの映画ですよ！」と言って頂いた事は、みんなの心のこもった撮影サポートやその結束を感じて頂けたからではないかと思います。

私自身もこの「夢」を成し遂げるために、走り続けてきました。みんながいてくれたから、走り続けられたし、みんながいてくれたからこの「夢」を叶えることができました。そして、みんなでみんなの「夢」を叶えることができ、映画が無事に生まれました。

この映画をひとりでも多くの皆さんに観ていただける事を願い、この映画「ら・かんぱねら」に携わって頂いた全ての皆様に心より感謝申し上げます。私たちに「夢」を持つきっかけをつくってくれた鈴木監督、ありがとうございます！

最後に、この映画のモデルとなった徳永義昭さんと奥様に、敬意と心からの感謝を申し上げます。



スタッフのみなさん、お疲れ様でした

映画「ら・かんぱねら」を支援する会

事務局長 川崎 賢朗

振り返れば2023年春、川原常宏くんと鐘ヶ江留美子さんと私の3人からのスタートでした。

夏頃には少しずつ集まり始め10月の支援する会立ち上げの時には、組織図が出来上がりました。2024年に入ると本格的に協賛金集めに没頭し、2月に入ると連日徹夜状態でのエキストラオーディション募集の作業。終わったと思ったら2日間のオーディションに対するクレーム処理、3月に入りクランクインするとロケのお手伝い、車の手配や運転、炊き出しと沢山の人々に頑張って頂きました。

そして夏を迎える頃には映画のPR活動が本格化し始めました。秋になると特別披露試写会のチケット発送、会場下見や配置の確認、本番と振り返ればあっという間の濃ゆ過ぎる2024年でしたね。

今年2025年に入り1月31日一般公開の時も3日間満席プロジェクトを立ち上げ、ヘトヘトになりながらみんなの力で3日間満席にする事が出来ました。そんな時、いつも疲れを吹き飛ばしてくれたのは笑顔で迎えてくれるスタッフルームがあったからだと思います。沢山の皆さんに絶大なるご協力を頂き数々のミッションをクリアさせてきました。

スタッフの皆さん本当にありがとうございました。そしてお疲れ様でした。



おわりに

事務局長 川崎 賢郎

皆さん覚えていますか？

一昨年の支援する会の発会式が終わり、マスコミ取材の時のことです。女性の記者さんからの質問の中に、この映画の作り方は「佐賀モデル」ですねと尋ねられました。

その時は、協賛金を募って映画を作るやり方を言わっていました。そして支援する会も目標金額1億5千万円の協賛金を集め映画を作るのが、最大の課題であり使命だと思っていました。

しかし実際には協賛金集めは勿論ですが、出演者を決めるオーディションも県内外から凄い数の応募者があり、リストの登録、連絡、進行、それに伴う多くの問い合わせやクレームの処理まで、支援する会が前面に出て動いていました。ロケーションでもそうです。ロケ現場を作り上げるための大量の家具、生活用品の搬出から掃除等、その他にも食事をするテント、イス、場所の確保に至るまで、支援する会のネットワークを活かし、友人、知人、そして各種団体などから調達したのです。

また、ロケ中に至っても、車両の提供のみならず運転、映画に出てくる美味しいそうな料理、小物など、少ない製作スタッフをサポートしていました。支援する会のみならず、漁協の女性部の皆さんも協力をいただき、ロケ中の食事にも大いに喜んでもらいました。ロケ中のお弁当は冬の終わりとはいえ直ぐに冷たくなりました。そこで料理や温かい汁物を作り俳優さんや製作スタッフの胃袋を温かくし、やる気を起こさせたりモチベーション維持に一役かっていました。約1ヶ月間、みんなよく頑張ってくれました。

10月行った漁業者向けの特別試写会、一般向けの11月17日の完成披露試写会も支援する会が主体となって開催しました。完成披露試写会では、当日ポスターやチラシが使えないなどのトラブルを乗り越えて、大盛況に終える事が出来ました。

年が明け1月31日から、イオンシネマ佐賀大和で始まった一般公開での舞台挨拶や満席プロジェクト、館内整理のお手伝い。満席が続き館内の発券機には、毎日長蛇の列が出来ている状態が発生していた。そんな中、お客様に気持ちよく映画を観ていただきたい一心で、自主的に行動を起こし、お助け隊を結成して毎日早朝から笑顔でサポートを行ったスタッフたち。

このような行動が1館で2万人超えの奇跡を産み、全国へと繋がって行ったのです。こうして支援する会スタッフは困難を乗り越える度にスキルが上がり、自主性が出てきたのです。

最後に紹介しますが、宣伝配給スタッフにも頼もしいウチのスタッフが入っています。前職のスキル、人脈を最大限に活用して、舞台挨拶の段取り、司会はもとよりマスコミを使った映画の宣伝、映画館の掘り起しなど、多岐に渡り今なお活躍を続けてくれています。

これが幾度となく困難を乗り越えて創りあげた真の「佐賀モデル」ではないでしょうか。

仕事を終えると、かじかんだ
手をねるま湯につけては
ピアノの鍵盤を叩いていた
男のことを見は知つていて
いる

映画「ら・かんぱねら」

監督 鈴木一美



編集委員会委員長
副委員長
編集長
副編集長
委員

写真提供

川崎 賢朗
川原 常宏
北村 和秀
鐘ヶ江 留美子
千住 友二 飯田 豊一
藤田 佳典 進 智恵
池田 史子 古賀 宏
石隈 由紀子
製作配給委員会



発 行 映画「ら・かんばねら」を支援する会
発行人 川崎 賢朗